

# 新潟市文化財センター年報

## 第9号

—令和2（2020）年度版—

2022

新潟市文化財センター

# 新潟市文化財センター年報

## 第9号

—令和2（2020）年度版—



江南区曾我墓所遺跡出土鉄製錫杖のX線CT画像合成写真（奈良時代）  
（新潟県工業技術総合研究所作成）

2022

新潟市文化財センター



# 新潟市文化財センター

## 【設 置】

新潟市文化財センターは、埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、活用を図ることにより、これらに対する市民の関心及び理解を深め、もって市民文化の向上に資するため、『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第30条の規定に基づき設置された教育機関です。

## 【事 業】

- ① 埋蔵文化財の調査及び研究に関すること。
- ② 発掘調査などにより出土した考古資料の収集及び保存並びに公開、そのほかの活用に関すること。
- ③ 有形民俗文化財の保存及び活用に関すること。

新潟市内には旧石器時代から江戸時代に至る800か所の遺跡が知られています（令和3年3月末）。平成17（2005）年の14市町村による広域合併後の各種開発事業などの増加に伴い、発掘調査も増加の一途をたどりました。その後も継続して発掘調査は一定数行われており、毎年新たに遺跡も発見され、遺跡数も年々増加しています。また、それらに伴う出土遺物や記録類も増えています。

文化財センターは各種開発事業や史跡整備などに伴う発掘調査を行い、埋蔵文化財の調査研究・収蔵保管・展示活用を進めていくために平成23（2011）年7月に開館しました。

文化財センターには、民俗資料収蔵庫も併設しており、敷地内には新潟市指定文化財の旧武田家住宅や畜動舎を移築復元しています。



新潟市文化財センター及び旧武田家住宅  
撮影：佐竹 浩一



## ご 挨拶

新潟市文化財センターは、北区の旧太郎代小学校に所在していた旧新潟市埋蔵文化財センターを平成23年に現在地である西区木場へ新築移転するのに併せ、旧黒埼常民文化史料館として利用されてきた旧武田家住宅をセンター敷地内に移築整備し、「新潟市文化財センター」と改称しました。

今年度、開館10周年（令和3年7月30日）を迎えたところでございます。

この10年の間、当センターでは、埋蔵文化財及び有形民俗文化財の調査・研究の役割を担うとともに、その調査・研究成果を市民の皆様へ還元する活用事業に取り組んでまいりました。

調査・研究につきましては、道路事業や圃場整備事業、各種の開発事業に伴う本発掘調査を実施し、数多くの遺物や遺構を発見し、その整理に努めてきました。

活用事業では、常設展示や企画展の開催、遺跡にかかる講演会や発掘調査現地説明会などを毎年実施してきたほか、小学校の校外学習の受け入れでは、ボランティアさんのご協力のお陰もあり、ご来館いただいた多くの学校の児童から喜んでいただきました。

この10年の歩みを踏まえ、今後も、調査・研究とその成果の活用に積極的に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

なお、この10年間、当センターの運営にあたりまして、専門的見地から、また幅広い見地からご指導いただきました当センター運営協議会、史跡古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会、同確認調査指導部会の委員皆様ほか関係各位に対しまして、厚く御礼を申し上げます。

それでは、令和2年度に当センターが行いました主な活動をご紹介します。詳細につきましては本編をご覧ください。

はじめに、発掘調査では、下水道雨水貯留池建設に伴う曾我墓所遺跡（江南区横越）、新潟中央環状道路建設に伴う道正遺跡・岡崎遺跡（江南区割野）、個人住宅建設に伴う平遺跡（秋葉区小口）、原遺跡（秋葉区程島）、また確認調査として、国史跡に指定されています古津八幡山遺跡（秋葉区古津）の6遺跡を発掘調査しました。

次に整理作業では、両新地区県営圃場整備事業に伴う細池寺道上遺跡（秋葉区、平成21・22年度調査）と個人住宅建設に伴う秋葉遺跡（秋葉区、平成29年度調査）の2遺跡の発掘調査について報告書を刊行しました。このほか、発掘調査中のものを含め6遺跡について整理作業を進めました。なお、平成17年度に始まりました両新地区県営圃場整備事業に伴う発掘調査につきましては、今回の報告書刊行をもって16年に及ぶ発掘調査事業を完了することができました。

次に、活用事業ですが、企画展については、当センターと弥生の丘展示館での開催を合わせまして計6回の企画展を開催しました。

また、団体利用では、小学校の校外学習などで、両館合わせまして、37団体、1,674人にご来館いただいたほか、当センターから中学校や公民館などへ職員が出向く出前講座では、23団体、1,643人にご利用いただきました。

なお、令和2年度の両館合わせた来館者数は、34,996人であり、新型コロナウイルスによる自粛生活や臨時休館により例年の半分程度となりました。

最後となりますが、当センターは、今後とも、埋蔵文化財及び有形民俗文化財の調査・研究に励み、またその成果を市民の皆様に分かり易くお伝えしていきたいと考えています。

市民の皆様におかれましては、文化財保護行政に対する暖かいご支援とご協力を引き続き賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和4年3月

新潟市文化財センター所長 板垣 正人

新潟市文化財センター・新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場10年年表

	年月	新潟市文化財センターの主な出来事	新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場関係の主な出来事	主な発掘調査	
2011(平成23)年度 (所長 高橋保: 県より派遣)	2011年7月	新潟市文化財センター開館		結七島遺跡(第24次)・中谷内遺跡(第15次)・内野遺跡(第8次)・細池寺道上遺跡(第32次)・大沢谷内遺跡(第19次)・古津八幡山遺跡(第17次)	
	2011年8月	開館記念シンポジウム『遺跡からさぐる新潟の原点』開催			
	2012年2月	平成23年度新潟市遺跡発掘調査速報会開催			
2012(平成24)年度 (所長 高橋保: 県より派遣)	2012年4月		史跡古津八幡山弥生の丘展示館開館 新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場暫定公開	大沢谷内遺跡(第20次)・峰岡山遺跡(第2次)・内野遺跡(第9次)・中谷内遺跡(第16次)・西江浦遺跡(第3次)・細池寺道上遺跡(第30次)・日水遺跡(第6次)・下新田遺跡(第6次)・古津八幡山遺跡(第18次)	
	2013年3月	平成24年度新潟市遺跡発掘調査速報会開催			
2013(平成25)年度 (所長 中野俊一)	2013年8月	シンポジウム『蒲原平野の王墓古津八幡山古墳を考えるー1600年の時を越えてー』開催		小丸山東遺跡(第1・2次)・大沢谷内遺跡(第21次)・峰岡上町遺跡(第3次)・細池寺道上遺跡(第41次)・下新田遺跡(第8・9次)・古津八幡山遺跡(第19次)	
	2014年3月	平成25年度新潟市遺跡発掘調査速報会開催			
2014(平成26)年度 (所長 中野俊一)	2014年4月	企画展1『県史跡 的場遺跡・緒立遺跡展ー平野に造られた古墳と古代役所ー』開催(4/1~6/1)		細池寺道上遺跡(第43・44次)・手代山北遺跡(第4次)	
	2014年6月	企画展2『新潟県最古の弥生文化 緒立遺跡展 緒立遺跡と黒埼地方史研究会の活動ー縄文の終末と弥生の始まりを求めてー』開催(6/3~8/3)			
	2014年8月	企画展3『出土品を残す技術』開催(8/5~11/30)			
	2014年12月	企画展4『古代遺跡の多様性~変化に富んだ自然と人々の営み~』開催(12/2~3/29)			
	2015年2月	平成26年度新潟市遺跡発掘調査速報会開催			
2015(平成27)年度 (所長 中野俊一)	2015年4月	企画展1『蒲原の王墓 古津八幡山古墳と豪族の屋敷』開催(4/7~5/10)	企画展1『古津八幡山古墳の築造と復元整備』開催(4/7~6/28) 新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場全面公開 特別企画展1『史跡古津八幡山遺跡の発掘調査と復元整備の歴史』開催(会場:新潟市新津美術館市民ギャラリー) (4/21~5/6)	舟戸遺跡(第25次)・細池寺道上遺跡(第46次)・鳥瀬遺跡(第5次)	
	2015年5月	企画展2『史跡古津八幡山遺跡の発掘調査と復元整備の歴史』開催(5/19~7/12)			
	2015年7月	企画展3『発掘された江戸時代の港町 近世新潟町展』開催(7/17~10/4)	企画展2『蒲原の王墓 古津八幡山古墳と豪族の屋敷』開催(7/7~10/4)		
		館外展示1『ふむむむタイムスリップ第3回「接斎割」』開催(会場:新潟日報情報館COMPASS) (7/1~7/31) 館外展示2『古津八幡山古墳の築造と復元整備』開催(会場:新潟市江南区郷土資料館) (7/25~8/23)			
	2015年9月		特別企画展2『絵で見るむかしの日本ー早川和子原画展ー』開催(会場:新潟市新津美術館市民ギャラリー) (9/15~9/27)		
	2015年10月	企画展4『絵で見るむかしの日本ー早川和子原画展ー』開催(10/14~11/23)	企画展3『邪馬台国の時代1 北陸と会津を結んだ古津八幡山ー東北部(会津)の世界ー』開催(10/6~12/27)		
	2015年11月	館外展示3『身近な歴史ギャラリー 新潟市の交流』(会場:西新潟市民会館1階ギャラリー) (11/5~11/11)			
	2015年12月	企画展5『遺跡と民俗から見る稲作 新潟市の弥生時代から鎌倉・室町時代までの稲作関連遺跡と黒埼に伝わる農具』開催(12/5~3/27)			
	2016年1月		企画展4『邪馬台国の時代2 縄文のある弥生土器ー新潟県北部(阿賀北)の世界ー』開催(1/5~3/27)		
	2016年2月	平成27年度新潟市遺跡発掘調査速報会開催			
2016(平成28)年度 (所長 松田賢一)	2016年4月	企画展1『水辺に栄えた縄文社会』開催(4/12~7/18)	企画展1『舟戸遺跡を解明する』開催(4/12~7/3)	大沢谷内遺跡(第25次)・細池寺道上遺跡(第48次)・芥木遺跡(第3次)	
	2016年7月	企画展2『北区の古墳時代』開催(7/26~10/1)	企画展2『邪馬台国の時代3 古津八幡山の頃の信濃川右岸の世界』開催(7/12~9/25)		
	2016年8月	館外展示1『江南区発掘物語』開催(会場:江南区郷土資料館) (8/3~8/24)			
	2016年10月	企画展3『古いとまじないー今に伝わる中世の習俗ー』開催(10/18~1/9)	企画展3『遺跡、古環境から見た古津八幡山古墳の時代』開催(10/4~12/18)		
	2016年11月	館外展示2『赤塚の遺跡』開催(会場:西区赤塚中学校体育館) (11/6)			
	2017年1月	企画展4『新潟市の遺跡から見える律令時代ー八・九世紀の新潟市ー』開催(1/17~3/26) 平成28年度新潟市遺跡発掘調査速報会開催	企画展4『邪馬台国の時代4 古津八幡山の頃の信濃川左岸の世界ー六地山遺跡里帰り展ー』開催(1/4~3/26)		
	2017年4月	企画展1『砂丘と遺跡Iー信濃川左岸の砂丘上の遺跡ー』開催(4/18~7/2)	企画展1『古津八幡山遺跡の保存・活用』開催(4/4~6/25) 第1回古津八幡山遺跡フォトコンテスト入賞作品展開催(4/29~6/4)		
2017(平成29)年度 (所長 外山孝幸)	2017年7月	企画展2『新津丘陵の縄文社会を探索ー土器に混じる砂粒の情報ー』開催(7/11~10/1)	企画展2『鐵(てつ)ー北陸における鉄生産ー』開催(7/4~9/24)	赤縮砂山遺跡(第5次)・細池寺道上遺跡(第50次)・浦木東遺跡(第3次)・亀田道下遺跡(第2次)・秋葉遺跡(第12次)・程島館跡(第7次)・古津八幡山遺跡(第20次)	
	2017年10月	館外展示1『国史跡 古津八幡山遺跡の過去と未来ーこれまでの発掘調査・整備とこれからの保存活用ー』開催(会場:江南区郷土資料館) (7/29~8/28)			
	2017年10月	企画展3『角田・弥彦山麓周辺の古墳時代を探索ー西蒲区周辺の古墳時代ー』開催(10/11~1/8)	企画展3『古墳時代のお祭りー石に籠めた祈りー』開催(10/3~12/17)		
	2018年1月	企画展4『木製品から見た中世のくらしー南区の低湿地遺跡ー』開催(1/16~3/29)	企画展4『邪馬台国の時代5ー柏崎・上越・頸城の世界ー』開催(1/4~3/25)		
	2018年2月	平成29年度新潟市遺跡発掘調査速報会開催			
2018(平成30)年度 (所長 渡邊朋和)	2018年4月	企画展1『砂丘と遺跡IIー亀田砂丘ー』開催(4/10~7/16)	企画展1『古代の祭祀』開催(4/24~7/29) 第2回古津八幡山遺跡フォトコンテスト展開催(4/24~6/3)	前山遺跡(第6次)・程島館跡(第9次)・原遺跡(第10次)・川根谷内遺跡(第6次)・砂前前郷遺跡(第3次)・古津八幡山遺跡(第21次)	
	2018年7月	企画展2『飾物館ー近世新潟町の職人ー』開催(7/24~11/25)			
	2018年8月		企画展2『豪族居館ー王の墓らす屋敷ー』開催(8/7~12/2)		
	2018年12月	企画展3『西蒲区の隠れた宝ものー縄文時代から幕末までー』開催(12/4~3/24) 新潟市遺跡発掘調査速報会2018開催	企画展3『邪馬台国の時代6 鐵ー弥生・古墳時代の鉄器ー』開催(12/11~4/14)		
2019(令和元)年度 (所長 渡邊朋和)	2019年4月	企画展1『砂丘と遺跡IIIー阿賀北の砂丘上の遺跡ー』開催(4/16~7/15)	企画展1『古津八幡山遺跡発掘調査速報展』開催(4/23~6/2) 第3回古津八幡山遺跡フォトコンテスト展開催(4/23~3/29)	曾我墓所遺跡(第2次)・道正遺跡(第2次)・古津八幡山遺跡(第22次)	
	2019年6月		企画展2『弥生時代から古墳時代の大型建物ー古津八幡山遺跡の大型竪穴住居と掘立柱建物を考えるー』開催(6/11~10/27)		
	2019年7月	企画展2『小学生の?からさぐるにいがたのめきし』開催(7/23~11/4)			
	2019年11月	企画展3『成熟した狩猟・採集社会ー縄文時代晩期の角田山麓御井戸遺跡からー』開催(11/19~3/15)	企画展3『邪馬台国の時代7 弥生時代後期の北越と北陸・長野との交流ー天王山式土器から考えるー』開催(11/6~3/29)		
2020(令和2)年度 (所長 渡邊朋和)	2020年2月	新潟市遺跡発掘調査速報会2019・ミニシンポジウム『縄文晩期の拠点集落 御井戸遺跡を探索』開催			
	2020年4月	企画展1『近世新潟町展2』開催(4/14~9/6)	企画展1『古津八幡山遺跡発掘調査速報展2ー令和元年度の発掘調査成果ー』開催(4/14~9/6)	道正遺跡(第3次)・峰岡遺跡(第4次)・曾我墓所遺跡(第3次)・原遺跡(第12次)・平遺跡(第9次)・古津八幡山遺跡(第23次)	
	2020年9月	企画展2『天王山式土器からみた東日本の弥生社会ー古津八幡山遺跡成立期の動向(第1会場)』開催(9/15~12/20)	企画展2『天王山式土器からみた東日本の弥生社会ー古津八幡山遺跡成立期の動向(第2会場)』開催(9/15~12/20)		
	2021年1月	企画展3『林付遺跡展ー発見された地名「川合(川井)」と古代荘園「川井庄」ー』開催(1/9~3/28)	企画展3『大沢谷内遺跡展ーアスファルトを利用した縄文時代から中世の遺跡ー』開催(1/5~3/28)		
	2021年2月	新潟市遺跡発掘調査速報会2020開催			
2021年4月	企画展1『地下2メートルの考古学ー低湿地の遺跡からわかる人々のくらしー』開催(4/20~9/5)	企画展1『古津八幡山遺跡発掘調査速報展 令和2年度の発掘調査成果ー』開催(4/27~9/5)			
2021(令和3)年度 (所長 板垣正人)	2021年9月	企画展2『細池寺道上遺跡からさぐる能代川流域の古代』開催(9/17~12/19)	企画展2『倭国大乱ー律令国家成立までの越後平野』開催(9/17~12/12)	道正遺跡(第4次)・古津八幡山遺跡(第24次)	
	2022年1月	企画展3『開館10周年 文化財センターの10年と発掘調査史』開催(1/9~3/27)	企画展3『新津丘陵の縄文遺跡ー文様と形のうつり変わりー』開催(1/5~3/27)		
	2022年2月	新潟市遺跡発掘調査速報会2021開催			
	2022年2月				





新潟市文化財センター開館式（2011年7月29日）



文化財センター展示室 1



文化財センター展示室 2



小学校の校外学習の様子（文化財センター展示室）



小学校の校外学習の様子（文化財センター民具収蔵庫）





古津八幡山遺跡空中写真（2014年10月撮影）



弥生の丘展示館開館式（2012年4月20日）



古津八幡山遺跡全面公開開場式（2015年4月17日）



弥生の丘展示館展示室



体験学習の様子（弥生の丘展示館体験学習室）

# 例 言

- ・本書は、新潟市文化財センター（以下「文化財センター」）及び文化スポーツ部歴史文化課（以下「歴史文化課」）の主に埋蔵文化財に係る令和2年度の業務年報である。Ⅰに新潟市の埋蔵文化財行政の概要、Ⅱに各種開発事業に伴う埋蔵文化財に係る事前審査、Ⅲに文化財センター業務年報、Ⅳに新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場（以下、「歴史の広場」）業務年報、Ⅴに資料紹介や研究ノートなどの研究活動について収録している。なお、令和3年度は文化財センターが開館してから10年の節目の年にあたることから、これまでの文化財センターや歴史の広場の主な出来事、発掘調査などを巻頭に掲載した。
- ・『新潟市文化財センター年報』（以下「年報」）は平成25年から刊行され、本書は第9号にあたる。文化財センター開館までの新潟市の埋蔵文化財行政の概要及び経緯、文化財センターの概要については、第1号〔新潟市文化財センター2014〕に記載されている。
- ・本書は歴史文化課文化財センター・歴史文化課埋蔵文化財担当職員が分担執筆した。執筆者の氏名は執筆者が替わる各文章の末尾に記載した。
- ・本書に記載されている施設名及び所属などについては、本書刊行当時のものである。
- ・「年報」第6号までは、Ⅱ2に主要な試掘・確認調査の概要を掲載していたが、『年報』第7号からは本発掘調査のみ記載している。
- ・Ⅲ2の「調査位置図」は新潟市地形図（10,000分の1）を使用しており、縮尺は10,000分の1、地図の上位が北である。
- ・表番号は、Ⅰ～Ⅳで章ごとに1から付けているが、Ⅴは節ごとに番号を付している。
- ・本書の編集は相田泰臣・八藤後智人・奈良佳子が行った。

# 目 次

Ⅰ 新潟市の埋蔵文化財保護行政について	1
Ⅱ 開発事前審査	2
1 事前審査内容	2
Ⅲ 文化財センターの事業	7
1 本発掘調査の概要	7
2 令和2年度の本発掘調査	8
3 整理作業の概要	14
4 資料の収蔵・保管	15
5 資料の公開・展示	16
6 教育普及活動	19
7 保存処理	23
8 決算額	23
Ⅳ 新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場	25
1 資料の公開・展示	25
2 教育普及活動	29
3 古津八幡山遺跡保存活用計画の推進	32
Ⅴ 研究活動—資料報告・研究ノート—	33
1 うぶすめ遺跡採集土器	33
2 馬堀中組遺跡 工事立会出土遺物 資料紹介	35
3 伝小口若宮社・若宮陵付近出土の常滑焼	39
引用・参考文献	41
付録（各表）	42





# I 新潟市の埋蔵文化財保護行政について

**概要** 新潟市では、「文化財に関する事項」は『行政組織規則』により市長部局の歴史文化課が主に補助執行することとされている。そのうち埋蔵文化財については、歴史文化課及び文化財センターが所管している。事務分掌は、開発事前審査、試掘・確認調査、工事立会、古津八幡山遺跡を除く史跡管理を歴史文化課が、本発掘調査、保存処理、収蔵・保管、展示・活用、史跡古津八幡山遺跡の保存・活用などを文化財センターが行っている。

**開発事前審査** 開発事前審査では、民間開発や公共工事に対する事前協議を行い、『新潟市試掘確認調査基準』（平成19年4月1日施行）に基づいて試掘・確認調査の要否を判断している。また、本市は政令指定都市のため、『文化財保護法』（以下『法』）第93条及び第96条に基づく事務については、新潟市教育委員会が『新潟市埋蔵文化財取扱要綱』（平成19年4月1日施行）に基づいて『法』に伴う指示を行っている。

**本発掘調査** 本発掘調査は、民間や国・県などの原因者から新潟市が受託して「埋蔵文化財本格発掘調査事業」として実施している。本市が原因者の場合は、関係各部署からの依頼を受託して同様に実施している。

令和2年度の埋蔵文化財本発掘調査と整理作業に係る事業費は表1のとおりである。このうち本発掘調査を実施した事業は内容欄に記載した。

**埋蔵文化財** 新潟市内には、埋蔵文化財包蔵地が800か所存在する（令和3年3月31日時点）。令和2年度は、試掘調査による新発見遺跡が9か所ある。県営圃場整備事業などに伴って大規模な試掘調査が実施され、発見される遺跡数も増加している。

**本発掘調査件数** 平成17年度に広域合併が行われてから令和2年度までの本発掘調査件数は表2のとおりである。令和2年度の本発掘調査件数は5件、4事業であり、16年間では90件行っており、平均すると年間約5～6件の本発掘調査を実施していることになる。

全体の件数では、平成19・20年度が10件と最も多く、それ以降、2～8件で推移し減少傾向にあるが、1件あたりの本発掘調査の内容では、個人住宅などの小規模なものから、道路建設などの大規模なものまであり、必ずしも件数の減少が調査面積の減少を示してはいない。

種類別で見ると、新潟県地域振興局（以前は新潟県農地事務所）による圃場整備関係や新潟市による道路改良関

係（政令指定都市指定以前は新潟県土木事務所）による本発掘調査が定期的実施されており、民間開発関係による本発掘調査は不定期に行われている（図1）。

本発掘調査は毎年一定件数実施しており、今後、試掘・確認調査の結果等から増加の傾向が続くものと想定される。令和2年度は個人住宅建設に伴う本発掘調査も2件あり、民間開発によって突発的に件数が増大する可能性も十分ある。文化財センターとして本発掘調査に対応できる体制を整えていく必要がある。（遠藤恭雄）

表1 令和2年度新潟市本発掘調査・整理作業事業費一覧

調査番号	原因者	事業名	遺跡名	内容	事業費(円)	調査面積(m <sup>2</sup> )	担当
2020001	新潟市	主要地方道 新潟中央環状線建設事業	道正遺跡	本発掘調査	378,251,977	4,313	高橋保雄
2020002	新潟市		岡崎遺跡	本発掘調査		1,646	奈良佳子
2020003	新潟市	横越地区 雨水調整池整備事業	曾我墓所遺跡	本発掘調査	176,840,000	4,770	龍田優子
2020004	個人	小規模緊急 発掘調査事業	原遺跡	本発掘調査	12,216,681	210	鎌山えりか
2020005	個人	小規模緊急 発掘調査事業	平遺跡	本発掘調査	12,619,880	113	前山精明
2009003 2010003	県地域 振興局	両新地区県営圃場 整備発掘調査事業	細池寺道上遺跡	整理作業 報告書刊行	9,500,000	-	立木宏明 奈良佳子
2017005	個人	小規模緊急 発掘調査事業	秋葉遺跡	整理作業 報告書刊行	1,638,754	-	今井さやか
2017006 2018002	個人	小規模緊急 発掘調査事業	程島船跡	整理作業	2,594,008	-	龍田優子
2018003	個人	小規模緊急 発掘調査事業	原遺跡	整理作業	3,398,368	-	立木宏明
合計					597,059,668		

表2 新潟市本発掘調査件数（平成17～令和2年度）

種別	年度														小計		
	平成													令和			
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		1	2
民間	2	5	3	1	0	0	1	0	1	0	1	0	3	2	0	2	21
県地域 振興局 (県農地)	2	2	2	2	2	1	3	5	3	1	2	1	1	0	0	0	27
県土木	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
新潟市	1	1	5	7	2	3	1	3	2	2	0	2	2	3	2	3	39
合計	7	9	10	10	4	4	5	8	6	3	3	3	6	5	2	5	90

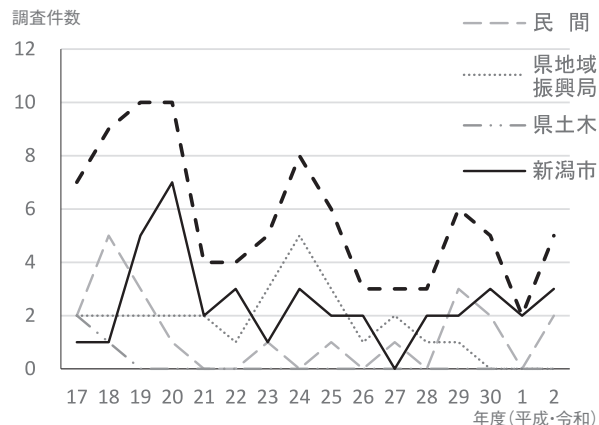


図1 新潟市本発掘調査件数の推移（平成17～令和2年度）

## II 開発事前審査

### 1 事前審査内容

#### (1) 開発事前審査

**概要** 新潟市は、国内でも有数な規模を誇る越後平野の中央に位置する。市域の大半を占めるこの越後平野は、長い年月をかけて信濃川・阿賀野川などの大河川が運んできた土砂により形成された沖積平野である。新津や角田・弥彦の丘陵地帯、新潟砂丘（新砂丘Ⅰ～Ⅲ）に代表される砂丘地帯のように標高の高い地域もあるが、大半は低湿地帯である。丘陵を除く地域には鳥屋野潟や福島潟などに代表される潟湖が多数存在し、かつては洪水など水害の多い地帯であった。江戸時代には、新田開発に伴い潟や沼などの水抜き工事が行われており、明治・大正・昭和へと引き継がれた。特に1950年代以降の土木技術の発展に伴う土地改良の結果、湿地帯は徐々に解消されていった。

遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の大半は地中に埋まっており、本市の様な沖積平野では地表面観察による把握は困難である。長年の耕作等で地表面に露出してきた遺物を丹念に観察・収集し、遺跡の把握に取り組んできたが、機械掘削が主体となっている現在の工事では、存在が把握されないまま地中にある遺跡に直接掘削が及ぶ機会が増大している。すでに周知化されている遺跡及び未発見の遺跡の把握・周知・保護は行政の責務と考えている。

このような変化に対応しつつ迅速に保護対応を図るために、本市では以下のような取り組みを実施している。

**公共事業** 国・県機関の実施する土木事業については、年に1度、新潟県教育庁文化行政課が一括して関係機関に照会し、得られたデータを県下の市町村に提供している。審査及び事業者との協議は該当自治体が行っている。

国・県機関実施事業のうち、令和2年度の新潟市関連分は44件で、前年度と同数であった。内訳は表1に示した。県事業中の7件は圃場整備事業に係る事業で、継続して協議を行っている。遺跡に該当する工事については法第94条通知が行われている。

市の実施する土木・建築事業については、年度ごとに市内全部署へ照会をかけ、その回答をもとに協議している。

規模を問わず、原則全ての事業を収拾するため、審査件数が数百件と膨大になり、短期間での審査・協議が困

難となっている。また、年度途中で生起する小規模事業は事業課の協力を得て早期から情報提供いただき協議している。

**民間事業** 計画地における遺跡の有無、もしくは保護協議の対象地であるかを、歴史文化課窓口及びFAXで対応している。

建築事業については、建築確認申請を提出する際、本市独自の施策として同申請書に「建築確認申請事前調査報告書」の添付を義務付けている（担当は建築部建築行政課）。その事前調査項目に「埋蔵文化財の有無」があり、建築主は歴史文化課へ照会して確認番号を取得する必要がある。その時点で遺跡に該当するかどうか把握できる仕組みとなっている（なお、公共の建築事業についても「計画通知」段階で同様の措置を取っている）。照会目的は専用住宅建築に係る建築確認番号取得や、土地取引もしくは不動産鑑定評価など計画段階での事前調査であり、電柱、看板などがこれに続く。特にFAXでの照会は、民間事業者にかなり定着してきており、日々の審査業務時間は増大している。

開発行為については、各区の『開発審査協議会設置要領』に規定されているとおり『都市計画法』第32条による事前協議書が各区役所建設課に提出された後、歴史文化課を含む市内関係各課に意見照会されるため、全ての案件について取扱い方針の審査と協議を行っている。また、開発行為事前協議時の事前相談が開始された段階で、各区建設課から事業者に対し歴史文化課へも連絡を取るよう指導する対策が取られている。

また、本市の大半を占める農地については、開発事業が計画された場合『農地法』に基づき、市内に6つ存在する農業委員会事務局（北区・中央・秋葉区・南区・西区・西蒲区）へ転用許可申請・届出が必要である。農業委員会で許可されたのちに土木工事が行われることが多いので、各農業委員会へ依頼し、転用許可申請・届出の写しを歴史文化課へ提供をいただき、全件について審査の上、取扱い方針を決定し、必要なものについては事業者と協議を行っている。

このように、民間事業者の行う各種開発等については、許認可事務を担当する市内各課等と緊密に連携し、事前把握を行っている。しかし、専用住宅を含む民間事業は決定してから実施までのスピードが速く、試掘・確認調査の実施と結果を踏まえての協議時間が短い。制度



と実行力にバランスが保てるような体制の強化が急務である。

令和2年度 今年度の協議実績の概要は以下のとおりである。

国・県事業の件数については先に触れたとおりである。国関係では水利事業について取扱いが必要となった。県関係では、圃場整備及び地盤沈下対策関係について協議対象とした。

圃場整備は、新潟県新潟地域振興局の所管事業であり、同局の農林振興部の所管区域には江南区・秋葉区が含まれ、巻農業振興部の所管区域には西区・西蒲区が含まれている。平成28年度までは巻農業振興部管内の整備計画について主に協議対応してきたが、平成29年度に農林振興部管内でも複数地区で整備が計画され、こちらについても協議対応が必要となった。各区の計画地はいずれも大面積で、市単独の対応が困難になったことから、新潟県教育庁文化行政課・県農地部・新潟地域振興局の担当課と新潟市の4者で、埋蔵文化財保護と整備事業の進捗について調整会を持つこととなった。調整会では市内で実施の整備計画の全容が示され、関係各課は長期的な対応が必要になることを確認した。

市事業の審査件数は421件であり、令和元年度の487件から66件の減となっている。

主な内訳としては、水道関係147件（全体の約34.9%）、道路関係188件（同44.7%）、下水道関係39件（同9.2%）、その他公共施設関係47件（同約11.2%）等となった。公共施設関係はほとんどが改修工事や設計であった。

民間事業に係る事前審査については表2に示した。令和2年度は8,949件（令和元年度8,517件に比して432件の増）であった。

内訳をみると、開発行為は減少（令和元年度の80件から59件）、農地転用は増（同468件から561件）、建築確認申請に係る審査件数はやや減（同3,743件から3,635件）であった。開発行為では宅地造成が最も多く、共同住宅・福祉施設がこれに続く。

## (2) 試掘・確認調査

概要 事前審査・協議において、遺跡の有無を事前に把握する必要があると判断した場合は試掘調査、すでに周知遺跡となっているが、その詳細な内容が不明な場合は確認調査を実施している。経費は市の事業「市内遺跡範囲等確認調査事業」として公費から支出している（事業費の約50%は文化庁の補助を受けている）。原則として事業者へ経費負担を求めている。

試掘調査については、公共事業はもちろん、民間事業の場合もほとんどは事業者の理解と協力を得て実施して

表1 令和2年度公共事業審査事業主体別内訳

事業主体	審査件数	新発見遺跡 ( )は遺跡範囲変更	試掘調査の 協議をしたもの	94条通知
国	12	0	1	0
県	32	6 (4)	5	14
市	421	0	19	11
計	465	6	25	25

表2 令和2年度民間事業事前審査件数

区名	審査種別					審査・ 照会件数	[法] 93条届出
	建築確認	窓口・FAX 照会	32条照会	農地転用	文書照会		
北区	306	376	7	87	1	777	15
東区	615	773	9	66	3	1,466	11
中央区	781	1,226	8	45	1	2,061	1
江南区	388	449	5	96	6	944	48
秋葉区	384	339	6	66	6	801	33
南区	215	209	6	44	0	474	6
西区	739	1,018	13	143	7	1,920	11
西蒲区	207	276	5	14	4	506	3
合計	3,635	4,666	59	561	28	8,949	128

※審査種別の各項目は次のとおりである。「建築確認」は照会用紙による建築確認申請事前調査報告書に係る照会。「窓口・FAX照会」は「建築確認」以外の照会用紙による照会。「32条照会」は「都市計画法」第32条に係る公文書による照会。「農地転用」は「農地法」第4条・第5条に係る公文書による照会。「文書照会」は「32条照会」、「農地転用」以外の公文書による照会。

表3 令和2年度試掘・確認調査、工事立会件数

区名	調査内容	事業者	件数		埋蔵文化財 検出件数	割合 (%)
			公共	民間		
北区	確認調査	公共	0	4	7	0
		民間	4			
	試掘調査	公共	2	3	9	0
民間	1					
東区	確認調査	公共	0	4	9	1
		民間	4			
	試掘調査	公共	0	5	3	0
民間	5					
中央区	確認調査	公共	0	3	10	0
		民間	3			
	試掘調査	公共	0	7	5	0
民間	7					
江南区	確認調査	公共	0	11	20	7
		民間	11			
	試掘調査	公共	5	9	17	1
民間	4					
秋葉区	確認調査	公共	4	8	14	5
		民間	4			
	試掘調査	公共	0	6	15	1
民間	6					
南区	確認調査	公共	0	2	5	0
		民間	2			
	試掘調査	公共	0	3	2	0
民間	3					
西区	確認調査	公共	0	5	11	0
		民間	5			
	試掘調査	公共	1	6	11	2
民間	5					
西蒲区	確認調査	公共	1	3	12	3
		民間	3			
	試掘調査	公共	1	6	11	2
民間	5					
合計	確認調査	公共	7	43	88	16
		民間	36			
	試掘調査	公共	9	45	57	6
民間	36					
工事立会	公共	32	25	57	8	
	民間	25				

※名勝の現状変更に係る工事立会（法第125条関連）

表4 令和2年度経費（調査支援委託費のみ 単位：千円）

調査内容		金額
試掘・確認調査 (民間開発・公共事業)	国庫補助対応	18,184
試掘・確認調査 (圃場整備対応)	国庫補助対応	30,852

表5 令和2年度試掘・確認調査一覧（調査番号順）

調査番号	遺跡名 遺跡番号	調査種別	開始種別 調査内容	調査地	種別	遺跡の時代	調査で 確認された時代	調査 期間	調査 日数	調査面積 (調査対象面積)(㎡)	調査担当	調査員	検出遺構	出土遺物	取扱い	備考	
																	調査内容
2020101	(近世新町町跡) 575	試掘調査	民間 共同住宅	中央区 本町通7番町 122番1号 敷地	港町跡	近世	近世	4/22	1	2382 (942.84)	朝岡政康	牧野耕作	地境	陶磁器・木製品(近世)	不要		
2020102	早水町2丁目跡跡 188	確認調査	民間 共同住宅	中央区 早水町2丁目 219番1号 敷地	遺物包含地	旧石器・ 縄文・ 奈良・平安		5/11・12	2	3748 (818.75)	金田拓也	-	なし	なし	継続協議		
2020103	-	試掘調査	民間 保育園	中央区 中野田字道上 312番2号 敷地	-	-	-	4/30・5/1	2	6939 (2166)	牧野耕作	-	なし	土師器(平安)	不要		
2020104	-	試掘調査	民間 福祉施設	中央区 車道字新地 892番1号 敷地	-	-	-	4/27	1	4121 (3,224.83)	金田拓也	-	なし	なし	不要		
2020105	-	試掘調査	民間 福利厚生 施設	中央区 上道字三丁目 249番1号 敷地	-	-	-	4/23	1	3276 (1,243.28)	金田拓也	-	なし	なし	不要		
2020106	大洞遺跡 16	確認調査	民間 宅地造成	江南区 大洞字大洞浦 1217番2号 敷地	遺物包含地	奈良・平安・ 中世	古代	5/8	1	9 (1,682)	牧野耕作	-	なし	須恵器(平安)	工事立会		
2020108	-	試掘調査	民間 農村集落	西南区 仁部字仁部 166番9号 敷地	-	-	-	4/21	1	2018 (1,011)	金田拓也	-	なし	なし	不要		
2020112	亀田城山A遺跡 388	確認調査	民間 個人住宅	江南区 城山字三丁目 甲371番1号 敷地	遺物包含地	縄文・弥生・ 奈良・平安	古代	4/30	1	1356 (367.16)	金田拓也	-	土坑(古代)	土師器・須恵器(古代)	工事立会		
2020113	地蔵山遺跡 29	確認調査	民間 宅地造成	中央区 愛宕一丁目 4番14 敷地	遺物包含地	中世	近世	5/8	1	3135 (584)	金田拓也	-	なし	土師器・泥面子(近世)	慎重工事		
2020114	-	試掘調査	民間 宅地造成	中央区 旗ヶ原三丁目 1番1号 敷地	-	-	-	5/11	1	3784 (1,366.85)	牧野耕作	-	なし	なし	不要		
2020115	砂原上ノ山遺跡 401	確認調査	民間 個人住宅	江南区 砂原上ノ山 一丁目 699番5号 敷地	遺物包含地	奈良・平安	古代	5/18	1	2428 (141.58)	牧野耕作	-	なし	土師器・須恵器(古代)	工事立会		
2020116	内野前地入遺跡 100	確認調査	民間 宅地造成	西区 内野前地2丁目 2901番1号 敷地	遺物包含地	中世		5/18	1	2819 (538.79)	金田拓也	-	なし	なし	慎重工事		
2020117	-	試掘調査	民間 土地区画 整理	江南区 敷野字敷野 3366番9号 敷地	-	-	-	5/20~26	5	2125 (32,278.15)	金田拓也	-	なし	木製品(時期不明)	不要		
2020118	-	試掘調査	民間 倉庫 入トクヤ ヤード	南区 東野字東野 1562番1号 敷地	-	-	-	5/13・14	2	7317 (2,482)	牧野耕作	-	なし	なし	不要		
2020122	六地山遺跡 3	確認調査	民間 倉庫	西区 弾正町田 381番9号 敷地	遺物包含地	弥生・奈良・ 平安・中世		5/26	1	5295 (2,081.58)	牧野耕作	-	なし	なし	工事立会		
2020123	原遺跡 126	確認調査	民間 個人住宅	中央区 中村字南 321番5号 敷地	集落跡	縄文	縄文	6/1	1	1653 (258.96)	牧野耕作	-	小土坑・性格不明遺構 (縄文)	縄文土器	工事立会		
2020124	八幡宮遺跡 415	確認調査	民間 未完	西区 茅渚一丁目 856番4号 敷地	遺物包含地	奈良・平安	平安	6/4	1	3882 (1,156)	牧野耕作	-	なし	土師器(平安)、石製品、 陶磁器(近世)	不要	事業中止のため、93条届出不要	
2020125	下新田遺跡 573	確認調査	民間 個人住宅	西区 道字上野原 488番3号 敷地	遺物包含地	奈良・平安		6/9	1	62 (131.91)	牧野耕作	-	なし	なし	慎重工事		
2020128	水戸下遺跡 338	確認調査	民間 太陽光発電 施設	大南区 大南字水戸下 469番1号 敷地	遺物包含地	奈良・平安	近世	6/3・4	2	258 (2,038)	金田拓也	-	なし	青磁(近世)	慎重工事		
2020129	上土地亀入遺跡 272	確認調査	民間 宅地造成	北区 美里一丁目 1番1号 敷地	遺物包含地	古墳・平安		6/10	1	2571 (772)	金田拓也	-	なし	なし	慎重工事		
2020131	-	試掘調査	民間 保育園	中央区 中野三丁目 106番1号 敷地	-	-	-	6/17	1	2916 (2,196.17)	金田拓也	-	なし	なし	不要		
2020132	本所待館跡 84	確認調査	民間 売買取	東区 本所一丁目 2210番1号 敷地	城跡	中世	中世または近世	6/23	1	3013 (582.11)	金田拓也	-	井戸・ピット(中世ま たは近世)	鉄製品(中世または近世)、 陶磁器(近世)	不要	土地売却のため、93条届出不要	
2020135	-	試掘調査	公共(市)	市道	北区 内島町字敷付 107番3号 敷地	-	-	6/17	1	5073 (1,120)	牧野耕作	-	なし	なし	不要		
2020136	-	試掘調査	民間 共同住宅	西南区 旗原字旗原 185番9号 敷地	-	-	-	6/25	1	393 (1,702.35)	牧野耕作	-	なし	なし	不要		
2020137	-	試掘調査	公共(市)	公道	北区 松原字松原 117番1号 敷地	-	-	8/4・5	2	1179 (4,200)	牧野耕作	-	なし	なし	不要		
2020139	(土居内遺跡) 810	試掘調査	公共(市)	市道	江南区 土居一丁目 515番9号 敷地	遺物包含地	平安	6/30・7/1	2	55.9 (1,020)	牧野耕作	-	土坑・ピット(平安)	土師器・須恵器・土製品・ 木製品(平安)	継続協議		
2020140	-	試掘調査	公共(市)	公道	江南区 土居一丁目 515番9号 敷地	-	-	7/9	1	4287 (1,056)	牧野耕作	-	なし	なし	不要		
2020141	-	試掘調査	民間 保育園	中央区 七日町字松橋 17番2号 敷地	-	-	近世	7/1~3	3	3,045 (3,204.65)	金田拓也	-	ピット(近世)	陶磁器・泥面子(近世)	不要		
2020142	山西野遺跡 250	確認調査	民間 倉庫	北区 水郷字初高山 3749番1号 敷地	遺物包含地	縄文		7/21	1	75.1 (8,706.82)	牧野耕作	-	なし	なし	不要	建築建物で遺跡範囲外 遺跡範囲変更	
2020143	-	試掘調査	民間 宅地造成	江南区 二本木一丁目 4472番1号 敷地	-	-	-	7/17	1	35.1 (1,542.37)	牧野耕作	-	なし	なし	不要		
2020144	-	試掘調査	民間 土地区画 整理	西区 小幡字小幡 3941番1号 敷地	-	-	-	7/13~20、 10/1~6	9	485.25 (113,000)	金田拓也	長谷川真志	なし	土師器・須恵器 (古代・調査地外からの搬入)	不要		
2020146	茨島遺跡 405	確認調査	民間 売買取	江南区 茨島一丁目 1535番 敷地	敷布地	奈良・平安		7/29	1	165 (680.99)	牧野耕作	-	なし	なし	不要	土地売却のため、93条届出不要	
2020148	-	試掘調査	民間 宅地造成	中央区 女塚一丁目 1515番9号 敷地	-	-	-	7/30	1	37.23 (2,671.56)	金田拓也	-	なし	なし	不要		
2020149	-	試掘調査	民間 美術施設	中央区 女塚西2丁目 506番3号 敷地	-	-	-	8/4~6	3	80.70 (5,108.36)	金田拓也	長谷川真志	なし	土師(時期不明)	不要		
2020151	-	試掘調査	民間 店舗	東区 小倉町一丁目 45番1号 敷地	-	-	-	8/20・21	2	4992 (2,486.53)	金田拓也	長谷川真志	なし	なし	不要		
2020152	-	試掘調査	民間 宅地造成	東区 海老ヶ瀬新町 803番1号 敷地	-	-	-	8/25	1	51.82 (5,961.01)	金田拓也	長谷川真志	なし	なし	不要		
2020153	山水戸遺跡 112	確認調査	民間 個人住宅	東区 山水戸四丁目 438番2号 敷地	集落跡	古墳・古代・ 中世・近世		8/18	1	1529 (197)	山本よりか	-	なし	なし	慎重工事		
2020157	前山遺跡 11	確認調査	民間 個人住宅	江南区 北山字前山 391番1号 敷地	遺物包含地	古墳・奈良・ 平安		8/28	1	4.25 (137.89)	山本よりか	-	なし	なし	慎重工事		
2020158	(近世新町町跡) 575	試掘調査	民間 店舗・共 同住宅	中央区 古町通町田 382番1号 敷地	港町跡	近世		8/26	1	21.9 (456.61)	牧野耕作	-	土坑	陶磁器(近世)、石製品・ 木製品、金属製品	不要		
2020159	-	試掘調査	公共(市)	公道	江南区 西野一丁目 505番1号 敷地	-	-	8/20・21	2	5925 (1,000)	牧野耕作	-	なし	なし	不要		
2020160	-	試掘調査	民間 土地区画 整理	西区 坂井字村上 579番1号 敷地	-	-	-	8/31~9/2	3	126.78 (35,000)	金田拓也	長谷川真志	なし	なし	不要		
2020162	砂岡遺跡 406	確認調査	民間 売買取	江南区 砂岡六丁目 2855番1号 敷地	遺物包含地	縄文・平安		9/8	1	11 (416.08)	金田拓也	長谷川真志	なし	なし	慎重工事		
2020163	六地山遺跡 3	確認調査	民間 駐車場	西区 弾正町田 381番2号 敷地	遺物包含地	弥生・奈良・ 平安・中世		9/10	1	756 (120)	牧野耕作	-	なし	なし	慎重工事		
2020164	-	試掘調査	民間 福祉施設	西区 内野二丁目 3315番9号 敷地	-	-	-	9/8・9	2	40.83 (4,124.94)	山本よりか	-	なし	なし	不要		
2020165	-	試掘調査	民間 店舗	江南区 東一丁目 2941番3号 敷地	-	-	-	9/23	1	27 (2,706.57)	山本よりか	-	なし	なし	不要		
2020166	-	試掘調査	民間 工場	東区 津島町七丁目 77番 敷地	-	-	-	9/23	1	54.61 (5,000)	山本よりか	-	なし	なし	不要		
2020167	亀田六枚田遺跡 790	確認調査	民間 宅地造成	江南区 所島三丁目 724番1号 敷地	遺物包含地	古墳・奈良・ 平安	古代	9/9~11	3	11924 (4,021.98)	金田拓也	長谷川真志	土坑(古代代)	土師器(古代代)	工事立会	遺跡範囲拡大	
2020168	内野前地入遺跡 100	確認調査	民間 個人住宅	西区 内野前地二丁目 2871番1号 敷地	遺物包含地	中世		9/15	1	7.21 (202.85)	金田拓也	長谷川真志	なし	なし	慎重工事		
2020169	-	試掘調査	民間 宅地造成	中央区 下野野町 49番1号 敷地	-	-	-	9/17	1	11.57 (2,361.47)	金田拓也	-	なし	なし	不要		
2020171	本所待館跡 84	確認調査	民間 売買取	東区 本所一丁目 2540番1号 敷地	城跡	中世		9/24	1	1656 (255.35)	金田拓也	長谷川真志	なし	なし	慎重工事		
2020177	園内遺跡 808	確認調査	公共(市)	西区 牧ヶ島字園 122番1号 敷地	遺物包含地	奈良・平安	奈良・平安	10/5	1	3815 (10,000)	牧野耕作	-	なし	土師器・須恵器・石製品(古代)	工事立会	範囲変更	
2020178	馬場上組遺跡 806	確認調査	公共(市)	西区 馬場字馬場 1525番9号 敷地	集落跡	中世	中世	10/7	1	39.55 (5,000)	牧野耕作	-	井戸・土坑・小土坑・ 性格不明遺構 (中世または近世)	なし	継続協議		
2020179	河原新田遺跡 807	確認調査	公共(市)	西区 河原新田 2809番9号 敷地	遺物包含地	奈良・平安	奈良・平安	10/9	1	37.8 (5,000)	牧野耕作	-	なし	土師器・石製品・鉄・木製品	工事立会	範囲変更	
2020180	(寺裏遺跡) 812	試掘調査	公共(市)	西区 馬場字馬場 2876番9号 敷地	遺物包含地	中世	中世	10/13~30	19	731.13 (938,000)	牧野耕作	-	性格不明遺構(中世)	珠洒地(中世)	継続協議	新発見遺跡	
2020181	(笠木地遺跡) 817	試掘調査	公共(市)	西区 笠木地 1160番9号 敷地	遺物包含地	中世	中世	10/8~11/10	22	17325 (1,320,000)	今井まゆみ 立木志朗 平山千尋	立木志朗 平山千尋	土坑・小土坑 (時期不明)	珠洒地(中世)	継続協議	新発見遺跡	
2020182	大沢谷内遺跡 52	確認調査	公共(市)	東区 鎌倉町内 144番9号 敷地	集落跡	縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安・中世	古代・中世	10/19~11/30	19	810 (511,000.00)	相田泰臣 田中興典	田中興典	土坑・溝・性格不明遺構 (溝)	土師器・須恵器・石製品・ 木製品	継続協議	遺跡範囲拡大	
2020183	(馬石遺跡) 813	試掘調査	公共(市)	東区 大馬石 479番1号 敷地	集落跡	弥生・古墳	弥生・古墳	10/5~11/13	23	733.86 (510,000)	山本よりか	-	性格不明遺構	弥生土器・土師器(古墳)	継続協議	新発見遺跡	
2020184	-	試掘調査	民間 土地区画 整理	北区 深田字深田 3117番1号 敷地	-	-	-	10/19~22	4	356.38 (156,483.90)	金田拓也	長谷川真志	なし	なし	不要		
2020187	-	試掘調査	民間 工場	南区 下新田字下新田 735番9号 敷地	-	-	-	11/4~6	3	207.73 (21,444.55)	金田拓也	長谷川真志	なし	なし	不要		
2020188	古津八幡山遺跡 173	確認調査	公共(市)	保存目的	中央区 314番地外 敷地	集落跡	旧石器・ 縄文・弥生・ 古墳・奈良・ 平安	縄文・弥生	7/6~10/17	66	1412	相田泰臣 田中興典	田中興典	土坑・溝・ピット・ 性格不明遺構	縄文土器・弥生土器・石器・ 石製品	現状保存	史跡整備に係る確認調査
2020190	-	試掘調査	民間 土地区画 整理	江南区 新野字新野 1476番1号 敷地	-	-	-	11/2	1	56.76 (10,845.73)	金田拓也	長谷川真志	なし	なし	不要		

調査番号	遺跡名 遺跡番号	調査種別	開発種別 事業名	調査地 内容	種別	遺跡の時代	調査で 確認された時代	調査 期間	調査 日数	調査面積 (調査対象面積)(㎡)	調査担当	調査員	検出遺構	出土遺物	取扱い	備考	
																	調査地
2020194	(飛鳥遺跡) 811	試掘調査	民間	福祉施設	西蒲区 念子飛鳥 甲114番1号外	遺物包含層	平安	平安	11/17-19	3	3079 (6,614.92)	金田拓也	長谷川真志	なし	土師器(平安)	工事立会	新発見遺跡
2020195	高野宮跡 558	確認調査	民間	工場	西蒲区 上小寺 884番1号	城跡	中世	-	11/24-12/3	5	292.42 (8,000)	金田拓也	長谷川真志	なし	なし	継続協議	
2020199	直り山遺跡 236	確認調査	民間	宅地造成	江南区 直り山小丸山 329番1号	遺物包含地	平安	-	11/18	1	25.5 (849.58)	牧野耕作	-	なし	なし(土師器(古墳)、 土師器・須恵器(古墳)採集)	不要	建築物が遺跡範囲外
2020200	古町遺跡 281	確認調査	民間	個人住宅	南区 新田山字古町 137番4号外	散布地	中世	-	11/19	1	273 (282)	牧野耕作	-	なし	なし	慎重工事	
2020201	岡新田遺跡 796	確認調査	民間	個人住宅	北区 岡新田字寄道 234番2号	遺物包含地	平安	-	11/30	1	6.25 (228.86)	牧野耕作	-	なし	なし	慎重工事	
2020202	(下郷中遺跡) 21	試掘調査	民間	宅地造成	江南区 横越東一丁目 3685番2号	遺物包含地	平安	平安	12.7・8	2	47.77 (1,602.16)	金田拓也	長谷川真志	溝(平安)、井戸・溝 (近世)	土師器・須恵器(平安)、 陶磁器・木製品(近世)	工事立会	範囲変更
2020204	親仁山遺跡 143	確認調査	民間	集合住宅	中央区 女堂字一丁目 889番外	遺物包含地	平安	-	12/4	1	14.8 (679.04)	牧野耕作	-	なし	古代土師器・近世磁器・石製品 (いずれも露土内)	慎重工事	
2020209	結遺跡 143	確認調査	公共(国)	農業用水	秋葉区 車地字新道下 1148番1地先外	遺物包含地	古墳・奈良	-	12/14-22	7	396.82 (12,600)	牧野耕作	-	なし	なし	継続協議	
2020210	-	試掘調査	民間	宅地造成	秋葉区 渡谷町 6061番外	-	-	-	12/16	1	26.4 (1,824.29)	練山えりか	-	なし	なし	不要	
2020212	川口遺跡 156	確認調査	民間	集合住宅	秋葉区 川口字甲 239番1号	遺物包含地	平安・中世	平安・中世	12/24・25	2	26.4 (1,824.29)	練山えりか	-	性格不明遺構	土師器・須恵器(平安)、 珠洲焼(中世)、焼肴(時期不明)	工事立会	範囲拡大
2020213	-	試掘調査	民間	店舗	西蒲区 和蘭字三田 157番1号	-	-	-	2021/1/20・21	2	58.18 (2,985)	練山えりか	-	なし	なし	不要	
2020214	-	試掘調査	民間	店舗	西蒲区 曾根字大田 1492番1号	-	-	-	2021/1/15	1	40.57 (3,710)	練山えりか	-	なし	なし	不要	
2020215	地蔵山遺跡 29	確認調査	民間	売買	中央区 愛宕字一丁目 2番4号	遺物包含地	中世	-	2021/1/6	1	17.67 (468.61)	金田拓也	-	溝(時期不明)	なし	不要	土地売却のため、93条届出不要
2020216	-	試掘調査	民間	宅地造成	東区 東中野字一丁目 149番外	-	-	-	2021/2/8	1	33.04 (3,755)	金田拓也	-	なし	なし	不要	
2020217	-	試掘調査	民間	用地造成	南区 神田字田 205番1号	-	-	-	2021/1/25	1	36.6 (4,477)	練山えりか	-	なし	なし	不要	
2020221	本所宮跡 84	確認調査	民間	個人住宅	東区 本所字一丁目 2241番1号外	城跡	中世	中世	2020/1/21	1	9.87 (325.53)	金田拓也	-	なし	珠洲焼(中世)	工事立会	
2020222	(近世新道跡) 579	試掘調査	民間	共同住宅	中央区 上大川通八番町 1256番3号	港町跡	近世	近世	2021/2/4・5	2	34.96 (476.95)	金田拓也	長谷川真志	溝(近世)	陶磁器・土製品・石製品・ 木製品(近世)	不要	
2020224	-	試掘調査	民間	保育園	東区 木山字前田 815番	-	-	-	2021/1/26・27	2	54.28 (2,078)	金田拓也	長谷川真志	なし	なし	不要	2020240の関連調査
2020228	-	試掘調査	民間	工場	東区 黒島字善合 1142番1号	-	-	-	2021/2/15・16	2	63.88 (4,583.22)	金田拓也	長谷川真志	なし	なし	不要	
2020229	あかしやだん遺跡 285	確認調査	民間	個人住宅	北区 内島尾字浦海 285番1号	遺物包含地	平安	-	2021/2/18	1	6.24 (273.62)	金田拓也	-	なし	なし	慎重工事	
2020230	-	試掘調査	公共(市)	市道	江南区 城井	-	-	-	2021/2/8	1	28.16 (2,450)	牧野耕作	-	なし	なし	不要	
2020231	-	試掘調査	公共(市)	市道	江南区 三木	-	-	-	2021/2/9-16	5	182.82 (14,490)	牧野耕作	-	なし	なし	不要	
2020232	中の山遺跡 402	確認調査	民間	個人住宅	江南区 赤坂字一丁目 甲644番61号	集落跡	奈良・平安 ・中世	時期不明	2021/2/10	1	8.69 (244.19)	練山えりか	-	なし	なし	慎重工事	
2020233	赤坂山遺跡 778	確認調査	民間	店舗	西蒲区 赤坂字一心作 378番1号	集落跡	奈良・平安 ・中世	古代・中世	2021/2/24-26	3	77.78 (4,491)	練山えりか	-	なし	須恵器(古代)	工事立会	
2020234	秋葉遺跡 182	確認調査	民間	売買	秋葉区 秋葉一丁目 7290番4号	-	-	-	2021/2/22	1	29.96 (954.38)	練山えりか	-	なし	なし	不要	土地売却のため、93条届出不要
2020235	(萬石南遺跡) 814	試掘調査	公共(市)	園地整備	秋葉区 大間字萬石 465番1号	遺物包含地	古墳	古墳	10/5-11/13	23	733.86 (510,000)	練山えりか	-	なし	土師器(古墳)	継続協議	2020183・235・237と同一の調査
2020236	(見取遺跡) 815	試掘調査	公共(市)	園地整備	秋葉区 下木字見取 229番1号	遺物包含地	古墳	古墳	10/5-11/13	23	733.86 (510,000)	練山えりか	-	なし	土師器(古墳)	継続協議	2020183・235・237と同一の調査
2020237	(御神遺跡) 815	試掘調査	公共(市)	園地整備	秋葉区 小工字御神 1283番1号	遺物包含地	中世	中世	10/5-11/13	23	733.86 (510,000)	練山えりか	-	性格不明遺構(中世)	土師器(時代不明)、 珠洲焼(中世)	継続協議	2020183・235・237と同一の調査
2020240	木山遺跡 42	確認調査	民間	保育園	西蒲区 木山字前田 858番1号外	遺物包含地	平安・中世	-	2021/2/24	1	44.69 (2,396)	金田拓也	-	なし	なし	慎重工事	2020224の関連調査 範囲変更
2020241	-	試掘調査	民間	学校	中央区 南島 96番外	-	-	-	2021/3/1・2	2	72.99 (5,435.79)	金田拓也	-	なし	なし	不要	
2020244	-	試掘調査	公共(国)	農業用水	秋葉区 車地字新道下	-	-	-	2021/3/3-9	5	248.29 (20,600)	牧野耕作	-	なし	なし	不要	2020209と同一事業による調査
2020248	一心作遺跡 818	確認調査	民間	店舗	西蒲区 赤坂字一心作 379番1号	遺物包含地	古代・中世	古代・中世	2021/2/24-26	3	77.78 (4,491)	練山えりか	-	性格不明遺構(中世)	土師器(古代)、珠洲焼(中世)	工事立会	新発見遺跡 2020233と同一の調査
2020251	(角田浜砂光寺山古墳) 819	調査調査	学術調査	学術調査	西蒲区 角田浜砂光寺山古墳 934番外	古墳	古墳	古墳	4/25-11/8	-	-	橋本博文	多数	前方後円墳	なし	-	調査団による学術調査
2020252	(角田浜砂光寺山古墳) 819	試掘調査	学術調査	学術調査	西蒲区 角田浜砂光寺山古墳 934番外	古墳	古墳	古墳	10/31-12/2	-	-	橋本博文	多数	前方後円墳	なし	-	調査団による学術調査

いる。以前はまれに試掘調査の実施を拒否される場合があったが、近年はほぼ全ての案件で承諾が得られている。試掘調査の意義と効果に対する理解が事業者に浸透してきていると思われる。

令和2年度 表1・3のとおり、試掘調査45件、確認調査43件、計88件の調査を実施した。令和元年度の件数と比較すると試掘調査が9件の増、確認調査が19件の増となっている。公共事業に伴う試掘調査では道路・圃場整備事業が多い。民間事業に伴う試掘調査は宅地造成や店舗建設が多い。確認調査では専用住宅が多い。一方、道路建設や圃場整備事業など事業規模(調査対象面積)が大規模なものも増えてきており、調査期間が長期に及ぶ場合もある。

地域別では、秋葉区・江南区が多い。両区は遺跡数も多いが、公共事業・民間事業ともに他の区より多い。

今年度新しく発見された遺跡は、萬石遺跡・萬石南遺跡・御神遺跡・見取遺跡(秋葉区)、土居内遺跡(江南区)、笠木堤遺跡(西区)、寺裏遺跡・飛落遺跡・一心作遺跡(西蒲区)の計9遺跡である。秋葉区と西区の遺跡

は圃場整備に伴う試掘調査で発見された遺跡で、西蒲区の遺跡は民間開発に伴う試掘調査で発見された。

### (3) 工事立会

**概要** 工事立会は、遺跡の範囲内で行われる各種土木工事等に対し、原則として事前の試掘・確認調査で遺跡の内容を十分把握したうえで、『埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化について(通知)』(平成10年9月29日付庁保記第75号庁保記第75号 各都道府県教育委員会教育長宛文化庁次長通知、以下『文化庁標準』)及び『発掘調査の要否等の判断基準』(平成11年9月10日付教文第578号、以下『新潟県基準』)に従って実施している。具体的には、以下のとおりの判断基準で実施している。

・土木工事等により、明らかに遺跡の一部が破壊されるが、掘削範囲がきわめて狭小(『新潟県基準』により原則として掘削幅1m以下)であるため、記録保存を目的とした本発掘調査の実施が困難であるもの。

・掘削が遺物包含層等に及ばず、保護層も確保できる見込みであるが、施工が設計どおりであるか立会によって確認する必要がある場合等である。



工事立会は、『法』第93条の届出に対する指示として、同第94条の通知に対する取扱い勧告として事業者へ通知する。事業者は工事日程が決定次第当課へ連絡する。工事立会は、事業者の工程に従って新潟市の埋蔵文化財担当専門職員が現地に訪れている。

特に長期間にわたる大規模な工事の場合は、事業者の協力を得て、あらかじめ施工者代理人を交えた打合せを綿密に行うようにしている。これにより、保護施策の意義を理解してもらうことができ、工程の一部変更等の早期連絡体制が強化されてきている。

工事立会により遺物や遺構が発見された場合は、その場で記録を取り、出土遺物や記録類は、試掘・確認調査に準じた取扱いとしている。

近年の課題は、圃場整備等に伴う工事立会期間の長期化である。市職員の人数に限られる中、特に3月下旬の工事立会是对応に困難な場合が生じている。また作業員を委託するなど経費も相当にかかっている。

なお、工事立会指示等を失念し、事後連絡してくる例は年々減少してきている。事業者の理解と協力が欠かせないので、今後も丁寧な説明を心掛けて行く必要がある。

令和2年度 表3・6のとおり57件の工事立会を行った。令和元年度の64件から7件の減である。西蒲区の圃場整備に伴う工事立会は長期間対応が必要となっている。(朝岡政康)



試掘調査風景 (2020183 大関地区)



工事立会風景 (2020245 名勝 旧齋藤家別邸)

表6 令和2年度工事立会一覧(調査番号順)

調査番号	遺跡名		開発種別	所在区	調査期間	調査担当	検出遺構	出土遺物
	遺跡番号	事業者						
2020107	細池寺道上遺跡151	公共(市)	下水道	秋葉区	4/6	金田拓也	×	×
2020109	葛蒲塚古墳625	民間	墓石	西蒲区	4/7・8	金田拓也	×	×
2020110	結七島遺跡209	公共(市)	道路	秋葉区	4/14	金田拓也	×	×
2020111	地蔵山遺跡29	民間	事務所解体	中央区	4/15~18・20	金田拓也	×	×
2020119	道上遺跡213	公共(市)	下水道	秋葉区	5/16・18	金田拓也	×	×
2020120	宮上西遺跡790	公共(県)	圃場整備	西蒲区	5/18	金田拓也	×	×
2020121	原遺跡126	民間	個人住宅解体	秋葉区	-	-	-	-
2020126	前山遺跡11	民間	個人住宅	江南区	5/26	金田拓也	×	×
2020127	亀田城山A遺跡388	民間	個人住宅	江南区	5/29・30	金田拓也	×	×
2020130	砂崩上ノ山遺跡401	民間	個人住宅	江南区	6/4	金田拓也	×	×
2020133	六地山遺跡3	民間	倉庫	西区	6/5・8・9	金田拓也	×	×
2020134	原遺跡126	民間	個人住宅	秋葉区	6/12, 7/6	金田拓也	○	○
2020138	江内遺跡193	民間	個人住宅	秋葉区	7/4	金田拓也	×	×
2020145	一本杉遺跡490	公共(外)	電話柱	西蒲区	7/17	金田拓也	×	×
2020147	日本遺跡398	民間	個人住宅	江南区	7/28~30	金田拓也	×	×
2020150	亀田城山B遺跡422	民間	個人住宅	江南区	8/4	金田拓也	×	×
2020154	丸山遺跡13	民間	個人住宅	江南区	8/17	金田拓也	×	×
2020155	本所居館跡84	公共(外)	電話柱	東区	-	-	-	-
2020156	日本遺跡398	民間	個人住宅	江南区	8/19・20	金田拓也	×	×
2020161	川西遺跡410	公共(外)	電話柱	江南区	9/1	金田拓也	×	×
2020170	齊助山遺跡393	民間	個人住宅	江南区	9/25	金田拓也	×	×
2020172	結七島遺跡209	公共(外)	電話柱	秋葉区	9/14	金田拓也	×	×
2020173	上町遺跡464	公共(外)	電話柱	西蒲区	9/18	金田拓也	×	×
2020174	平林遺跡129	民間	個人住宅解体	秋葉区	9/23	金田拓也	×	×
2020175	上土地亀B遺跡293	民間	個人住宅	北区	9/17	朝岡政康	×	×
2020176	結七島遺跡209	民間	基地局	秋葉区	10/12	金田拓也	×	×
2020185	舟戸遺跡132	公共(外)	電話柱	秋葉区	10/6	金田拓也	×	×
2020186	猿ヶ馬場A遺跡15	民間	個人住宅	東区	10/15	金田拓也	×	×
2020189	原遺跡126	公共(市)	水道	秋葉区	10/29	金田拓也	○	○
2020191	福島土手内遺跡779	公共(県)	圃場整備	西蒲区	11/2	金田拓也	×	×
2020192	福島遺跡552	公共(県)	圃場整備	西蒲区	11/2	金田拓也	×	○
2020193	小丸山遺跡88	民間	個人住宅解体	江南区	11/4~6	金田拓也	×	×
2020196	古屋敷遺跡31	公共(外)	郵便局	東区	11/17	金田拓也	×	×
2020197	大淵遺跡16	民間	宅地造成	江南区	11/17・18, 2021/2/8~10・12・15~17	金田拓也	×	○
2020198	大沢谷内遺跡343	公共(市)	農業排水路	秋葉区	11/11・12・16・17・19	金田拓也	×	○
2020203	茶院A遺跡543	公共(県)	圃場整備	西蒲区	11/30, 12/1~3・8・9・11・14・15, 2021/1/16~17・20~22・25~30, 2/1~4・8・9・12, 3/9・10・24・29, 4/2・5・7・12・19, 5/10・17	金田拓也	×	○
2020205	岡崎遺跡794	民間	土地区画整理	江南区	11/24・25	牧野耕作	×	○
2020206	新飯田館跡225	公共(外)	電話柱	南区	12/14	金田拓也	×	×
2020207	新飯田館跡225	公共(外)	電話柱	南区	12/14	金田拓也	×	×
2020208	中新田久保遺跡208	公共(市)	水道	秋葉区	12/14	金田拓也	×	×
2020211	胡頭新田遺跡807	公共(県)	圃場整備	西蒲区	12/24・25・28・29, 2021/1/5~8・12~16・18~22, 3/17・18	金田拓也	×	×
2020218	舟戸遺跡132	公共(外)	電話柱	秋葉区	2021/3/6	金田拓也	×	×
2020219	亀田六枚田遺跡760	民間	宅地造成	江南区	2021/1/13・18・20~22・25~28	金田拓也	×	×
2020220	名勝 白山公園	公共(市)	名勝整備	中央区	1/21	朝岡政康	×	×
2020223	中の山遺跡402	民間	個人住宅解体	江南区	2021/1/27・28	金田拓也	×	×
2020225	三上山遺跡419	公共(市)	駐輪場物置	江南区	2021/2/10・12	金田拓也	×	×
2020226	曾我墓所遺跡379	公共(市)	地質調査	江南区	8/18・21, 9/7・29	龍田優子	×	×
2020227	馬堀中遺跡805	公共(県)	圃場整備	西蒲区	2021/2/8・16・17・24, 3/5, 4/8~10	金田拓也	×	○
2020238	木山墓所遺跡58	公共(外)	電話柱	西区	2021/2/15	金田拓也	×	×
2020239	西江浦遺跡150	公共(市)	水道	秋葉区	2021/2/22	金田拓也	×	×
2020242	大淵遺跡16	公共(外)	電話柱	江南区	2021/2/26	金田拓也	×	×
2020243	下郷中遺跡796	民間	宅地造成	江南区	2021/2/24	金田拓也	×	×
2020245	名勝 旧齋藤家別邸	公共(市)	名勝整備	中央区	12/21	朝岡政康	×	×
2020246	名勝 旧齋藤家別邸	公共(市)	名勝整備	中央区	2021/3/1	朝岡政康	×	×
2020247	名勝 白山公園	公共(市)	名勝整備	中央区	2021/3/16	長谷川真志	×	×
2020249	細池寺道上遺跡151	公共(県)	圃場整備	秋葉区	2021/3/17, 4/7・8	金田拓也	×	○
2020250	木崎柳原遺跡809	民間	宅地造成	北区	-	-	-	-

## III 文化財センターの事業

### 1 本発掘調査の概要

#### (1) 本発掘調査について

埋蔵文化財包蔵地は法により保護の対象となっている。現状のまま保存され、後世に継承されることが望ましいが、工事によって掘削されるなど、現状保存が不可能な場合は、記録による保存を目的とした発掘調査が必要となる。これを本発掘調査と呼んでいる。本発掘調査は報告書の刊行をもって完了する。

新潟市では、『法』第94条の通知については、事前に試掘・確認調査を実施して遺跡の内容等を把握し、文化庁の示した標準（『文化庁標準』）及びそれを受けて細目を設定した新潟県教育委員会の基準（『新潟県基準』）に則して取り扱い意見を付して県教育委員会へ副申している。

一方、『法』第93条の届出については、『新潟県基準』とこれを参考に新潟市が定めた『新潟市埋蔵文化財事務取扱要綱』（平成19年4月1日施行）に則して取り扱いを決定し、届出者へ通知している。

本発掘調査が必要な場合は、最小限の規模を目指して開発事業者等と遺跡の取扱いについて協議しているが、公共事業では各種法令に基づき設計されていることから、設計変更し遺跡の現状保存を図ることが困難な場合が多い。民間事業でも大規模な設計変更はできないのが現状である。

本発掘調査実施にあたっては、『法』第99条により、新潟市教育委員会が実施する直営体制で実施している。

新潟市では、歴史文化課が教育委員会事務を補助執行しており、歴史文化課埋蔵文化財担当が事業者との全体協議を担当し、文化財センターが本発掘調査の実施を担当している。しかし、調査の件数・規模に対し、現体制では調査担当（正）及び調査員（副）となる市職員は人数が限られている。また、現場作業と並行して整理・報告書作成作業も進める必要があるため、正副職員体制で本発掘調査を行うことが困難となっている。このため、民間調査組織を適切に導入し、調査員として調査業務の一端を担ってもらっている。調査担当は、本発掘調査全体管理のほか民間調査組織の監理も求められることから、負担が増加している。

#### (2) 令和2年度の本発掘調査

表2に示したとおり、5遺跡で本発掘調査を行った。道路建設に係る調査2件、調整池建設に係る調査1

件、個人住宅建設に係る調査2件、計5件である。

江南区の道正遺跡は新潟中央環状線建設に係る調査で、遺跡は縄文時代・古墳時代・平安時代が層位的に検出される様相を示しており、令和元年度は上層の平安時代の調査を実施し、令和2年度は下層の古墳時代・縄文時代の調査を実施した。調査面積は4,313㎡である。江南区の岡崎遺跡は道正遺跡同様、新潟中央環状線建設に係る調査で、主に平安時代の遺跡である。調査面積は1,646㎡である。

江南区の曾我墓所遺跡は調整池建設に係る調査で、調査対象面積は約7,000㎡である。令和元年度は3,718㎡を調査し、令和2年度は令和元年度調査地の一部継続部分を含み4,770㎡を調査した。時代は奈良～平安時代である。

さらに秋葉区では、個人住宅建設に伴って原遺跡211㎡、平遺跡113㎡の調査を実施した。（朝岡政康）

#### (3) 令和2年度の本発掘調査現地説明会

令和2年度は曾我墓所遺跡と道正遺跡・岡崎遺跡で現地説明会を開催した（表1）。事前に曾我墓所遺跡の調査成果について報道発表を行い、新聞・テレビ・インターネットで取り上げられ、市外、県外からも多くの参加があった。なお、原遺跡・平遺跡については面積が狭小で、いずれも調査地が住宅地に位置するため、現地説明会は行わなかった。（遠藤恭雄）

表1 令和2年度本発掘調査現地説明会参加者数

年月日	遺跡名	参加者数（人）
2020/10/10（土）	曾我墓所遺跡	433
2020/10/10（土）	道正遺跡・岡崎遺跡	266



現地説明会の様子（曾我墓所遺跡第3次調査）



## 2 令和2年度の本発掘調査

令和2年度に本発掘調査を行った遺跡は5遺跡（道正遺跡・岡崎遺跡・曾我墓所遺跡・原遺跡・平遺跡）である。

調査概要を調査番号順に次項より記す。

なお、概要掲載遺跡の位置を図1、一覧を表2に示した。各項題は、調査名であり、末尾括弧内は調査番号である。（遠藤恭雄）



図1 令和2年度概要掲載本発掘調査位置図（1/300,000）

表2 令和2年度新潟市本発掘調査一覧（調査番号順）

調査番号	遺跡名 遺跡番号	調査回数 (次)	発掘調査面積 (㎡)	調査地	調査の原因	調査担当	調査員	発掘 調査期間	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物	位置番号 (図1)
2020001	道正遺跡 795	3	4313.0	江南区 割野字道正 2868 外	道路整備 (公共事業)	高橋保雄	遠藤恭雄、 藤本隆之・山中悟郎・ 櫻井和哉・金内元・ 武部喜充・小村正之 (榎ノガミ)	4/7~12/11	縄文(晩期)・ 古墳(前期)・ 古代(平安)	竪穴建物・土坑・性格不 明遺構(古墳)、掘立柱 建物・土坑・井戸・溝状 遺構・ピット(古代)	縄文土器・石器・石製品 (縄文)、土師器(古墳)、 土師器・須恵器・土製 品・石製品・木製品(古 代)	1
2020002	岡崎遺跡 794	4	1646.0	江南区 割野字岡崎 3875 外	道路整備 (公共事業)	奈良佳子	遠藤恭雄、 櫻井和哉・武部喜充・ 山中悟郎(榎ノガミ)	6/22~12/11	縄文(中期・ 後期・晩期)・ 弥生(中期)・ 古墳(前期)・ 古代(平安)	土坑(縄文)、土坑・性 格不明遺構・溝状遺構・ 欄列・ピット(古代)、 土坑・ピット(時期不明)	縄文土器・石器・石製品 (縄文)、弥生土器・土師 器(古墳)、土師器・須 恵器・土製品・石製品・ 木製品(古代)	2
2020003	曾我墓所 遺跡 379	3	4770.0	江南区 横越 6047 外	雨水調整池建設 (公共事業)	龍田優子	澤野慶子、 脇本博康・高柳俊輔・ 阿部司・中川見子(榎 吉田建設)	4/1~11/27	古墳(前期)・ 古代・中世・ 近世	竪穴建物・掘立柱建物・ 井戸・土坑・溝(古代)	土師器・須恵器・石製 品・金属製品・鍛冶関連 遺物・木製品(古代)	3
2020004	原遺跡 126	11	210.0	秋葉区 程島字原 208番2	個人住宅	諫山えりか	吉田浩(榎吉田建設)	5/25~7/30	縄文(中期・ 後期・晩期)	土坑・性格不明遺構・ ピット	縄文土器・石器・土偶	4
2020005	平遺跡 128	9	113.0	秋葉区 小口字居平 1134 内	個人住宅	前山精明	長沼吉嗣・中川見子 (榎吉田建設)	5/18~8/7	縄文(前期・ 中期・後期・ 晩期)・ 弥生(後期)	竪穴住居・掘立柱建物・ 土坑・ピット	縄文土器・石器・土偶・ アスファルト塊・粘土 塊・炭化種実(縄文)、 弥生土器	5

(1) 道正遺跡 第3次調査 (2020001)

所在地 新潟市江南区割野字道正2868 外

調査の原因 主要地方道新潟中央環状線道路改良工事  
(公共事業)

調査期間 令和2年4月7日～12月11日

調査面積 4,313㎡

調査担当 高橋保雄

調査員 遠藤恭雄、  
藤本隆之・山中悟郎・金内元・櫻井和哉  
武部喜充・小村正之(株ノガミ)

処置 記録保存

**調査に至る経緯** 主要地方道新潟中央環状線道路改良工事に先立ち平成30・31(2018・2019)年度に行った試掘調査で新たに発見された縄文時代から平安時代にかけての遺跡である。発掘調査は平成30年11月19日付けで『法』94条の通知が提出されたのを受け、令和元年度に道路本線部分の上層3,000㎡を、2年目の本年度は、中・下層の3,000㎡が対象となり、令和2年4月1日付けで着手報告を提出し、本発掘調査を実施した(図1)。

**位置と環境** 遺跡の周辺は、東に阿賀野川、西に信濃川、南に小阿賀野川が流れる沖積地であり、付近一帯は標高1m前後の水田地帯である。調査地内で見つかった埋没砂丘は、その立地から北東に連なる亀田砂丘前列(新砂丘I-2、形成年代約6,900～6,600年前)の延長線上に位置する砂丘列の一部と思われる。

**層序** 基本層序はI層が客土(盛土層)、II層が旧耕作土、III層が水田床土、IV層が灰色シルト層で河川の洪水堆積層、V層がシルト層と未分解植物層の互層で最下層の黒灰色シルト層が平安時代の遺物包含層、VIa層が黄灰色シルト層で上部が平安時代、下部が古墳時代の遺物包含層である。平安時代の遺構確認面はVIa層中である。VIb層は砂丘縁辺部から周辺の低地に広がる黄灰褐色腐植土層である。VIc層は褐灰色砂質シルト～シルト質砂で、上部が古墳時代、下部が縄文時代の遺物包含層である。古墳時代の遺構確認面はVIc層中である。VIIa層は植物の腐植に由来する黒色砂で上部が縄文時代の遺物包含層及び遺構確認面である。

**検出遺構** **縄文時代晩期** 埋設土器5基、土坑6基を検出した。**古墳時代前期** 竪穴建物2棟、土坑29基、溝、遺物集中出土箇所などが見つかった。竪穴建物は規模9.4×8.6m(面積80.84㎡)を測る特大型である。また床掘方は中央部が高く壁際に向かって低くなるという湿気に配慮した構造を持つ。**平安時代** 掘立柱建物7棟、土坑、溝、井戸などが見られた。掘立柱建物はすべて北西方向に主軸をそろえるもので、冬の季節風を意識したも



図1 調査位置図(1/10,000)



調査地全景(南西から)



船の線刻土器(古墳時代前期)

のと思われる。掘立柱建物には高床の総柱建物が3棟あり、内2棟には床を支える束柱が認められた。

**出土遺物** 遺物はコンテナにして297箱出土した。約半数が古墳時代前期の遺物であり、充実した資料になるものと思われる。遺物集中出土箇所から出土した線刻土器には3艘の準構造船が描かれ、内1艘は縦板型準構造船と櫂8本がリアルに描かれている。また長さ48.0mm、重さ39.0gを測る県内最大級の大きさを誇る縄文時代のヒスイ製勾玉も注目される。

**まとめ** 縄文時代晩期中葉、古墳時代前期、平安時代(9世紀後半)の時期が限定されたまとまりのある遺構と遺物はこの地域の基準資料になりえるものである。また砂丘の先端部に立地した遺跡の性格を考えるうえで重要である。(高橋保雄)



(2) 岡崎遺跡 第4次調査 (2020002)

所在地 新潟市江南区割野字岡崎3875外  
 調査の原因 主要地方道新潟中央環状線道路改良工事  
 (公共事業)  
 調査期間 令和2年6月22日～12月11日  
 調査面積 1,646㎡  
 調査担当 奈良佳子  
 調査員 遠藤恭雄、  
 櫻井和哉・山中悟朗・武部喜充  
 (株ノガミ)  
 処 置 記録保存

**調査に至る経緯** 岡崎遺跡は、平成30年主要地方道新潟中央環状線(嘉瀬・割野工区)道路改良工事に伴う試掘調査(2018128・新歴B第26号)で新たに発見され、地下に埋没した砂丘上に立地する古墳時代・平安時代の複合遺跡とされた。平成30年11月19日付けで新潟市長より『法』94条に基づく発掘の通知が提出された。同年12月4日付けで新潟県教育委員会委員長より発掘調査実施の通知が提出された。平成31年1月15日～2月7日に行った土地区画整理事業に伴う試掘調査(2018213)により遺跡範囲が南に拡大した。令和2年6月1日付け新歴F第46号で着手報告を提出し本発掘調査を実施した(図1)。

**位置と環境** 亀田砂丘西端部の先の沖積地に立地する。標高は約0.5～1.5m前後である。道路を挟んで東に道正遺跡が隣接する。南には平成31年土地区画整理事業に伴う試掘調査(2018236)で新たに発見された岡崎南遺跡が存在する。

**概要と層序** 埋没砂丘の頂部から北側の湿地・斜面を検出した。頂部は削平されていたが、斜面部では新潟砂丘の海側斜面の特徴をよく残す。

基本層序は、I層が水田耕作土及び床土、II層・IV層が河川堆積層、III層が薄い腐植土層、Va層が複数の洪水堆積層と薄い腐植土層、Vb層が厚い腐植土層、Vc層が平安時代の遺物包含層で、遺跡廃絶後の形成層をVc1層、遺跡活動期の形成層をVc2層とした。両層の出土遺物に年代差はみられない。VI層は古墳時代以前の遺物包含層で、VIa層が洪水堆積層で平安時代の遺構確認面、VIb層が腐植土層と洪水層の互層、VIc層がシルト質黒色砂、VII層は砂丘表層の黒色砂で縄文時代の遺構確認面である。

**検出遺構** 縄文時代・平安時代の遺構を検出した。主体は平安時代のものである。縄文時代：土坑2基(後期・晩期各1基)。平安時代：4基の土坑の内1基は底面が焼土化したもので鍛冶炉と判断した。斜面に平行してピットが並ぶ柵、等高線に沿って帯状に盛土した盛土遺



図1 調査位置図(1/10,000)



調査区全景(南東から)

構が見られた。柵は遺跡の中心とみられる砂丘頂部と縁辺部を区画するもの、盛土遺構は砂丘地形の改変と捉えられる。ほかに溝状遺構2条、ピット32基がある。

**出土遺物** 縄文時代中期から弥生時代、古墳時代の遺物が断続的に少量出土する。最も多いのは平安時代の遺物で、砂丘の斜面部～縁辺部のVc1・Vc2層から多く出土している。砂丘頂部からの廃棄・流れ込みと思われる。保存状態がきわめてよく、遺存率が高い。

須恵器の多くは佐渡小泊窯跡群産と推定され、9世紀後半に位置付けられる。また土師器煮炊具には佐渡型甕も目立つ。このほか墨書土器や硯に転用された須恵器蓋の多さ、石製腰帯具の鉞尾、可搬式カマドなどの出土が注目される。これらは遺跡の性格を考えるうえで貴重な資料である。

**まとめ** 令和元年度からの道正遺跡の調査成果に加え、埋没した亀田砂丘のさらに西側の様相が明らかになった。砂丘頂部の削平により遺構の様相は不明であるが、遺跡の中心は当調査区より南側と推定される。遺存率の高い平安時代の土器群は当地域の土器研究に資することが期待できる。報告書は令和5年度刊行予定である。(奈良佳子)

### (3) 曾我墓所遺跡 第3次調査 (2020003)

所在地 新潟市江南区横越6047 外

調査の原因 雨水調整池新設 (公共事業)

調査期間 令和2年4月1日～11月27日

調査面積 4,770㎡

調査担当 龍田優子

調査員 澤野慶子 (～7月)、  
脇本博康・高柳俊輔・阿部司 (～10月)・  
中川晃子 (8月～) (榊吉田建設)

処置 記録保存

**調査に至る経緯** 雨水調整池建設工事に伴う試掘調査 (第1次・2017250) の結果、事業予定地全域が本発掘調査の対象となった。面積が広大なため発掘調査を2か年で実施することになり、令和2年10月9日付けで東部地域下水道事務所から『法』94条の通知が提出された。

令和元年度 (第2次・2019001) は東側、翌年は令和2年4月1日付け新歴F第19号で着手報告を提出し、前年度調査区の一部を含む西側の本発掘調査を実施した (図1)。

**位置と環境** 阿賀野川左岸の自然堤防上に立地し、現地の標高は3.9m前後で、現況は水田・畑・農道である。周辺の自然堤防上には古代・中世の遺跡が点在し、遺跡の北西約2.5kmに位置する亀田砂丘には縄文時代から平安時代の遺跡が多く分布している。

**検出遺構** 掘立柱建物4棟、竪穴建物7基、井戸2基、土坑200基、性格不明遺構48基、溝62条、ピット222基などを検出した。建物跡が分布し居住域と考える調査区北東側の井戸からは丸木舟を転用した井戸側が検出された。また、居住域から少し離れた西側では須恵器環状瓶や鳥形製品・鉄製錫杖などがまとまって出土した祭祀的な遺構が検出された。

**出土遺物** 8世紀から9世紀初頭の土器を中心にコンテナで246箱の遺物が出土した。主体となるのは8世紀後半の須恵器食膳具で、阿賀野川以北や新津丘陵で生産されたものが多いが、小泊窯跡のものも少量含む。土師器は煮炊具を中心に杯類も認められる。また、石製品や鉄製品・鍛冶関連遺物などが目立つほか、古墳時代の土器もわずかに出土している。

**まとめ** 遺構の分布から調査区北東側に居住域、南西側には生産域、居住域から少し離れた西側では祭祀的な空間が広がる。また、膨大な遺物量と祭祀的な遺物は、遺跡が立地するこの場所が奈良時代の物流拠点として河川交通の要所であった可能性を示唆している。

報告書は令和元年度に同事業で実施した調査と合わせて令和4年度に刊行する予定である。 (龍田優子)



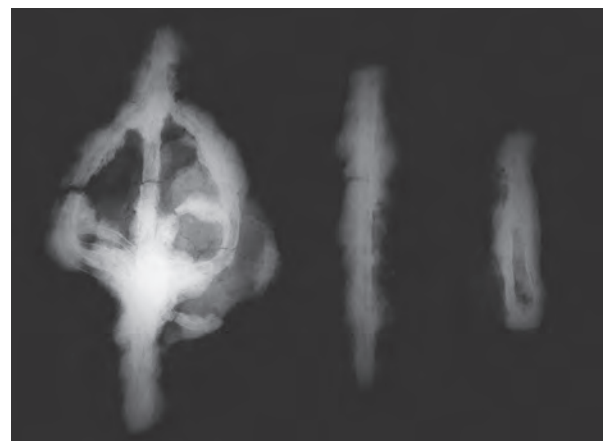
図1 調査位置図 (1/10,000)



井戸側検出状況 (SE278・南東から)



須恵器環状瓶 (SK419)



鉄製錫杖 (X線画像) (SK419)



#### (4) 原遺跡第11次調査 (2020004)

所在地 新潟市秋葉区程島字原208番2

調査の原因 個人住宅建設 (民間事業)

調査期間 令和2年5月25日～7月30日

調査面積 210㎡

調査担当 諫山えりか

調査員 吉田浩 (株吉田建設)

処置 記録保存

**調査に至る経緯** 個人住宅建設に先立ち、令和元年12月に事業者より照会があった。隣接地で行われた本調査(第10次・2018003)の結果等から、遺跡の広がりが確実であり、保護層確保が困難と判断された。事業者と協議を行い、住宅建設予定地全域の本発掘調査を実施することで合意した。令和元年12月10日付けで『法』93条届出が、令和2年2月20日付けで発掘調査依頼書が事業者より提出された。これを受けて令和2年5月19日付けで着手報告を県教委に提出し、本発掘調査を実施した。

**位置と環境** 遺跡は新津丘陵の北西部、丘陵から張り出した台地上の尾根に立地する。調査地は、遺跡範囲のほぼ中央付近に位置する。東側は谷に接し、北東方向に緩やかに傾斜している。現地表面の標高は約25mで現況は宅地である。周囲はお茶栽培が盛んな場所で調査地も以前は茶畑として利用されていた。市域では著名な縄文時代の遺跡であり、明治時代以来、多くの研究者が踏査を行い、その遺物が研究誌・市町村史に紹介されてきた。今回の調査は、旧新津市教委による調査も含めて第11次調査にあたり、記録保存を目的とする2回目の本発掘調査である。

**概要と層序** 第10次調査に準ずる。基本層序はI層が表土(旧耕作土)、II・III層が遺物包含層、IV層上面が遺構確認面、IV層以下が基盤層である。茶畑の造成・耕作による攪乱が著しく、調査地の大部分において削平がIV層の上面まで及んでいた。調査区北東端部においてわずかにII層の残存が確認された。I層からは縄文時代・近世～現代の遺物が出土しており、土地利用により包含層と表土が混ざった結果と考えられる。

**検出遺構** 検出された遺構は袋状土坑1基、土坑13基、性格不明遺構1基、小土坑23基である。時期は概ね縄文時代中期から晩期で、後期前半のものが多い。調査区北東端で検出されたSK38では、ほぼ直立した状態の筒型土器などが出土している。

**出土遺物** 縄文時代中期前半から晩期後葉の土器を中心にコンテナで28箱の遺物が出土した。土器の主体は後期前半である。土器片の一部には、アスファルトの付着したものもある。土製品では、後期とみられる土偶頭



図1 調査位置図 (1/10,000)



調査区全景 (下が北東)



遺物出土状況 (SK38) (南西から)

部と遮光器土偶の肩部～腕部片が出土している。石器では、石鏃や石錐、磨製石斧、磨石、台石など生業に関する道具が出土している。

**まとめ** 今回の調査では、縄文時代後期前半を主体とする遺構・遺物が確認された。北側に隣接する第10次調査地では晩期が主体を占め、主体となる時期が異なる点が注目される。残存状況が良好とはいえない中で相当数の遺構・遺物が確認されており、縄文時代中期から晩期における新津丘陵の拠点集落とされる原遺跡の一端をうかがわせる結果が得られた。

報告書の刊行は令和4年度の子定である。(遠藤恭雄)



### (5) 平遺跡第9次調査 (2020005)

所在地 新潟市秋葉区小口字居平1134-1

調査の原因 個人住宅 (民間事業)

調査期間 令和2年5月18日～7月21日

調査面積 113㎡

調査担当 前山精明

調査員 長沼吉嗣・中川晃子 (株吉田建設)

処置 記録保存

**調査に至る経緯** 個人住宅の建設計画に伴い、令和元年度に確認調査が行われた。同地は本遺跡の中で遺物が最も密に分布する区域の一角に位置する。調査の結果、遺物包含層と遺構が良好に保存されることが判明し、本発掘調査による記録保存が必要と判断された。その後調査範囲に関する協議が行われ、令和2年3月10日付け『法』93条の提出を受け、住宅建設予定地内に生育する樹木の移植地を合わせた113㎡について調査を実施した。

**位置と環境** 遺跡は新津丘陵の東麓を流れる能代川の河畔に面して形成された中位段丘上に立地する。調査地は段丘崖線に近い平坦地にあたり、現地表面の海拔は20m、沖積地との比高は10mほどを測る。背後に海拔100mに満たない山地が広がり、眼下に阿賀野川や早出川が眺望できる場所である。

**層序・検出遺構** 調査地の堆積土はI層～IV層に大別できる。I層・II層は盛土層で、IV層 (基盤粘土) 上に堆積するIII層 (黒褐色土) が本来的な遺物包含層である。本次調査では、III層上面から構築される遺構の存在が着手直後に明らかになった。そのため作業は、III層上面での遺構調査、III層の掘り下げ、IV層上面での遺構調査の順に行った。このうちIII層上面遺構の多くは肉眼的な識別が困難で、粘性やしまりの違いから見出したものである。

確認できた遺構は、III層上面で土坑28基・ピット59基、IV層上面で竪穴住居1棟・土坑7基・ピット189基である。覆土出土土器に基づけば、III層上面の遺構は縄文時代中期前葉と後期前葉に構築されたものが混在する。

二時期の間には大きな年代差があり、後期の遺構構築面が既に削平されていることをうかがわせる。IV層のピットは総じて掘込み深度が浅い。調査地壁面での観察によれば、IV層上面から掘込まれる遺構は数少なく、IV層上面確認遺構の大半が下部のみの把握に留まると考えられる。両層で確認したピットには柱痕が残るものが多くあり、亀甲形2棟、方形～長方形16棟の掘立柱建物が想定できる。所属時期は、いずれも後期前葉。なお、III層の包含層調査では後期前葉土器も出土した。上記のような状況に基づけば、これらは後期の遺構覆土内資料とみなされる。



図1 調査位置図 (1/10,000)

遺構の中で特筆されるのは、土器の混和材となりうる砂粒が多量に堆積する9基の土坑である。この中には福島県沼沢火山の噴火に由来する軽石を含むものがあり、阿賀野川の氾濫原から採取した砂粒と考えられる。

**出土遺物** 口縁部集計で300個体あまりの縄文土器・土偶3点・焼成粘土塊90点・石器60点・アスファルト塊2点と若干の炭化種実が出土した。

縄文土器は中期前葉が80%あまりにのぼる。これに次いで後期前葉が多いが、それ以降は後期中葉・晩期後葉土器が少量確認できたのみである。主体を占める中期前葉土器は3時期に区分できる。北陸の編年に照らすと、1期は新保式II期、2期は同III期、3期は新崎式I期に平行する。1期では角田山麓遺跡群との強い関わりが指摘できるが、2期に入ると本遺跡の独自性が現われ、III期では阿賀野川流域的な様相を見せるようになる。

石器は磨石・敲石類が主体を占める。これに石鏃・礫石錘・磨製石斧が付随する点で、当地の石器組成の特徴を良く表す。本次調査では5種の炭化種実 (クルミ・クリ・トチ・ヒシ・カラスザンショウ) が確認されており、磨石・敲石類に関わる植物利用活動の一端を示す。

土偶の中の1点は、体長3cmたらずの極小品。頭部の一部が欠損するが、本来は完全な姿をとどめたと考えられる中期前葉の資料である。上越市長峰遺跡に類例があり、新潟県内で少数ながらも普遍的に存在した土偶の可能性を示唆する。

新津丘陵の地理的特性にちなんだ資料として注目されるのは、アスファルト塊とアスファルト付着土器である。後者の中には中期前葉1期に遡るものがあり、当地におけるアスファルトの利用上限となる。

**まとめ** 調査は113㎡たらずの小規模なものであったが、得られた情報は多岐にわたり、遺跡の形成過程、土器混和材の入手と保管、土偶の使用法、アスファルトの利用を考えるうえで良質な知見を提供してくれた。

(前山精明)

### 3 整理作業の概要

令和2年度に文化財センターが実施した本発掘調査などの整理作業の一覧を調査番号順に表3に、令和2年度に刊行した報告書などを刊行順に表4に示した。

#### (1) 試掘・確認調査、工事立会、本発掘調査の再整理事業

試掘・確認調査、工事立会は、基本的に歴史文化課埋蔵文化財担当で実施し、出土遺物は調査担当の指示により文化財センターで水洗・注記・収蔵作業を行っている。

令和元年度に引き続き、県営圃場整備事業に伴う試掘・確認調査の対象面積が広大なため一部調査は文化財センター職員が担当した。これらの調査結果については調査担当がまとめた概要を県教育委員会に報告しているが、一般的な報告書の形での公開はしていない（年報6号まではこれらのうちの主要な遺跡について検出された遺構・遺物の紹介をしていたが、整理に要する時間の都合などからその後は割愛している。）

令和2年度は令和元年度の試掘・確認調査、工事立会に伴う遺物の整理を行い、41調査分でコンテナ約20箱を収蔵した（古津八幡山遺跡確認調査を除く）。本発掘調査の報告書刊行済みの掲載遺物は、コンテナへの再収納、各

種台帳の内容確認及び修正作業や未入力項目の入力などを行った。

#### (2) 整理作業

表3に示したとおり、8遺跡の本発掘調査について整理作業を行い、順次報告書を刊行している。県営圃場整備事業両新地区に伴う細池寺道上遺跡の報告書作成は最終年度となった。発掘調査が2年度に及んだ道正遺跡は複合遺跡で遺物量が多く、注記機械の導入などで作業の効率化を図り整理を進めた。個人住宅建設に伴う調査においても現地調査が複数年度に及ぶものが2遺跡ある。

#### (3) 令和2年度刊行報告書

発掘調査は報告書の刊行をもって完了する。報告書は、調査終了後、可能な限り早期の刊行が望まれる。

令和2年度に報告書を刊行した本発掘調査は2遺跡である（表4）。細池寺道上遺跡は県営圃場整備事業に伴いこれまで継続して本発掘調査・報告書刊行を行ってきた。平成21年度に実施した第29次調査（2009003）と、平成22年度に実施した第31次調査（2010003）の報告を『細池寺道上遺跡X』として刊行した。本報告をもって同事業に関連する報告書の作成は完了となった。そのほかに平成29年に個人住宅建設に伴って調査した秋葉遺跡（2017005）の調査報告書も刊行した。（奈良佳子）

表3 令和2年度整理作業一覧

遺跡名・事業名	調査回数	調査番号	調査原因	整理担当	主な作業内容
細池寺道上遺跡	29・31	2009003・2010003	圃場整備	立木宏明・奈良佳子	報告書作成・刊行
秋葉遺跡	13	2017005	個人住宅建設	今井さやか	報告書作成・刊行
程島館跡	7・9	2017006・2018002	個人住宅建設	龍田優子	報告書作成
原遺跡	10・11	2018003・2020004	個人住宅建設	立木宏明	基礎整理・報告書作成
曾我墓所遺跡	2・3	2019001・2020003	雨水調整池整備	澤野慶子・龍田優子、 脇本博康・高柳俊輔・阿部司・中川晃子（㈱吉田建設）	基礎整理
道正遺跡	2・3	2019002・2020001	道路整備	高橋保雄・遠藤恭雄、 藤本隆之・山中悟郎・金内元・櫻井和哉・武部喜充・ 小村正之（㈱ノガミ）	基礎整理
岡崎遺跡	4	2020002	道路整備	奈良佳子・遠藤恭雄、 櫻井和哉・武部喜充（㈱ノガミ）	基礎整理
平遺跡	9	2020005	個人住宅建設	前山精明	基礎整理
試掘調査・確認調査・ 工事立会・本発掘調査再整理事業	-	-	各種事業	八藤後智人・相澤裕子	収蔵作業・台帳作成・ 遺物修復

表4 令和2年度刊行発掘調査報告書等一覧

書名	副書名	発行年月日	執筆者
秋葉遺跡 第13次調査	個人住宅建設に伴う秋葉遺跡第2次発掘調査報告書	2021年2月26日	今井さやか・立木宏明 <sup>ほか</sup>
細池寺道上遺跡X 第29・31次調査	県営圃場整備事業（担い手育成型）両新地区に伴う細池寺道上遺跡第13・14次発掘調査報告書	2021年2月26日	立木宏明・奈良佳子 <sup>ほか</sup>
令和2年度 史跡古津八幡山 弥生の丘展示館 企画展開連講演会 記録集		2021年3月30日	田中真理 <sup>ほか</sup> （編集）

## 4 資料の収蔵・保管

各項の概要及び基本的事項の詳細は、『年報』第1号に記載されている〔渡邊2014a〕。

### (1) 収蔵方針

文化財センターは、新潟市内で発掘調査によって出土した遺物や、写真・図面などの記録類を一括集中管理している。

また、文化財センター開館前の平成22年以前の発掘調査によらない考古資料は、各区の博物館や資料館などで保管・管理が行われている。

### (2) 収蔵・保管施設

収蔵・保管施設には、埋蔵文化財収蔵庫・特別収蔵庫1（木製品）・2（金属製品）・資料収蔵庫・図書室・民俗資料収蔵庫がある。民俗資料収蔵庫はⅢ4(6)に記載した。

**埋蔵文化財収蔵庫** 土器や石器など温湿度変化の影響を受けにくい資料を収蔵している。令和3年3月末時点でコンテナ・段ボール箱12,074箱収蔵されている。

**特別収蔵庫1・2** 保存処理が完了した木製品や金属製品などを収蔵している。令和3年3月末時点で特別収蔵庫1にコンテナ1,043箱（木製品）、特別収蔵庫2にコンテナ193箱（金属製品99箱、骨・骨製品94箱）収蔵されている。特別収蔵庫1では31箱、特別収蔵庫2では2箱増加した。

**資料収蔵庫** 発掘調査の図面や写真フィルム・測量成果簿、CD・DVDなどの記録類を収蔵している。

**図書室** Ⅲ6(6)に記載した。

### (3) 発掘調査番号

遺物や調査記録類をまとめるために、新潟市内における全ての発掘調査（試掘・確認調査、本発掘調査、そのほかに工事立会を含む）に対して年度ごとに調査番号（7桁）を付けている。

### (4) 再整理作業

過去の調査資料について、令和2年度も継続して台帳整備などの作業を行っている。また、報告書刊行済みの資料は、適宜点検を行い、接着剤や充填材の経年劣化による破損が認められるものについて修復を進めた。

### (5) 収蔵資料のデジタル化及びデータベース化

保存と活用のために、遺物・遺構に関しては台帳を作成し、図面や写真などの記録類はデジタル化されている。

発掘調査図面は、殆どが業者に委託したデジタルデータ（CADデータ）が存在する。

写真に関しては、発掘調査終了後速やかにデジタル化を行っており、データ形式も汎用性を考えてtiffデータ

としている。

発掘調査報告書に関しては、印刷業者に編集データを入稿する前もしくはその後にpdfデータを作成している。しかしながら、データ化が不統一であり一般公開までに至っていない。

収蔵図書に関しても書誌データ（CSV形式）を継続して登録している。（今井さやか）

### (6) 民俗資料など

民俗資料収蔵庫には、旧黒埼町で使用され保管されてきた農具・漁労具・生活用具等の民具が収蔵されている。平成23年の開館以来、民俗資料に関しては整理作業がほぼ手つかずのままであったが、平成29年10月より本格的に再整理作業を開始した。

民具収蔵庫内を11のブロックに分け、ブロックごとに所在確認や、旧黒埼町時代に作成された台帳との照合作業を進めている。台帳に掲載されている整理番号の重複や、実物の所在が確認できないもの、添付されている写真と実物との相違など、今後解決しなければならない諸問題が明らかになっている。当センターの令和2年度における民具の収蔵数は台帳に記入が確認できる範囲で2,123件であり、未整理分も含めると約3,000件になる。令和3年3月時点で、1,134件の所在確認と台帳の照合作業が終了した。これとは別に、作業の過程で台帳に掲載されていない民具が518件ある事も判明している。

また、文化財センターに隣接する旧木場小学校校舎は、「大型民具収蔵庫」として利用され、文化財センターの民具は20件所蔵されている。敷地・建物を文化財センターが、収蔵品の民俗資料は歴史文化課・新潟市歴史博物館が管理している。（久住直史）

### (7) 埋蔵文化財情報管理システム

埋蔵文化財の管理と活用、デジタル化した記録類のデータ管理を目的として、平成27年6月1日より『埋蔵文化財情報管理システム』を活用している。遺跡管理のための地理情報管理システム（GIS）と発掘調査記録や収蔵品管理のためのデータベースの機能を併せ持ったシステムである。このシステムは新潟市の統合型GISのサブシステムとして構築されている。

システムの機能としては、「遺跡管理」「発掘調査管理」「埋蔵文化財保護業務」「出土品管理」「記録類（図面）検索」「記録類（写真）検索」「遺物検索」「木製品、金属製品検索」「図書検索」「地図表示」を備えている。発掘調査履歴を歴史文化課・文化財センター双方で共有できるため、開発協議や調査準備等に利用されている。

運用開始から5年が経過し、現在新潟市の統合型GISシステムの入れ替えが検討されている。（今井さやか）



## 5 資料の公開・展示

### (1) 展示概要

『新潟市文化財センター条例』の設置目的にある「埋蔵文化財及び有形民俗文化財を保存し、及びこれらの活用を図る」主な事業の一つとして埋蔵文化財・有形民俗文化財の展示を行っている。詳しい方針及び概要については、『年報』第1号に記載している〔渡邊2014b〕。

平成26年度から文化財センター企画展を開催し、令和2年度で7年目を迎えた。内容については、市内8区の遺跡について時代や地域に偏りがないようテーマを選び全3回開催した(表5)。今年度は、中央区、西蒲区の遺跡をそれぞれ取り上げた。企画展2は、古津八幡山遺跡弥生の丘展示館との2会場で行い、当センターが第2会場として、主に県外資料の展示を行った(企画展2についてはIV1(3)に記載)。また、企画展示の扱いはないが、今年度発掘調査で話題を集めた曾我墓所遺跡と道正遺跡・岡崎遺跡の「発掘調査速報展示」を開催した。なお、企画展は、経費の50%について国の補助金「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」を受けた。

**展示室1** 導入展示室兼、展示室2の前室としての機能を有している。「歴史を伝える出土品の世界」と題して、市内で出土した縄文時代から近世の土器陶磁器、縄文時代から近世の木製品を、壁一面に展示している。また、平面ケースにて緒立遺跡出土の網代や市内出土の木簡レプリカ104点、近世新潟町出土の陶磁器を展示している。御井戸遺跡の大型木柱4点も導入展示室での展示である。令和2年度は展示の変更を行わなかった。

**展示室2** 「新潟市文化財センターの活動」、「遺跡が語る新潟市の歴史」、「企画展示コーナー」の大きく3つの展示に分かれている。「新潟市文化財センターの活動」の一角には平成28年度より「日本遺産関連展示」コーナーを設置して、「秋葉遺跡」と「大沢谷内遺跡」を毎年展示し日本遺産について紹介している。展示室中央の企画展示コーナーでは3回の企画展を開催した。各展示詳細についてはIII5(2)・(3)に記載するが、企画展2については、弥生の丘展示館との2館同時開催であったため、新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場の中でまとめて記

載する(IV1(3))。

**エントランス** エントランスでは、須恵器大甕・旧小澤家住宅出土の肥前系陶器大甕などの大型土器や速報性のある出土品を展示している。令和2年度は引き続き角田沖から揚がった縄文土器を展示したほか、前年度に企画展で展示し好評だった大正3年帝国陸軍陸地測量部発行の地形図と昭和23・24年の米軍撮影航空写真を通年で掲示した。また、年度末に開催した「発掘調査速報展示」もエントランスで行った。

**館外展示** 令和2年度は館外展示を行わなかった。

**まとめ** 来館者アンケートからいくつか紹介する。「特に価値のある遺物について、個別に解説をつけて欲しい」「他県の遺物も巡回で展示して欲しい」「〇〇時代という表記ではなく、〇年前といった表記の方が歴史をあまり知らない人にとってわかりやすいのではないか」「展示室入口がわかりにくい、床に矢印をいれたらどうか」等の声が寄せられた。展示室入り口のわかりにくさは、改善を行っているが、毎年のように改善要望として来館者から指摘を受けている。抜本的な見直しが必要かもしれない。

新型コロナウイルスに伴う緊急事態宣言の発令を受け、当館では令和2年4月21日から5月10日までを臨時休館とした。再開するにあたり、感染症対策としてアルコール消毒液の設置、展示室空調の外気取り入れ機能を開館時間中常時稼働し換気を行う、展示室の入場上限人数を設定するといった対策をとった。(今井さやか)



速報展示の様子

表5 令和2年度文化財センター企画展一覧

企画展名	会期	企画担当	入館者数(人)	関連講演会・イベント			
				演目	年月日	講師	参加者数(人)
近世新潟町展2	2020/4/14(火)～9/6(日)	今井さやか	1,398	発掘調査成果からみた江戸時代の暮らし	2020/7/19(日)	今井さやか	28
天王山式土器からみた東日本の弥生社会(第2会場)	2020/9/15(火)～12/20(日)	渡邊朋和	2,480				
林付遺跡展—発見された地名「川合(川井)」と古代荘園「川合庄」—	2021/1/9(土)～3/28(日)	相田泰臣	1,647	越後国の古代荘園と林付遺跡	2021/2/21(日)	相澤 央氏 (帝京大学文学部准教授)	30
発掘調査速報展	2021/3/9(火)～4/4(日)	龍田優子 高橋保雄	597				

## (2) 企画展1 「近世新潟町展2」

会 期 令和2年4月14日(火)～9月6日(日)

※期間中4月21日から5月10日まで緊急事態宣言に伴い臨時休館

担 当 今井さやか

入館者数 1,398人

**展示概要** 新潟市は、開港5港に選ばれた日本海側有数の港町である。湊町である新潟町は1655年に寄居にあったとされる「古新潟」から現在地に移転し、西廻り航路の整備とともに発展した。現在、移転初期の範囲を「近世新潟町」として周知化をしている。これまでの確認調査の成果からわかった江戸時代の新潟町の暮らしを紹介する。

### 展示構成

- 1) 新潟町の概要
- 2) 新潟町の生業—鑄物師・椀店—
- 3) 新潟町の建物
- 4) 江戸時代の暮らし
- 5) 最新発掘調査成果

**主要展示** 1)では、新潟町の概要とし、新潟町の成り立ちや、西廻り航路での移出入品の紹介を行った。2)生業では、旧大和デパートの解体工事に伴う試掘調査で見つかった漆工関連遺物や、西堀前通2番町の鑄物師屋敷跡から出土した遺物を展示した。3)では主に広小路地点で出土した建築材を展示し、江戸時代の地盤改良の工夫について紹介した。

4)では硯・筆立てなど町人の町新潟町ならではの暮らしがわかる遺物のほか、身だしなみを整える櫛や鏡・白粉を入れる段重・紅皿を展示。また新潟町の墓域と江戸時代の墓地形式を紹介した。特に新潟町で出土した木製卒塔婆は長さが3.6メートルあり、それを立てた状態で展示し、高さを実感してもらった。

5)では、平成27年度の「近世新潟町展」以降に発掘調査が行われた4地点について紹介を行った。中でも西新道地点では、有田の大皿が多数出土し、大皿料理が出されるような花街であったことを彷彿させている。また一番堀通地点出土の松郷屋焼の焼酎徳利を5点展示し、明治初期の分布から松郷屋焼が北海道に多く移出されたことを紹介した。

### 関連講座

演 目 発掘調査成果からみた江戸時代の暮らし

講 師 今井さやか(文化財センター職員)

日 時 令和2年7月19日(日)

午後1時30分～3時00分

参加者数 28人

近世新潟町のこれまでの調査成果を紹介し、江戸時代の新潟町の発展や生業の様子などを紹介した。新しい生活様式の中で初めての講座開催であったことから、事前申込み制とし定員を30名に減らし開催を行った。参加者からは「この社会状況・制約の中、対面型で開催してもらえてよかった」「参加人数が減るので午前・午後と2回同内容で開催してもいいのではないかなど、コロナ禍での講演会運営に関して貴重な意見をいただいた。

**展示解説** 講演会終了後に企画展担当者による展示解説を実施した。

**来館者の声** 展示内容に関して「なじみの町の歴史について新たな発見が多く勉強になった」と肯定的な意見もあった一方で、「展示パネルの文字・図が小さい、見て欲しいと思っていないのでは? やっつけ仕事ですね」という厳しい意見も寄せられた。

**ま と め** 近世新潟町の調査成果の展示については、新潟シティガイドをはじめ観光・地域おこし方面からの反響が大きかった。現在の新潟町は商業地で、かつての湊町の痕跡を見出しにくいことから、発掘調査の成果に注目しているものと推察する。今後も調査成果が蓄積し次第「近世新潟町展3」を企画したい。(今井さやか)



木製卒塔婆の展示



展示解説の様子



(3) 企画展3「林付遺跡展—発見された地名「川合(川井)」と古代荘園「川井庄」—

会 期 令和3年1月9日(土)～3月28日(日)

担 当 相田泰臣

入館者数 1,647人

**展示概要** 林付遺跡は、新潟市立潟東南小学校(現在は統合されて潟東小学校)の体育館建設に伴い平成22(2010)年に実施した発掘調査で、平安時代に調査地周辺が「川合(川井)」という地名で、「川井庄」という文献には登場しない荘園が存在したことが明らかになった。大型の掘立柱建物も確認され、荘園に関連した施設(荘所)であると考えられている。

企画展では、発掘調査を行ってから10年目となる節目の年に、改めて林付遺跡の発掘調査成果を振り返るとともに、他の荘園関連遺跡の事例と比較・検討を行うことで、林付遺跡の実態について考えた。

**展示構成**

1) 林付遺跡の概要 2) 林付遺跡の年代 3) 林付遺跡の掘立柱建物 4) 掘立柱建物(SB901)の樹種 5) 林付遺跡の墨書土器 6) 林付遺跡の生業 7) 県内の古代荘園 8) 林付遺跡の実像 9) おわりに

**主要展示** 3)・4)では、大型掘立柱建物から出土した柱を展示するとともに、エントランスの床面において廂を除く身舎部分の柱穴を、発掘調査現場の実寸大で復元標示した。また、県内の古代建物では珍しいキハダ属が5本の柱で使用されていたことから、キハダの加工など土地以外の経営も行っていただ可能性を紹介した。

5)では「川合」や「川井庄」の墨書土器から、遺跡周辺が当時「川合」という地名であったことや、「川井庄」という文献にない古代荘園が存在したことを解説した。

また、大型掘立柱建物周辺で出土した「館」の墨書土器や石帯、権状錘などから、その建物が古代荘園「川井庄」に関わる施設(荘所関連施設)との推定を示した。

7)では、県内の古代荘園関連遺跡として、加茂市の馬越遺跡(「妙越庄」墨書土器出土(以下、同))、長岡市の浦反甫東遺跡(「田庄」)・川東遺跡(「泉田西庄」)、上越市の岩ノ原遺跡(「石井庄」)・榎井A遺跡(「庄」)について出土遺物とともに説明し、林付遺跡との相違について検討した。

8)では、調査地が微高地の東端域にあたり、近くに河川の合流部が存在した可能性を指摘した。また、林付遺跡では、掘立柱建物や井戸、土坑、水田、畑地が一体となった集落景観が復元できるとし、この時期に官衙関連遺跡が減少することとあわせ、律令期に官人として官衙周辺に居住していた有力者の一部が中核的な存在と

なって、新たに再編した集落の可能性を推測した。

9)では、林付遺跡の西方約3kmに「河井」の字名が存在し、正保元(1644)年の「正保越後国絵図」などで現在の字名である「今井村」とともに「川井村」の地名が見られることから、古代との関連性がうかがえるとし、さらに古代には地名「川合(井)」が比較的広範囲に及んでいた可能性を指摘した。

**関連講演会** 企画展の関連講演会を開催した。

演 目 越後国の古代荘園と林付遺跡

講 師 相澤 央(帝京大学文学部准教授)

日 時 令和3年2月21日(日)

午後1時30分～3時00分

参加者数 30人

講師居住地の東京都で、新型コロナウイルスの影響により緊急事態宣言が発令されていたため、講師宅と文化財センターを結んでリモート形式で講演会を開催した。

**展示解説** 講演会終了後、展示担当による展示解説を1回開催した。15名の参加があった。

**入館者の声** コロナ禍であり講演会のリモート形式はやむを得ないという意見が多かった。また、リモート形式でも音声聞き取りやすかったという意見の一方、聞き取りづらかったという意見もあった。身近な郷土の歴史なので興味深く聞いた、理解が深まったという意見が多かったが、対象となる時代背景等の説明がもう少しあるとより理解が深まったのではという意見もあった。

**ま と め** 小学校敷地内での調査ということもあり、調査期間の期限が迫るなか、先生や生徒向けに現地説明会を開催したことが思い出される。

講演会と展示解説には現在の潟東小学校の先生からも来て頂いた。来年度から小中一貫校となるため、潟東小学校は遺跡のある場所から移転するとの話を伺った。節目の年に企画展を開催できたことをうれしく思うとともに、10年という歳月を改めて実感した。(相田泰臣)



展示風景

## 6 教育普及活動

### (1) 公開講座

文化財は地域の成り立ちなどを知る上で重要な役割を担っている。文化財センターでは市民が地域の歴史や文化に対する理解を深められるように、収蔵している考古資料・民俗資料を積極的に公開・活用し、様々な講座・体験イベントを実施している。以下、令和2年度に実施した公開講座の概要について述べる(表6)。

**講座** 考古学と民俗学関連の講座を行った。考古学関連の講座では企画展の内容に関連した講座を行った。詳細は各企画展の頁を参照いただきたい。民俗学講座については、専門家を講師に招き1回の講座を行った。

**体験イベント** 子ども向け歴史体験として「キミも考古学者」「の字状石製品づくり」「藍の生葉染め体験」を夏休みに開催した。

旧武田家住宅を会場に地域の方々との交流を目的としたイベントとして長年開催してきた、「旧武田家住宅で民具とお茶を楽しむ会」と「民具と民話を楽しむ会」についても、新型コロナウイルス感染症拡大により、令和2年度は開催を見送った。

**速報会** 令和2年度の遺跡発掘調査速報会では、午前を報告の部とし、4遺跡の報告を行った。午後の講演の部では「ヤマト政権・律令国家と新潟の地域社会」と題し、坂井秀弥氏からご講演いただいた。

開催に際して、新型コロナウイルス感染防止対策として、定員を半減・事前申込への変更・オンラインによる同時配信を実施した。参加者のアンケートからは、「坂井先生のような新潟にゆかりのある先生の講演がよい(会場参加者)」「同会場内で遺物の展示があり、すぐに確認できるのがよい(会場参加者)」「他県の速報会を見る機会もそうそうないので、オンラインで開催してもらえてよかった(オンライン参加者)」「病気で出かけられない家族と一緒に聴講できてよかった(オンライン参加者)」と概ね好評であった。

なお、オンライン参加者は78名で、40代が最も多く、これまで会場のみでは参加が少なかった年代から多く聴講していただけたことは有意義であった。

**出前講座・職員派遣** 文化財センターでは、依頼に応じて研究団体、地方自治体、市民団体などへ職員派遣を行っている。令和2年度は、小学校6年の出前利用が例年より多かった。新型コロナウイルス感染症対策として、校外学習ができず、出前講座を利用したと考えられる。また冬季に利用が集中する3学年の「昔の暮らし」は利用が堅調で、小学校向けの出前講座は15件(昨年度は10

件)の利用があった(表7)。

### (2) 施設利用

文化財センターでは、展示室のほかに「体験コーナー」として研修室を使用して新潟や埋蔵文化財に関連した体験学習ができるスペースを設置している。体験コーナーでは、「いつでもだれでも予約なしでできる個人向け体験」と、「予約をいただいた団体向けの体験」の2種類がある。いずれも材料費相当の負担をいただいている。また、無料の体験として人気のある新潟市から出土した土器をもとに製作した「土器パズル」については、接触感染防止の観点から、2021年2月から利用を休止している。

令和2年度は緊急事態宣言に伴う臨時休館後、6月より「勾玉づくり」のみで体験コーナーを再開した。その後9月より月別の体験メニューを復活させた。ただし、土器づくりなど長時間のメニューを削除したほか、既存のメニューも1時間以内で終わるようなオペレーションに変更した。令和2年度の総体験参加者数は個人682名(前年度1,926名)、団体1,185名(前年度3,680名)であり、半数~1/3に減少した(表8)。

また、旧武田家住宅及び体験広場(芝生)の貸出(有料)を行っている。利用状況は表9のとおりである。

### (3) 入館者数

当センターの入館者数は表10のとおりで5,893人である。令和元年度の9,577人に比べてほぼ半減した。

令和2年3月末までの開館からの累計入館者数は108,219人である。

### (4) 団体見学・施設見学

小学校が、見学と体験活動で利用することが多い。特に小学校では社会科の授業として春先には6学年の歴史で、秋から冬にかけては3学年の昔のくらしの学習で利用する傾向にある。

令和2年度では、小学校・中学校の利用は16校で前年の33校から半減した(表11)。なお、展示室・研修室での密を避けるため、120名を超える学校について2日間に分けて来館していただく対策をとった。

### (5) その他

コロナ禍で外出が控えられる状況をふまえ、令和2年度5月から、ホームページで「学芸員コラム」および「発掘調査ニュース」の連載を開始した。月に2回のペースで、日々の業務や注目される遺物などの内容で職員が輪番で記事を執筆した。これまでのホームページPV数は月に多くて100前後であったが、このページを開始したところ平均して200前後、最もPVが多かったのは曾我墓所遺跡の鳥形製品について記載したもので600PVを超えた。今後も発信を続けていきたい。(今井さやか)

表6 令和2年度公開講座一覧

講座・イベント

年月日	内容	講師	人数
2020/8/27 (木)	大人の藍の生葉染め	今井さやか	10
2020/9/5 (土)	民俗講座「旧武田家住宅と蒲原平野の民家」	瀬戸 智氏 (株式会社グリーン・シグマ)	14
2020/11/19 (木)	土器の切り絵講座	坂井輪切り絵同好会	13

夏休み子ども歴史体験

年月日	内容	講師	人数
2020/7/23 (木)	藍の生葉染め	今井さやか・平山千尋	19
2020/7/26 (日)	キミも考古学者	今井さやか・平山千尋	8
2020/8/2 (日)	の字状石製品をつくろう	今井さやか	9

新潟市遺跡発掘調査速報会

年月日	内容	パネリスト・発表者	人数
2021/2/28 (日)	講演 ヤマト政権・律令国家と新潟の地域社会	坂井秀弥氏 (奈良大学名誉教授・大阪府文化財センター理事長)	205 (会場127、 オンライン78)
	報告 平遺跡 —河岸段丘に営まれた縄文時代中期・後期の集落跡—	前山精明	
	報告 古津八幡山遺跡 —明らかになった大形竪穴建物の構造—	相田泰臣	
	報告 道正遺跡・岡崎遺跡 —水田下に埋没した砂丘の遺跡—	高橋保雄	
	報告 曾我墓所遺跡 —阿賀野川沿いにある交通の要所—	龍田優子	

表7 令和2年度職員派遣、出前講座一覧

年月日	内容	会場	依頼者	派遣職員名
2020/6/24 (水)	遺跡について (6学年歴史学習)	青山小学校	青山小学校	今井さやか・平山千尋
2020/7/7 (火)	遺跡について (6学年歴史学習)	木戸小学校	木戸小学校	今井さやか・平山千尋
2020/7/8 (水)	遺跡について (6学年歴史学習)	鳥屋野小学校	鳥屋野小学校	今井さやか・平山千尋
2020/7/22 (水)	亀田砂丘について	亀田西中学校	亀田西中学校	今井さやか・平山千尋
2020/8/17 (月)	勾玉づくり	小針青山公民館	小針青山公民館	今井さやか
2020/8/31 (月)	遺跡について (6学年歴史学習)	小針小学校	小針小学校	今井さやか
2020/9/26 (土)	遺跡について (発掘された江南区の遺跡)	江南区郷土資料館	江南区郷土資料館	立木宏明
2020/10/9 (金)	勾玉づくり	東町会館	サロン東町	今井さやか
2020/11/5 (木)	勾玉づくり	中之口東小学校	中之口東小学校ものづくりクラブ	平山千尋
2020/11/12 (木)	遺跡について (市内遺跡の紹介)	発掘調査現場 (道正遺跡・岡崎遺跡)	両川中学校	高橋保雄・奈良佳子
2020/11/15 (日)	こどもプロジェクト2020・中央公民館子ども体験事業 「アート×ヒストリー×ニイガタ」 江戸時代の新潟について	新潟市芸術創造村・国際青少年センター	新潟市文化創造推進課	今井さやか
2020/11/28 (土)	遺跡について (新しい「お宝発見」)	金津地区コミュニティセンター	金津地区コミュニティセンター	相田泰臣
2021/1/14 (木)	昔の暮らし	青山小学校	青山小学校	今井さやか
2021/1/19 (火)	昔の暮らし	下山小学校	下山小学校	今井さやか・平山千尋
2021/1/20 (水)	昔の暮らし	濁川小学校	濁川小学校	久住直史・平山千尋
2021/1/21 (木)	昔の暮らし	新通つばさ小学校	新通つばさ小学校	久住直史・平山千尋
2021/1/22 (金)	昔の暮らし	鎧郷小学校	鎧郷小学校	久住直史
2021/1/25 (月)	昔の暮らし	新津第三小学校	新津第三小学校	今井さやか
2021/1/26 (火)	昔の暮らし	女池小学校	女池小学校	久住直史・平山千尋
2021/1/27 (水)	昔の暮らし	根岸小学校	根岸小学校	久住直史
2021/1/28 (木)	昔の暮らし	牡丹山小学校	牡丹山小学校	久住直史・平山千尋
2021/1/29 (金)	昔の暮らし	桃山小学校	桃山小学校	今井さやか・久住直史・平山千尋
2021/2/5 (金)	昔の暮らし	大形小学校	大形小学校	久住直史・平山千尋
2021/2/9 (火)	昔の暮らし			
2021/2/12 (金)	昔の暮らし			

表8 令和2年度体験利用人数

個人

メニュー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
勾玉づくり	-	-	19	56	137	26	28	36	16	23	78	42	461
鑄造体験 (和同開珎) 1・2月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26	50	-	76
弓矢体験 (3月)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	48	48
裂き織り (大・小) (11月)	-	-	-	-	-	-	-	19	-	-	-	-	19
土鈴づくり (9・10・12月)	-	-	-	-	-	15	15	-	21	-	-	-	51
合計	0	0	19	56	137	41	43	55	37	49	128	90	655

団体

メニュー	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
勾玉づくり	-	-	232	129	0	28	195	0	0	0	0	-	584
土器・土鈴・土偶づくり	-	-	0	0	0	0	0	0	19	0	0	-	19
弓矢体験	-	-	0	0	0	4	18	0	0	0	0	-	22
火起こし	-	-	232	129	0	4	195	0	0	0	0	-	560
合計	0	0	464	258	0	36	408	0	19	0	0	0	1,185

※出前講座分は含まない



表9 令和2年度旧武田家住宅・体験広場利用状況

年月日	利用者名	目的
2020/9/7	個人	プロモーションビデオの撮影

表10 令和2年度文化財センター入館者数

月	開館日数(日)	入館者数(人)		
		個人	団体	計
4	17	63	0	63
5	18	88	0	88
6	25	150	239	389
7	27	290	133	423
8	26	397	0	397
9	26	504	105	609
10	27	592	305	897
11	24	593	227	820
12	24	402	66	468
1	23	378	0	378
2	22	538	127	665
3	25	696	0	696
合計	284	4,691	1,202	5,893

表11 令和2年度団体利用一覧

団体利用(学校)

年月日	団体名	利用内容	人数
2020/6/10 (水)	西内野小学校(西区)	見学・火起こし・勾玉	87
2020/6/11 (木)	西内野小学校(西区)	見学・火起こし・勾玉	60
2020/6/30 (火)	紫竹山小学校(中央区)	見学・火起こし・勾玉	92
2020/7/9 (木)	東山の小学校(東区)	見学・火起こし・勾玉	69
2020/7/10 (金)	東山の小学校(東区)	見学・火起こし・勾玉	64
2020/9/17 (木)	沼垂小学校(中央区)	見学・民具学習・武田家	69
2020/9/30 (水)	山都中学校(福島県)	見学・火起こし・勾玉・弓矢・武田家	26
2020/10/2 (金)	南万代小学校(中央区)	見学・火起こし・勾玉	49
2020/10/6 (火)	五十嵐小学校(西区)	見学・火起こし・勾玉	78
2020/10/7 (水)	五十嵐小学校(西区)	見学・火起こし・勾玉	50
2020/10/15 (木)	南万代小学校(中央区)	見学・民具学習・武田家	52
2020/10/22 (木)	山ノ下小学校(東区)	見学・民具学習・武田家	21
2020/10/23 (金)	中之口東小学校(西蒲区)	見学・火起こし・勾玉・弓矢・土器に触る	20
2020/11/12 (木)	新津第二小学校(秋葉区)	見学・民具学習	68
2020/11/12 (木)	真砂小学校(西区)	見学・民具学習・武田家	75
2020/11/27 (金)	坂井東小学校(西区)	見学・民具学習・武田家	84
2021/2/2 (火)	桜が丘小学校(中央区)	見学・民具学習	89
2021/2/16 (火)	松野尾小学校(西蒲区)	見学・民具学習・武田家	14
2021/2/18 (木)	黒崎南小学校(西区)	見学・民具学習	24
合計			1,091

団体利用(学校以外)

年月日	団体名	利用内容	人数
2020/9/22 (火)	オハナさきがけ	勾玉	10
2020/10/1 (木)	地域活動支援センター日だまり	見学・民具体験	22
2020/10/6 (火)	シニアカレッジ25A同期会	見学	13
2020/12/2 (水)	西区自治協 第3部会	見学	11
2020/12/3 (木)	黒崎南小学校PTA	見学・土鈴	37
2020/12/3 (木)	石瀬水曜会	見学	18
合計			111



土器の切り絵教室



発掘体験「キミも考古学者」



新潟市遺跡発掘調査速報会



出前講座

表12 令和2年度資料対応件数一覧

考古資料

特別利用許可

件数	申請者	資料	数量(点)	来館日	備考
1	個人	近世新潟町跡 他 漆器関係資料	20	2020/4/17 (金)	個人研究に係る資料調査
2	個人	大沢遺跡 石器	61	2020/6/28 (日)	個人研究に係る資料調査
3	個人	近世新潟町跡 他 漆器関係資料	13	2020/8/10 (月)	個人研究に係る資料調査
4	個人	的場遺跡 他 土器	5	2020/9/25 (金)	個人研究に係る資料調査
5	個人	馬場屋敷遺跡 漆器関係資料	2	2020/12/8 (火)	個人研究に係る資料調査

貸出許可

件数	申請者	資料	数量(点)	貸出期間	備考
1	医療法人社団 福慈会 理事長 坂本長逸	諏訪畑遺跡 土器	5	2020/4/1 (水)～2021/3/31 (水)	常設展示
2	新潟市北区郷土博物館 館長 木村隆行	鳥屋遺跡 石器 他	35	2020/4/1 (水)～2021/3/31 (水)	常設展示
3	新潟市歴史博物館 館長 伊東祐之	笹山前遺跡 他 土器 他	84件224点	2020/4/1 (水)～2021/3/31 (水)	常設展示
		的場遺跡 土錘・石錘	48		
		近世新潟町跡 陶磁器・泥面子 山木戸遺跡 陶磁器	27 19		
4	中之口資料館 市長 中原八一	茶院A遺跡 土器 他	8	2020/4/1 (水)～2021/3/31 (水)	常設展示
5	江南区郷土資料館 市長 中原八一	砂崩遺跡 他 土器 他	78	2020/4/1 (水)～2021/3/31 (水)	常設展示
6	新潟大学学術情報基盤機構旭町学術 資料展示館 館長 丹治嘉彦	大沢遺跡 他 土器 他	117	2020/4/1 (水)～2021/3/31 (水)	常設展示
7	新潟市歴史博物館 館長 伊東祐之	細池寺道上遺跡 他 木製品 他	11	2020/6/26 (金)～2020/9/4 (金)	企画展「潟のくらし」に展示
8	村上市教育委員会 教育長 遠藤友春	御井戸遺跡 木製品	3	2020/7/10 (金)～2020/11/29 (日)	村上市縄文の里・朝日企画展「縄文クッキング ～縄文時代の食生活に迫る～」に展示
9	十日町市博物館 館長 佐野誠市	秋葉遺跡 王冠型土器	1	2020/9/1 (火)～2020/11/30 (月)	新館オープン記念秋季特別展「縄文の遺産―雪 降る縄文と星降る縄文の競演―」に展示
10	長岡市立科学博物館 館長 小熊博史	新谷遺跡 他 土器 他	4	2020/9/8 (火)～2020/12/18 (金)	馬高縄文館企画展「大沢遺跡と縄文前期の土器 文化」に展示
		布目遺跡 土器 他	23	2020/9/9 (水)～2020/12/18 (金)	
11	長岡市立科学博物館 館長 小熊博史	大沢谷内遺跡 他 土器 他	23	2020/9/17 (木)～2020/12/18 (金)	企画展「八幡林遺跡と足淳欄」に展示

掲載許可

件数	申請者	資料	数量(点)	許可日	備考
1	株式会社プレッセプレッセ 間仁田 真澄	古津八幡山遺跡 環漆 写真データ	1	2020/5/7 (木)	月刊キャレレ 6月号モノクロ特集「発掘したの。」 に掲載
2	NPO法人むきばんだ応援団 理事長 坂田友宏	古津八幡山遺跡 復元住居 写真データ 他	6	2020/5/12 (火)	WEBサイト【全国子ども考古学教室】に掲載
3	十日町市博物館 館長 佐野誠市	秋葉遺跡 王冠型土器 写真データ	1	2020/5/21 (木)	新館オープン記念秋季特別展「縄文の遺産―雪 降る縄文と星降る縄文の競演―」図録に掲載
4	有限会社青垣出版 代表取締役 鶴井忠義	御井戸遺跡 木製品 写真データ	1	2020/5/22 (金)	書籍「縄文時代の知恵と技」に掲載
5	新潟市歴史博物館 館長 伊東祐之	笹山前遺跡 石鏃 写真データ 他	2	2020/7/3 (金)	企画展「潟のくらし」ガイドブックに掲載
6	長岡市立科学博物館 館長 小熊博史	大沢谷内遺跡 遺跡全景 写真データ 他	6	2020/7/14 (火)	企画展「八幡林遺跡と足淳欄」写真パネルの作 成、解説リーフレット・チラシ・WEBに掲載
7	長岡市立科学博物館 館長 小熊博史	笹山前遺跡 深鉢形土器 写真データ 他	2	2020/8/21 (金)	馬高縄文館企画展「大沢遺跡と縄文前期の土器 文化」図録に掲載
8	佐賀県九州陶磁文化館 統括副館長 峰 雅樹	近世新潟町跡 肥前磁器 写真データ	1	2020/8/31 (月)	企画展「柴澤コレクション」図録に掲載
9	株式会社悠工房 代表取締役 清水征善	大沢谷内遺跡 九九木筒 赤外線写真データ	1	2020/9/4 (金)	中学生向け学習教材に掲載
10	津南町教育委員会 教育長 桑原 正	御井戸遺跡 クルミ集積 写真データ	1	2020/9/11 (金)	「千曲川・信濃川の先史文化」に掲載
11	滝沢市埋蔵文化財センター 所長 佐々木 澄子	南赤坂遺跡 続縄土器 写真データ 他	2	2020/9/24 (木)	企画展「土器と墓制から見た北東北の続縄文文 化」においてパネル展示および講座資料集に掲載
12	新潟日報社 古俣慎吾	近世新潟町跡 発掘風景 写真データ 他	2	2020/10/20 (火)	新潟日報夕刊「おとなプラス」の記事、「越後は古 伊万里の宝庫」(仮タイトル)の写真説明に使用
13	株式会社ベネッセコーポレーション 著作権申請窓口 責任者 源根秀実	大沢谷内遺跡 九九木筒 赤外線写真データ	1	2020/11/4 (水)	中学生向け通信教育教材に問題資料の一部と して掲載
14	新潟県埋蔵文化財調査事業団 理事長 稲荷善之	大沢谷内遺跡 形代 写真データ	1	2020/12/10 (木)	埋文にいがた113号のコラム「マツリの道具―形 代―」に掲載
15	株式会社悠工房 代表取締役 清水征善	大沢谷内遺跡 九九木筒 赤外線写真データ	1	2021/1/22 (金)	写真データを使用した中学生向け学習教材を動 画配信するため
16	株式会社ジャパン通信情報センター 代表取締役 芹澤幹太	曾我墓所遺跡 出土遺物 写真データ	9	2021/3/11 (木)	「文化財発掘出土情報」2021年4月号～5月(予 定)に掲載
		曾我墓所遺跡 現地説明会配布資料 データ	1		
17	関東地方環境事務所 所長 潮川俊郎	四十石遺跡 出土遺物 写真データ 他	2	2021/3/16 (火)	佐潟水鳥・湿地センター常設展示の展示パネル に使用
18	小合地域コミュニティ協議会 会長 阿部 繁	川根遺跡 古銭 写真データ 他	2	2021/3/23 (火)	冊子「小合を楽しむ」に掲載

寄附中込

件数	申込者	資料	数量(点)	申込日	備考
1	個人	平遺跡採集 石器	2	2020/7/21 (火)	
		大沢遺跡採集 石器	4		
2	個人	大沢遺跡採集 弥生土器	1	2020/7/21 (火)	
		大沢遺跡採集 土師器	1		
3	個人	歴史関係書籍	670	2020/11/27 (金)	
4	個人	秋葉区小口若宮社 常滑焼	1	2020/12/11 (金)	

## (6) 図書の収蔵と閲覧

### A 収 蔵

図書室の面積は89.33㎡で、室内には単式固定5段8連1台、複式移動7段7連5台、複式7段8連6台の棚が列設置されている。棚段数は総数で1,202段、約5万冊の図書の収蔵が可能である。なお、分類整理作業が必要な図書や登録未了図書は、埋蔵文化財収蔵庫の棚に仮置きし、登録の終わったものから順次配架している。

図書の収蔵状況は、旧市町村で所蔵していた発掘調査報告書が合併に伴い集められた結果、新潟県内の発掘調査報告書には複本が多数生じることになった。複本があり利用頻度の高い報告書は、文化財センター図書室のほか、調査研究室と保存処理室、そして秋葉区にある弥生の丘展示館に置いて利用している。また、県内外の研究者などから寄贈される本が増大したため、埋蔵文化財収蔵庫の一部にも配架している。

書誌情報の入力作業は、司書（会計年度任用職員）1名を雇用して継続して行っている。書誌情報の入力については、埋蔵文化財情報管理システム（Ⅲ4(7)参照）を利用しており、この入力作業と併せ、図書の管理のために寄贈者印・所蔵印を押捺し、3段ラベルとバーコードを貼っている。なお、令和3年3月末までの入力数（複本は除く）は57,784冊である。

### B 利用状況

図書室には2名分の閲覧スペースがあり、平成24年6月から閲覧と著作権法の範囲内でコピーサービス（有料）を開始した。なお、平成28年4月1日からは、土曜日・日曜日・祝日の図書室利用を事前申し込み制としている。また、令和2年4月1日から図書室利用時間を9：30～12：00、13：00～16：00とし、6月2日からは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、平日の利用も事前申し込み制としている。

令和2年度の図書室利用人数とコピーサービス利用人数は表13のとおりである。前年度比では利用者数は9人減、コピーサービス利用人数は1人増である。なお、収蔵図書は発掘調査報告書などの発行部数の少ない稀覓本がほとんどのため、館外貸出は行っていない。（八藤後智人）

表13 令和2年度図書室・コピー利用者数

月	図書室利用（人）	コピー利用（人）
4	0	0
5	0	1
6	1	1
7	1	1
8	3	0
9	1	0
10	3	1
11	4	3
12	1	1
1	0	0
2	0	0
3	0	0
合計	10	8

※5月のコピー利用は限外在住者からの申し出があり、コロナ禍ということで、この時のみ特別に対応したものである。本来はこのような対応業務は行っていない。

## 7 保存処理

### (1) 木製品の保存処理について

**処理の概要** 文化財センターでは、木製品の保存処理は資料の形態・材質・劣化度を考慮しPEG（ポリエチレングリコール）含浸法を中心に行っている。

また、PEG法では漆被膜がはがれてしまう漆器、PEGの色により墨痕が見えにくくなってしまう墨書のある遺物、金属と一体となっている木製品についてはトレハロース含浸法で行っている。詳細な方針及び方法については、『年報』第1号に記載されている〔今井2014〕。

**令和2年度** 令和2年度には13遺跡36調査分1,043点の木製品の保存処理を行った（表14）。

御井戸A遺跡（1994002）など市町村広域合併前の2調査のほか、県から譲与を受けた小坂居付遺跡（2009007）出土木製品の保存処理をPEG含浸法で行った。これらの処理はPEG含浸処理装置において行うが、厚みが5cm以下の小型木製品については、プラスチック製密閉容器を使用しPEG含浸を温風定温乾燥機内で行っている。

また、近世新潟町跡や亀田道下遺跡などの近世以降の木製品は、トレハロース含浸法によって処理を行った。

### (2) 金属製品・その他の保存処理について

**処理の概要** 文化財センターでは、木製品の保存処理の含浸期間中に金属製品の保存処理を行うというサイクルで業務を行っている。

保存処理を行う順序は、原則調査年次が古いものからとしている。詳細な方針及び方法については、『年報』第1号に記載されている〔今井2014〕。また、本調査において脆弱遺物が出土した際に取り上げと仮強化処理を行っている。

**令和2年度** 令和2年度は細池寺道上遺跡（2007005）など13遺跡19調査分170点の鉄製品について保存処理を行った（表14）。また、青銅製品については大藪遺跡（1989008）など3遺跡5調査分8点の保存処理を行った（表14）。

### (3) 保存処理外部委託について

大型の木製品など文化財センターで保存処理ができないものについて、外部委託を行っている。

令和2年度は御井戸A遺跡（1994002）の刳物容器1点と茶院A遺跡（2019127）の丸木弓1点の保存処理を外部に委託した（表15）。  
（今井さやか）

## 8 決算額

令和2年度における文化財センター決算額は表16のとおりである。  
（飯塚和美）



表14 令和2年度木製品、鉄製品保存処理一覧

遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数(点)	備考
御井戸A遺跡	1994002	木製品	木柱ほか	PEG・トレハロース	106	
御井戸B遺跡	1997002	木製品	杭ほか	PEG・トレハロース	59	
大沢谷内遺跡	2005004	木製品	杭	PEG	1	
大沢谷内遺跡	2006002	木製品	下駄	PEG	1	
大沢谷内遺跡	2008005	木製品	木柱	PEG	1	
大沢谷内遺跡	2009001	木製品	杭ほか	PEG	3	
大沢谷内遺跡	2009002	木製品		PEG	1	
小坂居付遺跡	2009007	木製品	箸ほか	PEG	470	
林付遺跡	2010001	木製品	木柱ほか	PEG	14	
大沢谷内遺跡	2010002	木製品	杭	PEG	1	
大沢谷内遺跡	2010004	木製品	曲物銅板	PEG	1	
大沢谷内遺跡	2011006	木製品	箸ほか	PEG	29	
大沢谷内遺跡	2012001	木製品	曲物底板ほか	PEG・トレハロース	179	
西江浦遺跡	2012005	木製品	棒状ほか	PEG	3	
大沢谷内遺跡	2013001	木製品	付け木	PEG	1	
峰岡上町遺跡	2013003	木製品	板状ほか	PEG	5	
細池寺道上遺跡	2014001	木製品	板状ほか	PEG・トレハロース	56	
舟戸遺跡	2015004	木製品	板状ほか	PEG	4	
亀田道下遺跡	2017004	木製品	欄ほか	トレハロース	19	
白根バイパス	2005322	木製品	下駄ほか	PEG	5	試掘調査
近世新潟町跡	2009241	木製品	曲物底板ほか	トレハロース	24	試掘調査
白根バイパス	2009244	木製品	板状ほか	PEG・トレハロース	9	試掘調査
下郷南遺跡	2013106	木製品	板状ほか	PEG・トレハロース	6	試掘調査
学校町地内	2013110	木製品	曲物底板ほか	トレハロース	2	試掘調査
近世新潟町跡	2015140	木製品	板状ほか	トレハロース	5	試掘調査
近世新潟町跡	2015148	木製品	曲物底板ほか	トレハロース	6	試掘調査
403試掘	2015160	木製品	曲物底板ほか	PEG	2	試掘調査
天ヶ沢上谷内	2015176	木製品	曲物底板ほか	PEG	2	試掘調査
近世新潟町跡	2015183	木製品	板状	PEG	1	試掘調査
近世新潟町跡	2015235	木製品	板状	トレハロース	1	試掘調査
近世新潟町跡	2017118	木製品	棒状	トレハロース	1	試掘調査
近世新潟町跡	2017125	木製品	曲物底板	トレハロース	4	試掘調査
近世新潟町跡	2017240	木製品	箸ほか	トレハロース	12	試掘調査
近世新潟町跡	2018114	木製品	板状ほか	トレハロース	4	試掘調査
近世新潟町跡	2018130	木製品	漆器腕	トレハロース	3	試掘調査
近世新潟町跡	2020101	木製品	下駄ほか	トレハロース	2	試掘調査
合計					1043	
遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数(点)	備考
城瀬寺遺跡	1983001	鉄製品	鏡ほか	クリーニング・樹脂含浸	44	
結七島遺跡	2002002	鉄製品	鉄鍋	クリーニング・樹脂含浸	1	
山王浦遺跡	2002003	鉄製品	鉄滓	クリーニング・樹脂含浸	1	
居屋敷遺跡	2005007	鉄製品	釘ほか	クリーニング・樹脂含浸	4	
大沢谷内遺跡	2006002	鉄製品	鉄鏝ほか	クリーニング・樹脂含浸	2	
諏訪畑遺跡	2006007	鉄製品	刀子ほか	クリーニング・樹脂含浸	4	
手代山北遺跡	2007002	鉄製品	釘ほか	クリーニング・樹脂含浸	2	
細池寺道上遺跡	2007005	鉄製品	釘ほか	クリーニング・樹脂含浸	30	
查免遺跡	2007008	鉄製品	不明鉄製品ほか	クリーニング・樹脂含浸	6	
手代山北遺跡	2008003	鉄製品	鉤型鉄製品ほか	クリーニング・樹脂含浸	2	
大沢谷内遺跡	2008005	鉄製品	鉄鍋ほか	クリーニング・樹脂含浸	9	
大沢谷内遺跡	2010004	鉄製品	鉄釜ほか	クリーニング・樹脂含浸	2	
大沢谷内遺跡	2011006	鉄製品	刀子ほか	クリーニング・樹脂含浸	3	
大沢谷内遺跡	2012001	鉄製品	鉄鏝ほか	クリーニング・樹脂含浸	13	
峰岡城山遺跡	2012002	鉄製品	板状鉄製品ほか	クリーニング・樹脂含浸	20	
日本遺跡	2012007	鉄製品	釘ほか	クリーニング・樹脂含浸	13	
大沢谷内遺跡	2013002	鉄製品	釣針ほか	クリーニング・樹脂含浸	3	
細池寺道上遺跡	2014002	鉄製品	釘ほか	クリーニング・樹脂含浸	9	
柴木遺跡	2016003	鉄製品	釘ほか	クリーニング・樹脂含浸	2	
合計					170	
遺跡名	調査番号	材質	器種	処理方法	点数(点)	備考
大敷遺跡	1989008	青銅製品	銭貨ほか	クリーニング・樹脂含浸	3	
沖ノ羽遺跡	2007004	青銅製品	銭貨ほか	クリーニング・樹脂含浸	2	
大沢谷内遺跡	2009001	青銅製品	銭	クリーニング・樹脂含浸	1	
大沢谷内遺跡	2012001	青銅製品	銭貨	クリーニング・樹脂含浸	1	
大沢谷内遺跡	2013002	青銅製品	煙管	クリーニング・樹脂含浸	1	
合計					8	

表15 令和2年度外部委託保存処理一覧

遺跡名	調査番号	点数	備考	委託先	金額(円)	合計(円)
茶院A遺跡	2019127	1	丸木弓	(公財)元興寺文化財研究所	874,720	874,720
御井戸遺跡	1994002	1	剝物容器	(株)吉田生物研究所	551,650	551,650



木製品 保存処理後(亀田道下遺跡 PEG)



木製品 保存処理後(近世新潟町遺跡 トレハロース)



鉄製品 保存処理後(大沢谷内遺跡 クリーニング・樹脂含浸)

表16 令和2年度新潟市文化財センター決算額

区分	決算額(円)
○使用料及び賃借料	735,580
文化財センター設備使用料	1,580
行政財産使用料	734,000
○国庫補助金	31,955,000
両新地区ほ場整備発掘調査	470,000
小規模緊急発掘調査	16,075,000
史跡古津八幡山遺跡確認調査事業	4,724,000
文化財センター保存処理・活用事業	7,908,000
古津八幡山遺跡及びガイダンス施設の保存・活用事業	2,778,000
○諸収入	9,087,940
受託事業収入	8,550,000
両新地区ほ場整備発掘調査	8,550,000
小規模緊急発掘調査	0
雑入	537,940
コピー代実費	2,690
文化財センターその他雑入	291,250
弥生の丘展示館その他雑入	244,000
合計	41,778,520

■歳出 (一般会計)

区分	決算額(円)
○埋蔵文化財本格発掘調査事業	41,967,691
両新地区ほ場整備発掘調査費	9,500,000
小規模緊急発掘調査費	32,467,691
○史跡古津八幡山遺跡確認調査事業	9,545,271
○文化財センターの管理運営	54,739,420
○古津八幡山遺跡及びガイダンス施設の管理運営	17,357,426
合計	123,609,808

## IV 新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場

史跡古津八幡山遺跡は新潟市秋葉区に所在する弥生時代後期の高地性環濠集落及び新潟県内最大規模の古津八幡山古墳などからなる遺跡であり、平成17年7月に国史跡に指定されている（平成23年2月に追加指定）。

現在は「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」として保存・活用が行われており、遺跡を当時の姿に復元整備した「史跡公園」と、そのガイダンス施設である「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」からなる。

平成28年度には史跡の保存・活用の指針となる保存活用計画を策定し〔新潟市文化財センター2017〕、平成29年度から「古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会」及びその下部組織である「古津八幡山遺跡調査指導部会」によって保存活用計画を推進している。詳細についてはIV 3に記載している。

史跡古津八幡山遺跡及び「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」整備の概要、古津八幡山遺跡歴史の広場の詳細な施設情報については、『年報』第1号に記載されている〔渡邊2014c〕。また、これまでの経過も『年報』第1～8号のとおりである。



古津八幡山遺跡航空写真（南東から）

### 1 資料の公開・展示

#### (1) 概要

弥生の丘展示館は、展示室と体験学習室が主体の施設で、古津八幡山遺跡のガイダンス施設として、遺跡に関わる展示を行っている。

**常設展** 展示室には古津八幡山遺跡から出土した旧石器時代から平安時代の土器や石器などを500点以上展示するほか、弥生時代のムラの様子を縮尺300分の1で再現した復元ジオラマ模型などがある。

また、低年齢層でも遺跡への親近感や理解が深まるように、考古イラストレーターの早川和子氏による時代ごとの復元画を展示室壁面に展示している。そのほか、ガイダンスシアターでは、65インチの大型モニターで古津八幡山遺跡の概要やこれまでの調査成果などを映像で見ることができる。

**企画展** 古津八幡山遺跡歴史の広場が全面供用を開始した平成27年度から企画展を開催している。

令和2年度は3回の企画展を開催し、各企画展において展示解説を行ったほか、関連講演会を西区の文化財センターを会場に実施した（表1）。

なお、企画展2については、弥生の丘展示館を第1会場、西区の文化財センターを第2会場として同時に行った。各企画展の詳細についてはIV 1 (2)～(4)に記載している。

また、講演内容やアンケート結果などをまとめた記録集〔新潟市文化財センター2021〕を刊行したほか、各講演会の当日資料等を新潟市のホームページで一部公開している。記録集は、3回全ての講演会に参加し、かつ希望する方や、市内の図書館へ配布した。（相田泰臣）

表1 令和元年度弥生の丘展示館企画展一覧

年度 毎の 番号	企画展名	会期	企画担当	来館者数 (人)	関連講演会・イベント			
					演目 イベント名	開催日	講師	参加者数 (人)
1	古津八幡山遺跡発掘調査速報展2 —令和元年度の発掘調査成果—	2020/4/14（火） ～9/6（日）	相田泰臣	11,613	展示解説	2020/8/16（日）	相田泰臣	15
2	天王山式土器からみた東日本の弥生社会 —古津八幡山遺跡成立期の動向—	2020/9/15（火） ～12/20（日）	渡邊朋和	13,113	関連講演会① 石川日出志氏「東日本における弥生時代後期の交流」	2020/10/11（日）	石川日出志氏 (明治大学 文学部教授)	54
					展示解説①（文化財センター）	2020/10/11（日）	渡邊朋和	20
					関連講演会② 渡邊朋和「天王山式土器からみた東日本の弥生社会 —古津八幡山遺跡成立期の動向—」	2020/11/15（日）	渡邊朋和	50
					展示解説②（弥生の丘展示館）	2020/11/29（日）	渡邊朋和	14
3	大沢谷内遺跡展 —アスファルトを利用した縄文時代から 中世の遺跡—	2021/1/5（火） ～3/28（日）	相田泰臣	3,724	関連講演会 相田泰臣「縄文時代から中世の大沢谷内遺跡」	2021/2/7（日）	相田泰臣	31
					展示解説	2021/2/14（日）	相田泰臣	25

(2) 企画展1「古津八幡山遺跡発掘調査速報展2  
—令和元年度の発掘調査成果—」

会 期 令和2年4月14日(火)～9月6日(日)  
※期間中4月21日から5月10日まで緊急事態宣言に伴  
い臨時休館

担 当 相田泰臣

入館者数 11,613人

**展示概要** 史跡古津八幡山遺跡では、史跡をより適切に保存・活用していくために、史跡内外における遺跡の状況把握を目的とした確認調査を行っている。

令和元年度は、標高約50mの遺跡の最高所から一段下がった、標高約25mの史跡指定地外において発掘調査を行い、大型竪穴建物の構造や周辺の状況などの把握を行った。企画展では発掘調査の成果について、写真やイラストなどとともに展示・解説を行った。

**展示構成**

1) はじめに 2) 古津八幡山遺跡のこれまでの発掘調査 3) 弥生時代の建物 4) 令和元年度の発掘調査成果 5) 県内における大型竪穴建物 6) 北陸における大型竪穴建物 7) 古津八幡山遺跡の大型竪穴建物の性格と土地利用

**主要展示** 3) 弥生時代の建物では、古墳時代の鏡に描かれた建物を示し、当時、どのような建物が存在したのかを紹介した。

4) 令和元年度の発掘調査成果では、古津八幡山遺跡で最大となる一辺9.5mの大型竪穴建物や、それと重複する竪穴建物などについて、出土土器からどちらも弥生時代終末期(古墳時代早期)に位置づけられることや、大型竪穴建物は上屋を支える柱が5本以上の構造になること、煮炊きを行った炉の跡が確認されなかったことなど、令和元年度の調査結果について報告した。

5) 県内における大型竪穴建物と6) 北陸における大型竪穴建物では、県内や北陸の主要な大型竪穴建物の一覧を示し、建物の時期や形態、規模、主柱の数などとともに紹介した。

7) 古津八幡山遺跡の大型竪穴建物の性格と土地利用では、環濠集落として機能している弥生時代後期と、環濠が埋まった後の弥生時代終末期との遺構の分布を示し、両時期の土地利用の変化などについて確認した。

また、大型竪穴建物については居住以外の用途で使用された可能性があるとし、北陸に点在する大型竪穴建物をもつ拠点集落との関連性について指摘するとともに、古津八幡山遺跡における大型建物の出現や土地利用の変化が、弥生時代から古墳時代への当時の社会情勢を反映したものだと捉えた。

**展示解説** 展示担当による解説を1回開催した。

日 時 令和2年8月16日(日)午後1時30分～

会 場 弥生の丘展示館展示室

参加者数 15人

**ま と め** 古津八幡山遺跡の保存・活用目的の発掘調査は令和4年度まで実施する予定である。今後も調査成果の速報展を行うなど、古津八幡山遺跡に関するタイムリーな情報を発信していきたい。(相田泰臣)



展示風景(展示室)



展示風景(展示室)



展示解説風景(展示室)



### (3) 企画展2「天王山式土器からみた東日本の弥生社会

#### —古津八幡山遺跡成立期の動向—

企画展2は第1会場を弥生の丘展示館、第2会場を文化財センターとして2会場同時開催とした。そこで本項にてまとめて記載することとした。

会 期 令和2年9月15日(火)～12月20日(日)

担 当 渡邊朋和

入館者数 第1会場13,113人・第2会場2,480人

**展示概要** 古津八幡山遺跡は紀元1世紀に出現した北越最大規模の高地性環濠集落である。出土する土器には東北系・北陸系・在地系の3系統があり、様々な地域の人々が一緒に生活していたと考えられる。

このうち東北系土器を代表するのが、福島県白河市天王山遺跡からまとめて出土したことに由来する「天王山式土器」と言われる縄目文様の施された土器である。

天王山式土器は、その時期・年代や系統・系譜などを解明することが難しく、いまだ揺れ動いている。その要因の一つには、天王山遺跡からは東日本各地域の様々な系統の土器が出土しているために、北海道から東北部、南関東や北陸・長野など広範囲を研究対象として扱わなければならないからである。

視点を変えれば、天王山式土器を研究することにより、当時の動向を垣間見ることが可能になると考えられる。

企画展は天王山式土器に描かれたいくつかの特徴的な文様に着目し、古津八幡山遺跡のムラが成立するころの状況について迫ろうとしたものである。

**主要展示** 第1会場は六地山遺跡や石動遺跡などの新潟市内の出土土器を、第2会場は県内の他市と福島県・長野県・富山県・石川県での出土土器を展示した。

市 内：上記のほかに舟戸遺跡・松影A遺跡

県内他市：砂山遺跡・滝ノ前遺跡・兵衛遺跡・王子山遺跡・松ノ脇遺跡・五斗田遺跡・横山遺跡・五千石遺跡・来清東遺跡

福島県：和泉遺跡・能登遺跡・松無塚遺跡・油田遺跡・細田遺跡・大豆田遺跡・館ノ内遺跡・開津台畑遺跡

長野県：吉田高校グランド遺跡

富山県：下老子笹川遺跡 石川県：加納谷内遺跡

**関連講演会** 2回の講演会を開催した。この講演会の内容は『令和2年度 史跡古津八幡山 弥生の丘展示館 企画展関連講演会 記録集』〔新潟市文化財センター2021〕として刊行している。

#### 1回目

演 目 東日本における弥生時代後期の交流

講 師 石川日出志氏(明治大学文学部教授)

日 時 令和2年10月11日(日)  
午後1時30分～3時00分

会 場 文化財センター研修室

参加者数 54人

#### 2回目

演 目 天王山式土器からみた東日本の弥生社会  
—古津八幡山遺跡成立期の動向—

講 師 渡邊朋和(文化財センター所長)

日 時 令和2年11月15日(日)

午後1時30分～3時30分(展示解説込み)

会 場 文化財センター研修室

参加者数 50人

**展示解説** 展示担当による解説を2回開催した。

日 時 令和2年10月11日(日)：第2会場

午後3時30分～

令和2年11月29日(日)：第1会場

午後1時30分～

参加者数 20人・14人

**ま と め** この企画展は令和元年度企画展3を更に掘り下げた内容となっている。令和元年度企画展3については年報第8号で概要を記載している〔渡邊2021a〕。

また、今回の企画展の内容や考察などは、前述した記録集内の講演箇所〔渡邊2021b〕を参照していただきたい。

(八藤後智人)



展示風景(第1会場 弥生の丘展示館展示室)



1回目関連講演会風景(文化財センター研修室)

(4) 企画展3「大沢谷内遺跡展—アスファルトを  
利用した縄文時代から中世の遺跡—」

会 期 令和3年1月5日(火)～3月28日(日)

担 当 相田泰臣

入館者数 3,724人

**展示概要** 大沢谷内遺跡は、国道403号小須戸田上バイパスの整備などに伴いこれまでに計25次に及ぶ発掘調査が行われている。縄文時代から室町時代にかけての遺跡で、時代により様々な利用が行われ性格も異なるが、各時代とも周辺で産出されるアスファルトを利用した点で共通している。また、アスファルトに加え、木製品の加工や漆の利用など周辺の森林資源も活発に利用していたことが分かっている。

企画展では大沢谷内遺跡について豊富な出土品とともに展示・解説した。

**展示構成**

- 1) 大沢谷内遺跡のこれまでの経過と概要
- 2) 大沢谷内遺跡のアスファルト
- 3) 縄文時代の大沢谷内遺跡
- 4) 弥生・古墳時代の大沢谷内遺跡
- 5) 飛鳥時代の大沢谷内遺跡
- 6) 古代(奈良・平安時代)の大沢谷内遺跡
- 7) 中世(鎌倉時代・室町時代)の大沢谷内遺跡
- 8) 井戸の祭祀
- 9) 大沢谷内遺跡における土地利用の変遷
- 10) おわりに

**主要展示** 2) 大沢谷内遺跡のアスファルトでは、これまでの発掘調査で出土したアスファルト塊について、時代別の数量や性状などを示し、時代ごとに石油資源の使用量や利用形態が異なることを推測した。

4) 縄文時代の大沢谷内遺跡から7) 中世(鎌倉時代・室町時代)の大沢谷内遺跡では、各時代の遺構や出土したアスファルト、土器・石器組成の特徴などから、各時代の大沢谷内遺跡の特色や性格について示した。

8) 井戸の祭祀では大沢谷内遺跡における古代・中世の井戸の構造や祭祀形態の変化などについて紹介したほか、文化財センターの展示室において丸木舟を転用した井戸側を展示した。

最後に、1874年から1996年までの約120年間にわたり操業され、2018年に国史跡に指定された新津油田金津鉦場跡について紹介した。

**関連講演会** 企画展の関連講演会を開催した。

演 目 縄文時代から中世の大沢谷内遺跡

講 師 相田泰臣(文化財センター)

日 時 令和3年2月7日(日)

午後1時30分～3時00分

会 場 文化財センター研修室

参加者数 31人

展示解説 担当による展示解説を1回開催した。

日 時 令和3年2月14日(日) 午後1時30分～

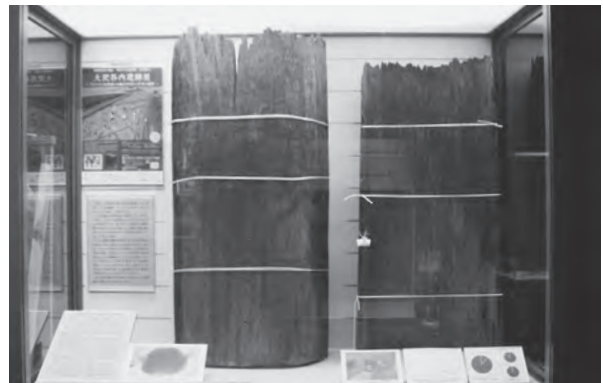
参加者数 25人

**ま と め** 弥生の丘展示館の近くには石油の世界館や国史跡新津油田金津鉦場跡があり、学校などの団体見学では両方の場所を見学するという場合も多い。

大沢谷内遺跡で出土した縄文時代から中世のアスファルトは、石油がこの地域で脈々と受け継がれてきた重要な天然資源であったことを今に伝えている。(相田泰臣)



展示風景(展示室)



展示風景(文化財センター展示室)



展示解説風景(展示室)

## 2 教育普及活動

### (1) 体験学習

弥生の丘展示館では、個人が来館すればいつでも体験できる有料・無料の体験学習メニューを月ごとに決め(表2・3)、季節やこれまでの利用状況、体験者のアンケートなどから、必要に応じて年初に見直しを行っている。

令和2年度の体験学習の参加者数は、個人1,461人(前年度比5,592人減)、団体330人(同874人減)、全体1,791人(同6,466人減)であり、前年度よりも個人・団体ともに減少した。

個人の利用は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月21日(火)～5月10日(日)を臨時休館とし、体験学習については4月1日(水)～5月31日(日)の間休止し、さらに密を避けるため、同時に行う個人の体験学習の人数・時間制限を行ったことなどが、利用者の減少に大きく影響していると考えられる。

団体の利用は、概ね10人以上の場合に事前の申し込みをお願いしている(表4・5)。遺跡を学ぶ施設であることから、予約の対象は小学生以上を主とする団体で、体験を希望する場合は展示室か歴史の広場の見学をセットとすることを求めている。また、団体が体験室を使用していると個人の利用ができないため、5月の連休と夏休み期間の終日、及び土曜日・日曜日・祝日と春休みの午後については団体利用を制限している。これは、来館すれば体験可能という個人利用に便宜を図ることによる。令和2年度は団体利用件数15件(前年度比18件減)、利用人数472人(同499人減)と令和元年度と比べて大幅な減少であった。団体分類別にみると、小学校の利用は、前年度比団体利用件数は9件減、利用人数258人減、中学校の利用は、前年度比団体利用件数は2件減、利用人数329人減である。4月から9月は、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策として、当館の休館と学校現場での校外活動自粛の影響が大きかったと推察される。

### (2) イベントなど

令和2年度も引き続きイベントや体験学習、企画展の情報などをまとめた年間スケジュールを作成し、配布した。また、新潟県教育庁文化行政課が年2回発行している『新潟遺跡情報マガジン 新潟まいぶんナビ』に、企画展やイベントなどの情報を提供し、掲載してもらって周知を図った。

イベントは、市報や新潟市の公式ホームページなどで広報し、参加者を事前に募集して月に1回程度実施している(表6)。新型コロナウイルス感染拡大防止の関係から、募集定員を10人と少人数に設定したイベントが多

い。中でも、「発掘体験」や「アンギン編み」は恒例のイベントとなっている。特に成人を対象として平成29年度から始めた「アンギン編み」は好評で、材料のカラムシ収穫から編みまで複数回の日程で行った。

例年、6月の新潟県立植物園がメイン会場の協賛イベント「花と遺跡のふるさとフェスタ」と、10月に行っていた新潟県埋蔵文化財センターと連携した「まいぶん祭り」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

### (3) 入館者数

令和2年度の弥生の丘展示館来館者数(表7)は、個人28,631人(前年度比19,824人減)、団体472人(前年度比971人減)、全体29,103人(前年度比20,323人減)であった。個人・団体とも前年度より大きく減少した。

個人の入館者数の減少は、新型コロナウイルスの感染が拡大したため、前述した4・5月の臨時休館した影響が大きい(昨年比34日休館)。さらにレジャー等の不要不急の外出を控える市民も多かったと考えられる。ただし、従前からの傾向で、隣接する新潟市新津美術館で開催された展覧会の内容による変動が非常に大きい。特に親子連れを対象とした展覧会の場合、弥生の丘展示館の入館者数・体験者数も増加する傾向にある。令和2年10月～12月にかけて開催された展覧会「ミイラ『永遠の命』を求めて」の影響により来館者は11,614人(前年同月比4,869人増)で、大幅に増加した。団体利用は、昨年比の減少幅が大きいのが、コロナ禍で学校関係の団体利用が少なく、団体入館者数の減少の要因となったと推測される。

冬季(12～3月)の来館者数は5,916人(前年度比830人減)で、例年と同様夏季に比べると少ない。令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響とともに、1・2月は日本海側を中心に暴風雪の日が続き、秋葉区は最高1.16mの積雪を観測した。例年に比べても天候不順の影響が甚だしく、今年度の冬季における来館者数の減少については、これらの要因による影響が大きいと言える。

(立木宏明)



イベント「アンギン編み③」



表2 令和2年度弥生の丘展示館体験学習（事前申込み不要）一覧

無料/有料	メニュー	料金 (円)	所要時間 (分)
無料	火起こし体験	-	15
	弓矢体験	-	10
	石斧体験	-	10
	クラフトづくり	-	20
有料	土鈴・土笛・土面づくり	200	30~60
	勾玉・管玉づくり	200	60
	鹿角ペンダントづくり	200	30
	鹿角（先端）ペンダントづくり	500	30
	銅鏡づくり	800	60
	銅鐸づくり	1,300	30



イベント「初めての土器づくり」

表3 令和2年度弥生の丘展示館体験学習（事前申込み不要）参加者数

月	体験学習メニュー		参加者数（人）				
	屋内体験 (有料)	野外体験 (無料)	個人	団体	合計	1日 平均	累計 (開館から)
4月	※新型コロナウイルス拡散防止対策のため中止		-	-	-	-	-
5月			-	-	-	-	-
6月	土鈴・土笛・土面づくり	火起こし	187	0	187	7.5	63,547
7月	勾玉・管玉づくり	弓矢	228	9	237	8.8	63,784
8月	勾玉・管玉づくり	-	236	0	236	9.1	64,020
9月	土鈴・土笛・土面づくり	火起こし	101	4	105	5.3	64,125
10月	土鈴・土笛・土面づくり	弓矢	208	146	354	13.1	64,479
11月	銅鏡・銅鐸・鹿角ペンダントづくり	火起こし	239	147	386	16.1	64,865
12月	勾玉・管玉・鹿角ペンダントづくり	クラフトづくり	68	0	68	3.4	64,933
1月	銅鏡・銅鐸づくり	クラフトづくり	19	0	19	0.9	64,952
2月	銅鏡・銅鐸・鹿角ペンダントづくり	クラフトづくり	38	0	38	1.7	64,990
3月	勾玉・管玉づくり	火起こし	137	24	161	6.4	65,151
合計/平均			1,461	330	1,791	6.6	

表4 令和2年度弥生の丘展示館団体利用一覧

小・中学校・その他学校

来館日	団体名	人数 (人)
7月7日(火)	小合東小学校	11
7月9日(木)	巻北小学校	78
7月10日(金)	和納小学校	46
9月25日(金)	吉田特別支援学校	8
10月16日(金)	大野小学校	87
10月23日(金)	升湯小学校	9
10月30日(金)	安野小学校特別支援学級	25
11月6日(金)	早通小学校	19
11月6日(金)	新通小学校	83
合計		366

小・中学校以外

来館日	団体名	人数 (人)
10月1日(木)	こし・みちのくの古墳をめぐる旅	26
10月18日(日)	県埋蔵文化財センター少年少女考古学教室	15
10月24日(土)	新津地区公民館「あきはっこ里山体験」	20
11月27日(金)	清心町自治会	22
3月24日(水)	放課後デイサービス ジェムバレット	16
3月26日(金)	西遊旅行「信濃川火焔街道に行く」	7
合計		106

表5 令和2年度弥生の丘展示館分類別団体利用数

分類名	団体利用数(件)	人数
保育施設・幼稚園	0	0
小学校	9	366
中学校	0	0
大学	0	0
その他学校	0	0
動く市制教室	0	0
市関係	1	20
行政・議会関係	1	15
自治会・町内会など地域コミュニティ関係	1	22
各種サークルなど	0	0
企業企画ツアーなど	2	33
企業	0	0
福祉施設	0	0
その他	1	16
合計	15	472

表6 令和2年度弥生の丘展示館イベント・体験学習(事前募集)・公開講座一覧

開催日	内容	人数	備考
4月25日(土)	葉っぱで染めよう※1	延期	※2/27へ延期
5月3日(日)	企画展1 展示解説①	中止	
6月7日(日)	まいぶん春まつり	中止	
6月13日(土)	初めての土器づくり※2	延期	※10/24へ延期
7月14日(火)	アンギン編み①	5	
8月16日(日)	企画展1 展示解説②	15	
9月1日(火)	アンギン編み②	5	
9月20日(日)	企画展2 展示解説①	中止	
9月26日(土)	発掘体験	5	
10月3日(土)	史跡古津八幡山遺跡現地説明会	161	
10月4日(日)	まいぶん秋まつり	中止	
10月13日(火)	アンギン編み③	5	
10月24日(土)	初めての土器づくり※2	7	※6/13から延期
11月14日(土)	ドングリを食べよう①	7	
11月28日(土)	ドングリを食べよう②	7	
11月29日(日)	企画展2 展示解説②	14	
12月8日(火)	ドングリで染めよう	6	
2月14日(日)	企画展3 展示解説	25	
2月27日(土)	葉っぱで染めよう※1	8	※4/25から延期
3月13日(土)	ミニチュア土器を焼こう	9	
合計		285	

表7 令和2年度弥生の丘展示館来館者数

月	開館日数	入館者数(人)				
		個人	団体	全体	1日平均	累計(開館から)
4	17	1,273	0	1,273	74.9	350,790
5	18	1,639	0	1,639	91.1	352,429
6	25	2,642	0	2,642	105.7	355,071
7	27	2,363	135	2,498	92.5	357,569
8	26	3,196	0	3,196	122.9	360,765
9	20	2,065	8	2,073	103.7	362,838
10	27	4,308	182	4,490	166.3	367,328
11	24	5,229	124	5,353	223.0	372,681
12	20	2,077	0	2,077	103.9	374,758
1	22	380	0	380	17.3	375,138
2	22	1,538	0	1,538	69.9	376,676
3	25	1,921	23	1,944	77.8	378,620
合計/平均	273	28,631	472	29,103	106.6	

### 3 古津八幡山遺跡保存活用計画の推進

#### (1) はじめに

平成28年度に策定した『国史跡 古津八幡山遺跡保存活用計画』〔新潟市文化財センター2017〕（以下、保存活用計画）などを推進していくため、令和2年度は昨年度に引き続いて古津八幡山遺跡の確認調査を実施した。

また、「古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会」（以下、推進委員会）を1回、「古津八幡山遺跡調査指導部会」（以下、調査指導部会）を2回開催した（表8）。

なお、3月の推進委員会及び調査指導部会の2回目については、新型コロナウイルス感染症対策のため、郵便とメールを利用して議題報告、委員意見の聴取を行った。

#### (2) 令和2年度古津八幡山遺跡確認調査

保存活用計画に則し、史跡をより適切に保存・活用していくため、史跡外における遺跡の状況把握を目的とした確認調査を平成29年度から実施している。

令和元年度に引き続き遺跡北東域の史跡指定地外、標高約50mの遺跡最高所から北東へ一段下がった丘陵中腹域、標高約25mの平坦面及び緩斜面域において確認調査を実施した（第23次調査）。

調査の結果、当遺跡最大の一辺9.5mの大型竪穴建物（SI1）は、6本柱構造の建物であることが判明した。また、中央付近の土坑や壁溝から建物外へと延びる排水溝が確認された。炉や貯蔵穴は確認されず、建物規模なども含め、特別な性格の建物である可能性が推測された。

大型竪穴建物と一部重複する竪穴住居（SI465）についても調査を行い、一辺4mの隅丸方形の建物であることが確定した。4本の主柱穴や壁溝、貯蔵穴などが確認されたほか、壁溝から建物外へと延びる排水溝も検出された。

なお、大型竪穴建物のある尾根のさらに北側についても調査を行い、縄文・弥生時代の遺構や遺物を確認した。

上記調査成果については、10月3日（土）の現地説明会や、2月28日（日）の文化財センター主催の遺跡発掘調査速報会で報告した。現地説明会は161名、速報会は会場127名、オンライン78名の参加があった。

来年度は尾根のさらに北側について調査を行い、遺構の広がりについて把握する予定である。

#### (3) おわりに

1月の大雪・強風により、史跡公園にある復元竪穴住居7棟のうち4棟が傾くなどの被害を受けた。現在、来跡者の安全確保のためにロープで囲い、内部への立ち入りを禁止している。これら被害を受けた4棟については、令和4年度に修繕工事を行う予定である。（相田泰臣）

表8 古津八幡山遺跡保存活用計画等推進委員会・同調査指導部会の経過

開催月	名称	開催数 (通算)	報告・協議・検討事項
2020年9月	調査指導部会	第7回	・発掘調査の現地指導
2021年3月	推進委員会	第5回	・令和2年度の発掘調査結果、整備・活用関係、運営・連携体制関係の報告 ・令和3年度の発掘調査計画、整備・活用関係、運営・連携体制関係について
	調査指導部会	第8回	



大型竪穴建物（SI1）調査風景



現地説明会の様子



速報会の様子



毀損した復元竪穴住居



## V 研究活動—資料報告・研究ノート—

### 1 うぶすめ遺跡採集土器

相田 泰臣

#### (1) 遺跡の概要

うぶすめ遺跡は、新潟市西蒲区五ヶ浜の通称うぶすめ沢の北側に位置し、現海岸線から約50m内陸側の砂丘に立地する（第1・2図）。

うぶすめ遺跡で遺物が採集できる層は、現在の海浜面から2m前後の高さにある暗灰褐色シルト～砂層で、さらにその上には厚さ10mを超える砂丘砂層が堆積している（写真）。そのため、遺物を採集できるのは強風・高波による浸食作用によって、砂丘が崩落し、砂丘斜面に遺物包含層が露出する、あるいは遺物包含層が崩落して海浜で確認される場合に限られる。このように遺物を採集できる条件は厳しいが、これまでに少ないながらも弥生時代終末期（古墳時代早期）・古墳時代前期・後期、平安時代の遺物が採集されてきている（第4・6図、相田2010・岡本2016）。

また、うぶすめ遺跡から海岸線を約200m北上した通称穴口沢に位置する穴口遺跡では、古墳時代前期の土器が採集されている（第5図、山口1994）。

#### (2) うぶすめ遺跡採集土器について

本稿で新たに報告するうぶすめ遺跡採集土器は、2015年1月2日に前山精明氏が採集した土器1点である（第3図）。なお、本資料は2021年4月20日（火）～9月5日（日）に新潟市文化財センターで開催した令和3年度企画展1「地下2メートルの考古学」において展示された。

土器は底部を欠損するものの、丸底の小型壺と考えられる。体部は全体の3割程度、口縁部は全体の1割程度が残存する。底部付近から肩部にかけてやや扁平気味に湾曲する体部に、比較的短い口縁部が外方へ直線的にのびる形態をなす（第3図）。口縁部径は10.8cm、底部を含んだ推定器高は14.0cmで、最大径を体部中位にもつ。

体部外面および口縁部内面では一部ヘラミガキ調整を確認できるが、全体的に調整は粗く、口縁部や体部外面においてはハケメ調整痕も認められる。また、体部内面には粘土紐の接合痕も観察される。

#### (3) 土器の位置づけとまとめ

器形や調整の特徴などから、報告土器は滝沢規朗氏の編年の様相9〔滝沢2014・2017〕、小野本敦氏の編年の3段階〔小野本2019〕と推測する。上記の位置づけが正し

ければ、当該土器は古墳時代中期に位置づけられる。うぶすめ遺跡が継続して利用された遺跡なのか、あるいは断続的に利用された遺跡なのかは現状で不明であるが、当該資料によって、弥生時代終末期から古墳時代後期までの資料がこれまでに採集されたことになる。

うぶすめ遺跡から北東へ約4km、標高112mほどの丘陵上には、全長約49mの日本海側最北の前方後円墳である角田浜妙光寺山古墳が2019年に再発見された。古墳はその立地や形態などから、海上交通を掌握した被葬者像が推定されている〔橋本2021など〕。これまでのところ、古墳周辺には古墳時代の遺跡は確認されていないが、うぶすめ遺跡のように海岸部の砂丘下に遺跡が埋没して存在する可能性もあり留意される。

#### 引用・参考文献

相田泰臣2010「うぶすめ遺跡・穴口遺跡採集土器」

『三条考古学研究会機関誌』第4号 三条考古学研究会

岡本郁栄2016「新潟市角海浜から出土した遺物と堆積環境」

『新潟考古』第27号 新潟県考古学会

小野本敦2019「第4章 古墳時代 第2節 土器 第2項中期」

『新潟県の考古学』Ⅲ 新潟県考古学会

滝沢規朗2014「新潟県における古墳時代中期の土器について

（上）—器種分類と基準資料の提示—」

『三面川流域の考古学』第12号 奥三面を考える会

滝沢規朗2017「新潟県における古墳時代中期の土器について

（下）—細別器種の変遷と隣県との関係—」

『東生』第6号 東日本古墳確立期土器検討会

橋本博文2021「新潟市西蒲区角田浜で新発見の前方後円墳につ

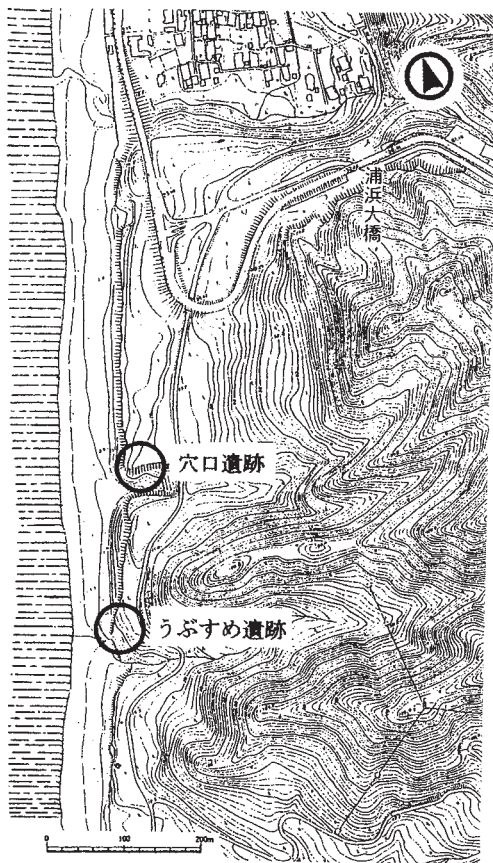
いて」『令和2年度新潟市文化財調査概要』新潟市教育委

員会

山口栄一1994「穴口遺跡」『巻町史』資料編1 考古 巻町



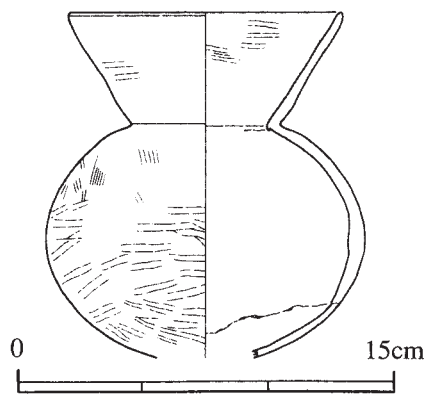
うぶすめ遺跡のある砂丘斜面



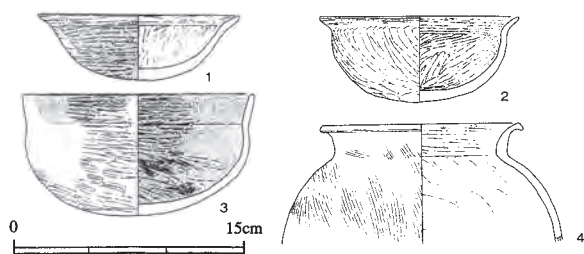
第1図 遺跡位置図



第2図 露頭・遺跡位置図 (岡本2016に遺跡範囲を追加)



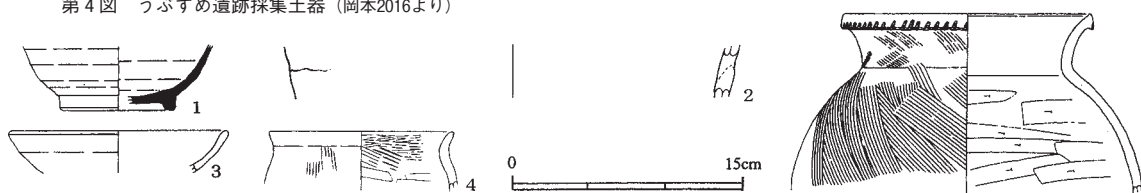
第3図 うぶすめ遺跡採集土器



第4図 うぶすめ遺跡採集土器 (岡本2016より)



第5図 穴口遺跡採集土器 (山口1994より)



第6図 うぶすめ遺跡採集土器 (相田2010より)



## 2 馬堀中組遺跡 工事立会出土遺物 資料紹介

諫山 えりか

### (1) 遺跡の位置と環境

馬堀中組遺跡は、新潟市西蒲区馬堀（旧巻町）に所在する。新潟平野の南西部に位置し、大通川と飛落川との南北に伸びる自然堤防の東側に立地する。近接して館ノ腰遺跡や、地藏越遺跡、馬堀上組遺跡などいずれも自然堤防上に立地する古代・中世の遺跡が点在する。

当地は古代には蒲原郡であり、巻町周辺に5つあったとされる郷のうち、桜井郷か日置郷の可能性が高いとされている。

なお、東へ約5km離れた下新田遺跡で「日置」と書かれた墨書土器が発見されている〔新潟市教委2015〕。さらに離れてはいるが、林付遺跡において「川合庄」とこれまでの文献に記載のない初期荘園の発見事例もある〔新潟市教委2012〕。また、鎌倉時代には源頼朝の知行国であったとされるが、実際には在地の領主層優位の支配が行われていたと推測されており、中世の巻町周辺は弥彦荘であったとされる〔巻町1994b〕。

### (2) 発見の経緯とこれまでの調査

遺跡は、令和元年に実施された馬堀地区における圃場整備事業に伴う試掘調査で井戸と白磁碗が発見された。この時、同じ自然堤防上で南に約1.2km離れた地点で同じく中世の馬堀上組遺跡が発見されている。

原因 経営基盤体育成事業 馬堀地区 区画整理事業  
第1次工事

期間 令和3年4月8日～4月10日 3日間

面積 約150㎡（幅1m×長さ150m）

担当 諫山えりか

令和2年度（令和3年2月）から排水路工事の立会を始めたが、排水路部分では遺構・遺物は確認されなかった。天候等の関係で、用水路部分の工事は令和3年度に行われた。

耕作土直下から遺構が確認できることから、掘削に際して耕作土除去（深さ約30cm）で一旦掘削を止めて遺構の有無の確認・土層堆積の観察・写真撮影を行った。その後、工事の予定深度1mまで掘り下げて管を敷設する流れで立会作業を行った。遺構の位置の測量は行っておらず、遺構が確認できた場合は工事の掘削幅を頼りに西もしくは東端の近いほうから距離を測った。

また、遺構が調査区外に広がっていた場合、壁面で断面の記録を作成したため、断面図は必ずしも中心で半裁できていない。なお、施工は南から北へ進められ、立会

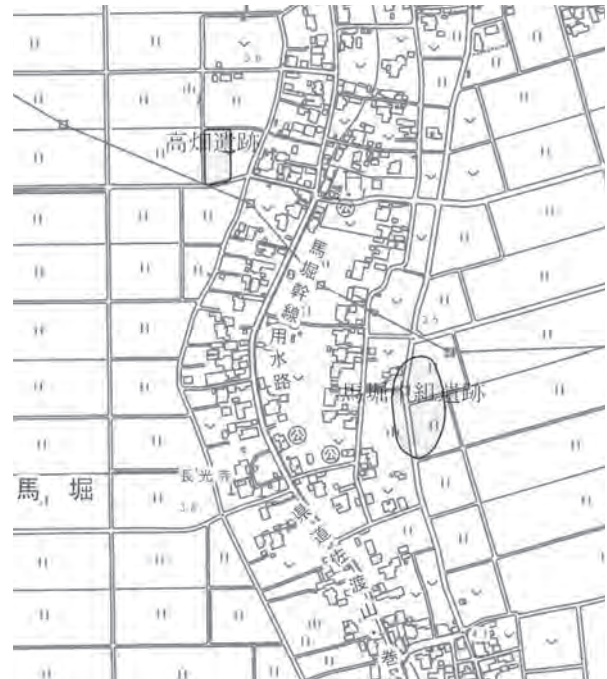


図1 遺跡位置図（1/10,000）



図2 立会位置図（1/8,000）

を開始した地点を起点とし（図2参照）、その日敷設した管の本数を数えて起点からの距離を計算している。管長は4mで、通常は1日20本前後敷設するとのことであったが、今回の立会時では1日14～16本のペースで進んだ。ご協力頂いた事業者並びに施工者には改めて感謝の意を表する。

層序 基本層序は次のとおりである。

- I層 褐色粘土 水田耕作土 粘性・しまりあり
- II層 灰色シルト質粘土 粘性・しまりあり
- III層 灰白色粘質シルト 粘性・しまりあり



工事前の田面高は約3.1mである。起点から24m地点まではⅡ層が確認されたが、その後76m地点まで耕作土(Ⅰ層)直下にⅢ層が検出された。Ⅲ層は試掘調査時のⅣb層に相当すると思われる、今回の立会でも上面で遺構を確認した。またⅡ層とした灰色粘土層からは中世の遺物を確認できず、遺物包含層かどうかは不明であり、また試掘調査時の層序との対応関係も把握できなかった。

Ⅲ層は起点から76m地点あたりから次第に北に向かって緩く傾斜し始め、起点から約150m離れた立会終了地点では地表面から-0.9mでⅢ層上面が確認された。

### (3) 遺構と遺物

起点から56~104mの間で遺構を確認した(図3・表1)。中世の遺物が出土していないものもあるが、検出時の覆土の色調や土質が中世の遺物が検出された遺構とよく似ていることから、中世の可能性が高いものとして記載する。遺構の大きさ等については表1を参照していただきたい。

**性格不明遺構(SX1)** 工区外まで広がっていたため全形を捉えることはできなかったが、平面は直径1.8m程度の円形、深さ0.6mと推定される。最下層はかなり軟質な粘土であった。

遺物は、1層から青磁片、3層から瀬戸美濃焼の卸皿が出土した。青磁は小片で器種不明のため図化しなかったが、器壁の厚さが6mmと厚く、内外面に緑灰色の釉薬がかかり、文様の一部が確認できた。

瀬戸美濃焼の卸皿(図4-1)は、底部回転糸切りで内面に卸目が刻まれている。釉薬は灰色で浸け掛けである。底部は歪んでいる。立ち上がりは緩やかで、外面はロクロナデである。形態から古瀬戸中期で14世紀代と思われる。口縁部は残っておらず、内側から打ち欠いた痕跡が見られた。内外面や断面に炭化物が付着していることから、口縁部が欠けた後に底部の立ち上がり付近から打ち欠いて概ね丸くなるように整え、その後灯明皿として転用したものと思われる。

**井戸(SE3)** これも工区外まで広がっているため全形は不明である。井戸側はなく、試掘調査で発見された井戸に比べて浅い。

1層から珠洲焼の甕肩部と播鉢胴部の破片が1点ずつ出土した(図4)。甕(図4-2)は頸部で欠損しており、破片が小さいため本来の大きさは不明である。器厚が薄く、壺の可能性もある。

播鉢(図4-3)は体部上半部であり、これも小片のため本来の大きさは不明である。播り目は10条を1つの単位として施されていた。吉岡編年〔吉岡1989〕3期頃のものと思われる。

**遺構外** 大半の区間で遺物包含層が削平されていたこともあり、遺構以外からの出土遺物は極めて少ない。中世土師器の小片が1点確認されたのみである。皿の体部破片で、胎土はきめ細かく軟質であり、ロクロナデと思われる。このほかには近世陶磁器の小片が数点出土したのみで、全体に遺物量は少ない。

### (4) まとめ

立会の結果、試掘調査の結果と同様に古代の遺物は確認されなかった。確認できた遺構・遺物は中世以降のものであり、概ね室町時代(14世紀代)におさまるものと思われる。遺構は試掘調査時と合わせると井戸や土坑などもみられることから、短期間ではあるが集落が存在していた可能性が高い。

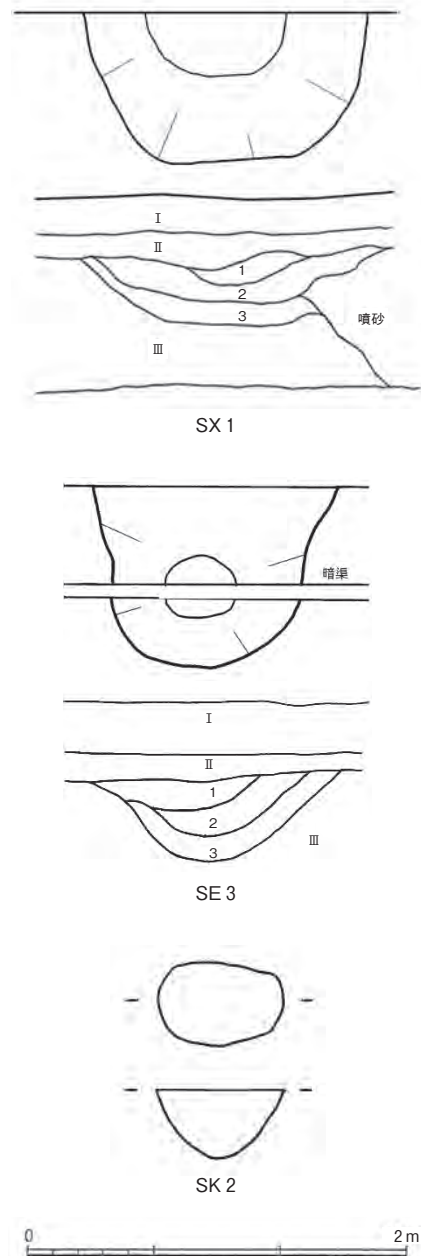


図3 遺構平面断面図(1/40)

表1 工事立会で確認された遺構一覧

地点	遺構種別	残存する大きさ	土層	出土遺物
起点から56m	性格不明 遺構1基 (SX1)	長軸1.8m 短軸不明 深さ0.6m以上	1 褐灰色粘土に灰白色粘土ブロック混	青磁 器種不明 (1層)
			2 灰色粘土に褐色錆混	
			3 褐灰色粘土に灰白色粘土ブロック混 部分的に炭が薄い層状に混	瀬戸美濃焼 卸皿 (3層)
			4 灰色粘土	
起点から60m	小土坑1基 (P4)	長軸0.3m 短軸0.3m 深さ 半裁しておらず不明	1 褐灰色粘土	なし
起点から96m	土坑1基 (SK2)	長軸0.6m 短軸0.4m 深さ0.5m	1 黒褐色粘土に褐灰色粘土ブロック少量混	なし
起点から104m	井戸1基 (SE3)	長軸1.2m 短軸0.9m 深さ0.55m	1 黒褐色粘土に灰色粘土ブロック多量混	珠洲焼 甕・播鉢 (1層)
			2 黒褐色粘土	
			3 灰色粘土に黒褐色粘土ブロック少量混	

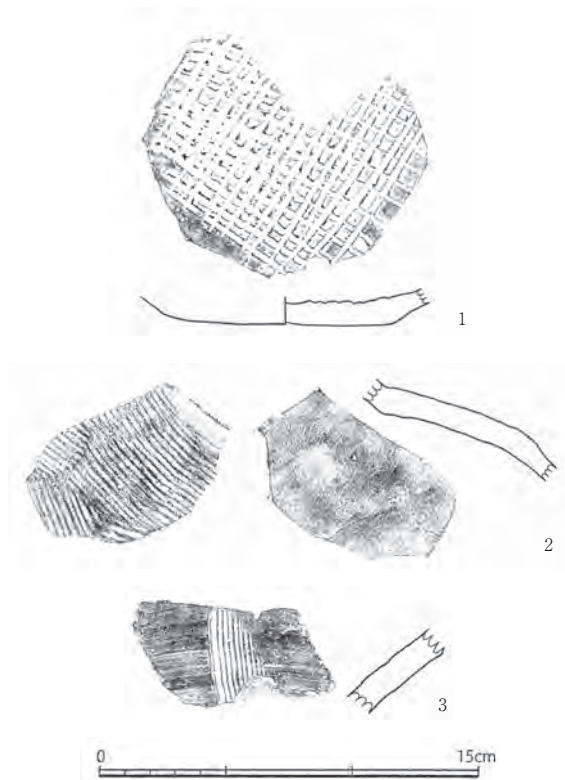


図4 出土遺物 (1/3)



瀬戸美濃焼の卸皿 (図4-1)

引用・参考文献

- 新潟市教育委員会2015『下新田遺跡』
- 新潟市教育委員会2012『林付遺跡』
- 藤澤良祐2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
- 卷町1994 a『卷町史 資料編1 考古』
- 卷町1994 b『卷町史 通史編 上巻』
- 珠洲市立珠洲焼資料館 (吉岡康暢監修) 1989『珠洲の名陶』





調査地近景 (南から)



起点から60m地点土層 (東から)



SX 1 検出状況 (東から)



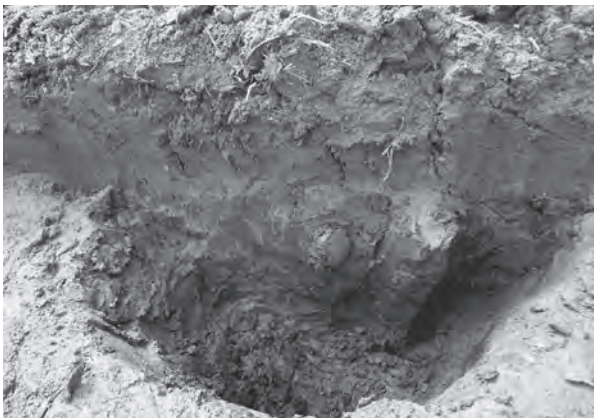
SX 1 土層断面 (西から)



SK 2 検出状況 (東から)



SK 2 土層断面 (東から)



SE 3 珠洲焼出土状況 (東から)



SE 3 土層断面 (東から)



### 3 伝小口若宮社・若宮陵付近出土の常滑焼

相澤 裕子

#### (1) 寄贈された常滑焼

**経緯** 2017年10月10日所有者の伊藤福英氏が文化財センターへ壺を持参された。調査のため同年11月30日まで借用し、水洗い、実測、写真撮影を行った。発見の経緯は伊藤氏によると、叔父が子どもの頃（約90年前）に秋葉区小口観音山山頂にて掘り出し、発見時は口縁部の欠損はなく、蓋をするように石が載せてあり、内部には少量の土があったという。

2020年12月11日付で伊藤氏より物品寄附申込書の提出を受け、同23日付新文セ第169号の2で物品寄附受理通知書を発送し手続きを完了した。

**出土地** 新潟市秋葉区と五泉市との境、能代川左岸の新津丘陵北東に位置し、標高約63mの地点、通称：観音山の最高所にある若宮社・若宮陵付近と伝えられている。若宮陵の由来については後述のとおり複数の文献に記載されている。現在は小口観音山公園として整備され、参道より石階段と丸木階段を約160段上ると若宮陵に到着する。新津丘陵内に整備されている「木もれ陽の遊歩道」の小口ルート上に位置している。

**遺物** 口径21.3cm、底径11.6cm、器高38.6cm。口縁部を一部欠損するが、発見時には口縁部の欠損はなかったという。肩部に約3cm×1cm弱の長方形の穿孔があるが、出土後のものかは不明。口縁端部は強めになでられた結果、顕著な段が生じ、摘み出されたように仕上げられている。口縁～頸部は内外面ヨコナデ、頸部内面にタテナデ、肩部外面ヘラナデ、肩部以下は刷毛状工具による調整後に一部ヨコナデ、下部に粘土紐積み上げ接合痕が残る。底部から体部への立ち上がり部にヘラ状工具によるオサエ痕がみられる。内面は全面的に丁寧なヨコナデ。底部外面に径5mmの小石が付着する。色調は暗褐色～灰褐色。

口縁部と体部の形態より12世紀後半に位置付けられる〔赤羽ほか1994〕。

出土状況は明確ではなく不明な点が多い。用途として考えられることは経塚や骨蔵器があげられる。経筒や経の存在は確認されていないが、経筒外容器として用いられた可能性が考えられる。また、骨蔵器として用いられた可能性もあり、いずれにしても用途については不確定である。

近隣の経塚としては、現存していないが直線距離約8km東には横峯経塚（阿賀野市寺社）があり、珠洲焼が出



図1 位置図（1/10,000）



出土地周辺 若宮社（左）と若宮陵（右）



若宮社・若宮陵から横峯経塚・五頭山方面を望む

V

研究活動  
資料報告・研  
究ノート

土した。新潟県内で確認されている経筒外容器に常滑焼はみられず、珠洲焼の割合が高い。経筒と共伴し経筒外容器として明確な常滑焼は東北2か所、関東4か所、中部6か所、北陸（越前）1か所が確認されている〔村木2003〕。常滑焼を経筒外容器として用いるのは中部地方・関東地方に多く、次いで東北地方となる。12世紀後半において珠洲焼の流通圏である県内に常滑焼が流通することは少なく、出土地の性格など不明な部分はあるが資料的価値は高い。

## (2) 文献にみる若宮社

若宮社については、承久の乱（1221年）により佐渡島へ配流となった順徳天皇を追って越後に来た第2皇子と深い関係にあることが記載されている。以下に文献の内容を部分的に紹介する。

『風土記 下条組 小口村』文化元（1804）年（『越佐叢書 第18巻1981年』）

- ・ 観音山絶頂を切り均した際に土中より空瓶壺つ掘り出された

- ・ 明和年間に太刀53振、笏・冠等が掘り出された

小田島允武『越後野志』文化12（1815）年 歴史図書社1974年

- ・ 貞応2（1223）年順徳天皇の皇子廣臨親王が小口村にて自害

- ・ 小口村に祠を建立し神とし崇め祭る

- ・ 寛喜元（1229）年新たに神廟を造営し若宮三社大権現と号す

- ・ 村上城主榊原式部太輔政倫（在任1667～1683年）の領地となっていた頃、年月が経て親王の墳墓の所在が明らかではなくなっていた

- ・ 墓を掘りあて、椁中に甕棺あり

- ・ 椁の外側は腐朽しているが、内側は朱漆が塗られ腐朽していない

- ・ 椁の外は上下四方を太刀・小刀により包むように埋め置く

- ・ その祠廟を墓上に移し祭る

『中蒲原郡誌卷二十六』大正14年

- ・ 安永元（1772）年、観音堂の再建のため山頂を掘ると宮の名が彫られた鉄札が見つかる

- ・ さらに掘ると長さ9尺余り、横幅5尺余りの石槨あり

- ・ その中には剣1、冠1、笏1、白瓶1、太刀24・5口

このように小口若宮社については、複数の文献に記述されており、内容に共通点が認められる。今回の常滑焼の壺の出土地はこれらの記述の対象地と重なっており、記述と壺が埋められた背景を積極的に結びつけることは難しいが、興味深い内容である。

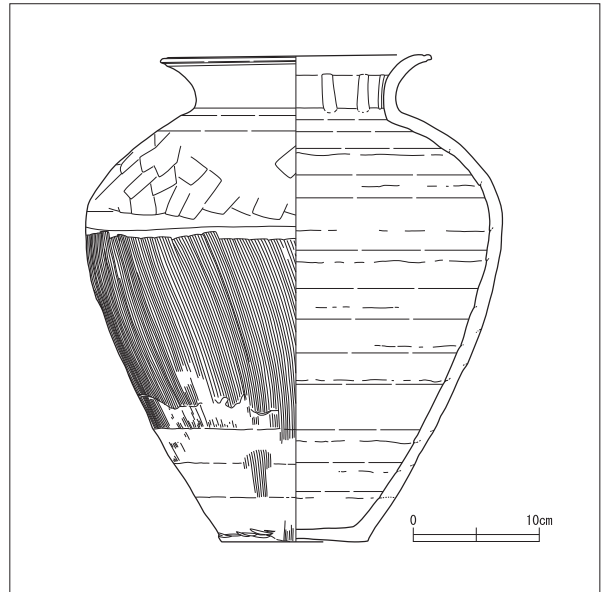
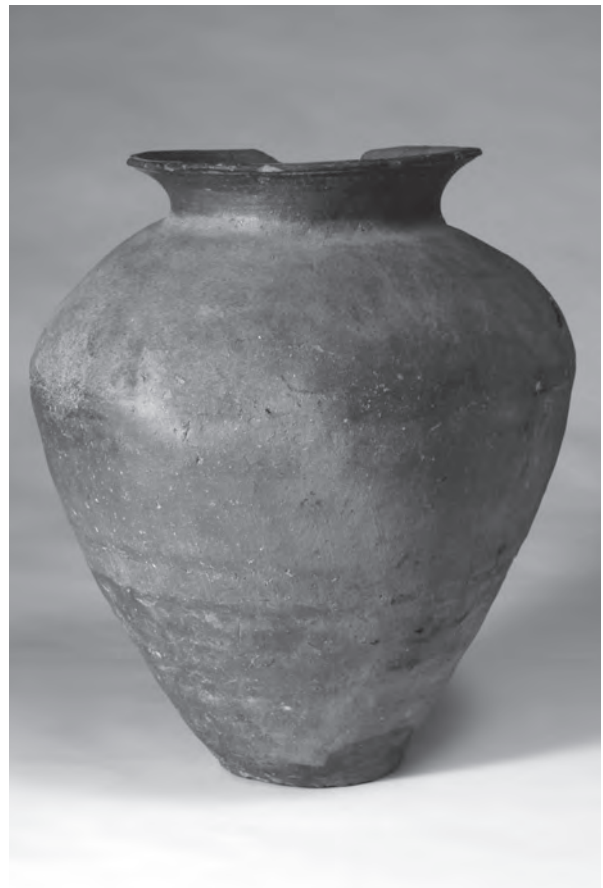


図2 常滑焼実測図



常滑焼壺

## 引用・参考文献

- 赤羽一郎ほか1994『全国シンポジウム 中世常滑焼をおって 資料集』日本福祉大学知多半島総合研究所  
 村木二郎2003「東日本の経塚の地域性」『国立歴史民俗博物館 研究報告第108集』国立歴史民俗博物館

## 【引用・参考文献】

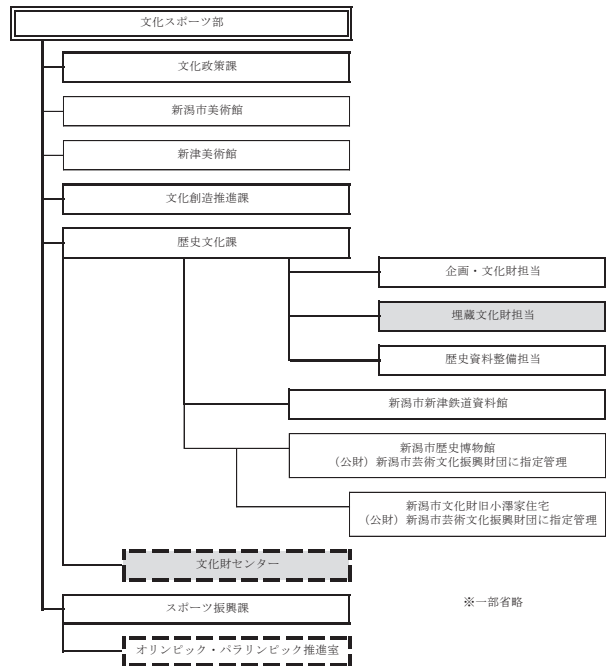
- 今井さやか 2014 「Ⅲ 8 保存処理」『新潟市文化財センター年報—平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版—』第1号 新潟市文化財センター
- 新潟市文化財センター 2014 『新潟市文化財センター年報—平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版—』第1号
- 新潟市文化財センター 2017 『国史跡 古津八幡山遺跡 保存活用計画』新潟市教育委員会
- 新潟市文化財センター 2021 『令和2年度 史跡古津八幡山 弥生の丘展示館 企画展関連講演会 記録集』
- 渡邊朋和 2014 a 「Ⅲ 6 資料の収蔵・保管」『新潟市文化財センター年報—平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版—』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2014 b 「Ⅲ 7 教育普及活動（1）展示」『新潟市文化財センター年報—平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版—』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2014 c 「Ⅴ 1 史跡古津八幡山遺跡保存活用事業の概要」『新潟市文化財センター年報—平成23（2011）年度・平成24（2012）年度版—』第1号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2021 a 「Ⅳ 1 新潟市古津八幡山遺跡歴史広場（4）企画展3「邪馬台国の時代7 弥生時代後期の北越と北陸・長野との交流—天王山式土器から考える—」『新潟市文化財センター年報—令和元（2019）年度版—』第8号 新潟市文化財センター
- 渡邊朋和 2021 b 「天王山式土器からみた東日本の弥生社会—古津八幡山遺跡成立期の動向—」『令和2年度 史跡古津八幡山 弥生の丘展示館 企画展関連講演会 記録集』新潟市文化財センター



令和2年度文化財センター・歴史文化課埋蔵文化財担当職員名簿

文化財センター		
所長(学芸員)	渡邊 朋和	統括・埋蔵文化財
主幹	吉沢 範久	事務
主幹(学芸員)	遠藤 恭雄	埋蔵文化財
係長(学芸員)	立木 宏明	埋蔵文化財
主査	飯塚 和美	事務
主査(文化財専門員)	今井 さやか	埋蔵文化財
主査(学芸員)	相田 泰臣	埋蔵文化財
主査(文化財専門員)	龍田 優子	埋蔵文化財
主査(文化財専門員)	相澤 裕子	埋蔵文化財
主事(文化財専門員)	高橋 保雄	埋蔵文化財
主事(文化財専門員)	田中 真理	埋蔵文化財
主事(文化財専門員)	平山 千尋	埋蔵文化財
会計年度任用職員	新井 順	弥生の丘展示館
会計年度任用職員	久住 直史	民俗文化財
会計年度任用職員	澤野 慶子	埋蔵文化財
会計年度任用職員	田中 耕作	弥生の丘展示館
会計年度任用職員	奈良 佳子	埋蔵文化財
会計年度任用職員	前山 精明	埋蔵文化財
会計年度任用職員	八藤後 智人	埋蔵文化財
歴史文化課埋蔵文化財担当		
主幹(文化財専門員)	朝岡 政康	埋蔵文化財
主査(文化財専門員)	諫山 えりか	埋蔵文化財
副主査(文化財専門員)	金田 拓也	埋蔵文化財
副主査(文化財専門員)	牧野 耕作	埋蔵文化財
主事(文化財専門員)	長谷川 眞志	埋蔵文化財
会計年度任用職員	古澤 貴子	埋蔵文化財

※ 記載している会計年度任用職員は、旧非常勤職員・旧非常勤嘱託である。



文化スポーツ部の組織機構図(令和2年度)

新潟市文化財センター年報 第9号  
—令和2（2020）年度版—

2022年3月25日印刷・発行

編集・発行 新潟市文化財センター  
〒950-1122 新潟市西区木場2748番地1  
電話 025-378-0480

印刷 株式会社ウィザップ  
〒950-0963 新潟市中央区南出来島2丁目1-25